

地域文化専攻 思想文化論

開設科目	西洋哲学思想論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	脇條靖弘				

授業の概要 哲学の特定の問題を一つ取り上げ、諸哲学者の議論を手掛りにその解決の道を探究する。 /
 検索キーワード 哲学

授業の一般目標 一つの哲学的問題について深く探究する

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： とりあげた問題とその解決の試みを理解する。 思考・判断の観点： その問題について哲学的考察を加える。

授業の計画（全体） 心の哲学、特に、「私」に心的状態を付与する場合と、「他者」に付与する場合に一見した違いの解釈について考察する。

成績評価方法（総合） レポートによる。

連絡先・オフィスアワー 人文学部 tel: 933-5222 e-mail: yasu@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	西洋哲学思想論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	脇條靖弘				

授業の概要 哲学の特定の問題を一つ取り上げ、諸哲学者の議論を手掛りにその解決の道を探究する。 /
 検索キーワード 哲学

授業の一般目標 一つの哲学的問題について深く探究する

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：とりあげた問題とその解決の試みを理解する。 思考・判断の観点：その問題について哲学的考察を加える。

授業の計画（全体） 空間、時間は実体的なのかと関係的なのか、時間と因果性の方向性等、時間空間と時間に関する諸問題のうち、一つを取り上げて講義する。

成績評価方法（総合） レポートによる。

連絡先・オフィスアワー 人文学部 tel: 933-5222 e-mail: yasu@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	西洋哲学思想論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	上枝 美典				

授業の概要 英米系分析的宗教哲学入門。キリスト教を代表とする西洋的有神論を主として分析哲学の視点から批判的に考察する。全知と人間の自由の問題、神の存在論証、信仰と理性の問題など。

授業の一般目標 西洋的有神論の基本的な議論を理解し、宗教について自ら考えていくための基礎を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：西洋的有神論および無神論の基本的な議論を理解する。 思考・判断の観点：簡単な論理学の知識を具体的な問題に適用できるようになる。 関心・意欲の観点：宗教を歴史文化の一部として捉えるための距離感を獲得する。

授業の計画（全体） 別に指定する教科書の全十二章を、一回に一章のペースで論じる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 序章 内容 受講に関する一般的な注意。宗教哲学についての概説
- 第 2 回 項目 論理実証主義の宗教批判 内容 科学と宗教の関係について
- 第 3 回 項目 宗教の心理学的解釈 内容 フロイトの宗教批判について
- 第 4 回 項目 悪の問題の論理構造 内容 悪の存在に基づく無神論について
- 第 5 回 項目 自由意志による弁護 内容 悪の問題に対する伝統的な弁護論について
- 第 6 回 項目 神の基本性質 内容 西洋的有神論における神の基本性質と自由の関係について
- 第 7 回 項目 自由と責任 内容 全知全能と人間の自由について
- 第 8 回 項目 宇宙論的論証 内容 代表的な神の存在論証について（1）
- 第 9 回 項目 目的論的論証 内容 代表的な神の存在論証について（2）
- 第 10 回 項目 存在論的論証 内容 代表的な神の存在論証について（3）
- 第 11 回 項目 信仰の倫理 内容 クリフォードによる信仰の倫理的問題点の指摘
- 第 12 回 項目 信仰という選択 内容 ジェイムズによる信仰の弁護
- 第 13 回 項目 合理性の行方 内容 信仰を現代認識論の観点から再評価する
- 第 14 回 項目 有神論と無神論 内容 ドーキンスなどの無神論について
- 第 15 回 項目 終章 内容 宗教哲学の将来へ向けて

成績評価方法（総合） レポート 7 割、出席 3 割。

教科書・参考書 教科書：「神」という謎（第二版）、上枝美典、世界思想社、2007 年

備考 集中授業

開設科目	西洋哲学思想論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	脇條靖弘				

授業の概要 古代ギリシアの哲学関連の文献を読む。 / 検索キーワード 古代ギリシア哲学

授業の一般目標 文献を正確に読み、そこに見られる哲学的議論を整理し、評価する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：文献を正確に読む。 思考・判断の観点：文献の議論を哲学的に考察する。

授業の計画（全体） 取り上げる文献は未定。

成績評価方法（総合） レポートによる。

連絡先・オフィスアワー 人文学部 tel: 933-5222 e-mail: yasu@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	西洋哲学思想論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	脇條靖弘				

授業の概要 古代ギリシアの哲学関連の文献を読む。 / 検索キーワード 古代ギリシア哲学

授業の一般目標 文献を正確に読み、そこに見られる哲学的議論を整理し、評価する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：文献を正確に読む。 思考・判断の観点：文献の議論を哲学的に考察する。

授業の計画（全体） 取り上げる文献は未定。

成績評価方法（総合） レポートによる。

連絡先・オフィスアワー 人文学部 tel: 933-5222 e-mail: yasu@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	西洋倫理思想論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	古荘真敬				

授業の概要 人間として生まれ、生き、死に逝く・・・とは、いったいどういうことなのだろうか。幾人かの論者たちによる問題提起を検討しながら、私たちの「生」と「死」をめぐる若干の原理的考察を試みたい。

授業の一般目標 生・死という観念のうちに映る私たちの現実を、哲学的に掘り下げる。そのために、「人間的な意味の秩序」と「自然の秩序」とのズレあるいは落差、ということ、そして、私 と他者たちとの共同性の問題に着目しながら、考え進めていきたい。

授業の計画（全体） 生と死をめぐる展開された幾つかの論考を紹介し、批判的に検討していく。

成績評価方法（総合） 期末レポートで評価する。

教科書・参考書 教科書：教科書は用いないが、授業中に指示する参考書を各自積極的に読解することが望ましい。

連絡先・オフィスアワー furusho@yamaguchi-u.ac.jp 水曜日 12:50 から 14:20

開設科目	西洋倫理思想論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	古荘真敬				

授業の概要 近代の西洋倫理学史における重要テキストのひとつカント『道徳形而上学の基礎づけ』(1785年)を読む。

授業の一般目標 理性の理念としての「道徳法則」に基づいて、自由、人格、義務等の諸概念を整理しながら、私たちの誰もが従うべき「定言命法」を定式化しようとするカントの考察を、テキストに即して紹介し、その要諦を解釈していく。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 . 自由、人格、義務等の諸概念に関するカントの考察の要点を理解する。 2 「定言命法」とは何かを理解する。 思考・判断の観点： 1 「道徳法則」なるものの可能性について批判的に考察する。 2 . 倫理にとって「理性」あるいは「ratio」とは何なのか、批判的に考察する。

授業の計画(全体) 課題テキストの重要部分を紹介しながら、カント的考察の道筋を再構成し、ありうべき解釈を遂行していく。

成績評価方法(総合) 期末レポートによって評価する。

教科書・参考書 参考書：『道徳形而上学原論』, カント, 岩波文庫, 1976年; 『プロレゴメナ、人倫の形而上学の基礎づけ』, カント, 中公クラシックス, 2005年

連絡先・オフィスアワー furusho@yamaguchi-u.ac.jp 水曜日 12:50 から 14:20

開設科目	西洋倫理思想論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	上野修				

授業の概要 17世紀最大の哲学者のひとりスピノザ (Baruch/Benedictus de Spinoza 1632-1677) の倫理思想について講義します。上野修『スピノザの世界 神あるいは自然』(講談社現代新書)をテキストとして用います。原典の邦訳を横に置いておくといいでしょう。『知性改善論』、『エチカ』はいずれも岩波文庫に入っています。

授業の一般目標 1. スピノザの倫理学・哲学の内容を理解すること。 2. スピノザの思想から生き方のヒントを得ること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. スピノザの思想の諸要点を理解できるようになること。 2. スピノザの考え方について人に話せるようになること。 思考・判断の観点: 1. 例示されるスピノザの文章を実際に読み、難読テキストの読解能力を養う。 2. スピノザの思想を実例として、事物を愛する実践能力を養う。

授業の計画(全体) 1. スピノザの企て(『知性改善論』) 2. 神あるいは自然(『エチカ』第一部) 3. 精神の起源(『エチカ』第二部) 4. 自由(『エチカ』第三部から第五部)

成績評価方法(総合) 授業終了後のレポートによる。

教科書・参考書 教科書: 『スピノザの世界 神あるいは自然』, 上野修, 講談社現代新書, 2005年 / 参考書: 『エチカ 倫理学(上)』, スピノザ, 岩波文庫, 1975年; 『エチカ 倫理学(下)』, スピノザ, 岩波文庫, 1975年; 『知性改善論』, スピノザ, 岩波文庫, 2000年

備考 集中授業

開設科目	西洋倫理思想論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	古荘真敬				

授業の概要 西洋の哲学・倫理思想に関する研究発表（または文献報告）と討議を行う。

授業の一般目標 哲学・倫理学の諸問題に関して、各自の問いの水準を深化し、専門的な知見にもとづく議論を構成すること。

授業の計画（全体） 毎回、担当者による発表と、受講者全員による討議を行う。

成績評価方法（総合） 授業内における発表報告により評価する。

教科書・参考書 参考書：適宜指示する。受講者の課題にふさわしいものを、その都度、選択していく。

連絡先・オフィスアワー furusho@yamaguchi-u.ac.jp 水曜日 12:50 から 14:20

開設科目	西洋倫理思想論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	古荘真敬				

授業の概要 西洋の哲学・倫理思想に関する研究発表（または文献報告）と討議を行う。

授業の一般目標 哲学・倫理学の諸問題に関して、各自の問いの水準を深化し、専門的な知見にもとづく議論を構成すること。

授業の計画（全体） 毎回、担当者による発表と、受講者全員による討議を行う。

成績評価方法（総合） 授業内における発表報告により評価する。

教科書・参考書 参考書：適宜指示する。受講者の課題にふさわしいものを、その都度、選択していく。

連絡先・オフィスアワー furusho@yamaguchi-u.ac.jp 水曜日 12:50 から 14:20

開設科目	中国哲学思想論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	高木智見				

授業の概要 時代・地域・民族という三重の意味で異文化世界に属する先秦時代を共感的追体験的に理解する。そのために、当時の儀礼や習俗を復元し、それらを支えていた観念を明らかにする。史料の面で言えば、伝来文献と出土資料を有機的に関連させて分析を進める。今年度は、戦争関連の資料、図像資料を分析して、中国における国家共同体の原像をさぐる。 / 検索キーワード 古代中国 国家共同体 金文 画像石

授業の一般目標 講義を通じて、つまり史料の解説を通じて、先秦時代というはるか彼方の世界の人々が作りあげていた社会に入り込み、実際に体験して、再び現代世界に戻ってくるといった 実感を持つことが出来るようにしたい。先秦時代は、中国文化の「核心」が形成された 時期であり、この時代に対する 十全な理解がなければ、真の意味での中国理解はできない、というのが私の考えである。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 左伝や国語などの伝来文献、金文や木竹簡などの出土文献を日常的に読むことによって、史料から何をどのように汲み取るのかということを理解する 思考・判断の観点： 構想に基づき史料を読み込み、立論していく過程を示し、研究論文作成に必要な一連の事柄を理解する 関心・意欲の観点： 思想史学、歴史学、文学、考古学のいずれの分野であろうと、古代中国の様々な事象に対して、興味を感じることができるようになる。

授業の計画(全体) 当時の人々の観念の中における社会のイメージを明らかにし、特に君主の役割、民衆との関係などに焦点を当てて、中国における国家共同体の原初的なあり方について考える。この問題についても、春秋時代以前と戦国時代以降において、その性格や様相が全く異なっていたことを確認することになると思われる。今年度は、とくに中国の図像資料研究者の研究を意識して授業を進める。

成績評価方法(総合) レポートにおけるテーマの選択、構想力、論理力などを見て、総合的に判断する

教科書・参考書 教科書： なし。プリント配布 / 参考書： 講義の中で指示

メッセージ 何を語っているのかではなく、史料をどのように読み、そこから何を語ろうとしているのか、その過程を見ていただきたい。

連絡先・オフィスアワー 人文5階 火曜日 15時から 16時

開設科目	中国哲学思想論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	高木智見				

授業の概要 前期と同じ / 検索キーワード 前期と同じ

授業の一般目標 前期と同じ

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：前期と同じ 思考・判断の観点：前期と同じ 関心・意欲の観点：前期と同じ

授業の計画（全体） 前期と同じ

成績評価方法（総合） 前期と同じ

教科書・参考書 教科書：なし プリント配布 / 参考書：講義の中で指示

メッセージ 前期と同じ

連絡先・オフィスアワー 人文棟 5 階 火曜 15 時から 16 時

開設科目	中国哲学思想論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	黄 曉芬				

授業の概要 古代中国における都城と陵墓の造営は、明確な思想的背景をもち、自然景観との調和を注意深くはかり、計画性の高い設計に基づいたものである。本授業は、考古学資料を素材に文献の考察に加えて、陰陽死生を表象する二つの神聖空間を具体的に解析し、古代中国人の世界観と創造力を探究しようとするものである。前期の授業科目は、国家形成期における大型環濠・城郭集落から周、秦、漢、唐時代の都城建設に至るまで、史的な考察に焦点をしばり、中国古代都城の特質を考える。 / 検索キーワード 陰陽死生 都城と陵墓 景観と方位 宇宙観 天・地・人・神

授業の一般目標 中国思想史の面白さと奥深さを認識することができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：中国思想史の基礎知識と概念を伝授し、モノ（遺跡・遺物）を通して理解することができる。 思考・判断の観点：人間の思想と社会を深く理解するため、歴史的感覚が不可欠であることを説明することができる。 関心・意欲の観点：現代における新旧の社会問題を考える時、なにかよいヒントを提供することができる。 技能・表現の観点：問題意識や物事の洞察力などを少しずつ身につけることができる。

授業の計画（全体） ・本授業は、古代中国における都城と陵墓の考古学資料を時代順に整理・紹介し、文献考察や史料批判を加えて、陰陽死生を表象する二つの神聖空間を具体的に描き出すとともに、それぞれの時代特徴と思想的な背景を認識し、古代中国人の世界観と創造力を探求しようとするものである。

成績評価方法（総合） レポート提出：問題意識、思考力、文章力を見て総合的に判断する。

教科書・参考書 教科書：特になし、授業時に指示する。 / 参考書：授業時のプリント配布 楊寬『中国古代制度史研究』上海古籍出版社、1993

開設科目	中国哲学思想論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	黄 晓芬				

授業の概要 古代中国における都城と陵墓の造営は、明確な思想的背景をもち、自然景観との調和を注意深くはかり、計画性の高い設計に基づいたものである。本授業は、考古学資料を素材に文献の考察に加えて、陰陽死生を表象する二つの神聖空間を具体的に解析し、古代中国人の世界観と創造力を探究しようとするものである。後期の授業科目は膨大な古代陵墓の発掘資料を総合的に考察・分析し、中国葬送儀礼の伝統と変革を史的展開を探り、中国人の他界観を考える。 / 検索キーワード 陰陽死生 宇宙観 天・地・人・神 都城と陵墓 景観と方位

授業の一般目標 中国思想史の面白さと奥深さを認識することができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：中国思想史の基礎知識と概念を伝授し、モノ（遺跡・遺物）を通して理解することができる。 思考・判断の観点：人間の思想と社会を深く理解するため、歴史的感覚が不可欠であることを説明することができる。 関心・意欲の観点：現代における新旧の社会問題を考える時、なにかよいヒントを提供することができる。 技能・表現の観点：問題意識や物事の洞察力などを少しずつ身につけることができる。

授業の計画（全体）本授業は、まず、考古学発掘資料に基づき、中国古代陵墓の地上・地下の構造、副葬品の組成や装飾墳墓の特徴について、時期列に整理・考察し、中国古代陵墓の伝統と変遷を明らかにする。続いて、文献資料の考察を加えて、古代中国人の死生観を探究しようとするものである。

成績評価方法（総合）前期と同じ

教科書・参考書 教科書：前期と同じ / 参考書：授業時のプリント配布 楊寛『中国古代陵寝制度史研究』上海古籍出版社、1985年 黄晓芬『中国古代葬制の伝統と変革』勉誠社、2000年

開設科目	中国哲学思想論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	福田 哲之				

授業の概要 上海博物館蔵戦国楚竹書(上博楚簡)は、上海博物館が1994年に香港の文物市場から購入した竹簡1200余簡からなる80余種の出土古文献の総称である。授業ではその中から儒家系文献を取り上げ、竹簡の復原や分析の方法などについて講述する。/ 検索キーワード 上海博物館蔵戦国楚竹書・戦国楚簡・孔子・論語

授業の一般目標 中国思想史研究における出土古文献の意義を理解し、戦国楚簡研究の方法を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 戦国楚簡の字体や形制について、基礎的な知識を習得する。

授業の計画(全体) 上博楚簡の概要を紹介し、儒家系文献を中心に検討を加える。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 出土古文献研究の意義
- 第2回 項目 上博楚簡の概要(1)
- 第3回 項目 上博楚簡の概要(2)
- 第4回 項目 上博楚簡の釈読と復原(1)
- 第5回 項目 上博楚簡の釈読と復原(2)
- 第6回 項目 上博楚簡の釈読と復原(3)
- 第7回 項目 『中弓』における説話の変容(1)
- 第8回 項目 『中弓』における説話の変容(2)
- 第9回 項目 『中弓』における説話の変容(3)
- 第10回 項目 『中弓』における説話の変容(4)
- 第11回 項目 『弟子問』の文献的性格(1)
- 第12回 項目 『弟子問』の文献的性格(2)
- 第13回 項目 『弟子問』の文献的性格(3)
- 第14回 項目 『弟子問』の文献的性格(4)
- 第15回 項目 出土古文献研究の課題

成績評価方法(総合) 中国思想史研究において出土古文献を扱うための基礎的知識の習得。

教科書・参考書 教科書: プリント配布 / 参考書: 文字の発見が歴史をゆるがす, 福田哲之, 二玄社, 2003年; 諸子百家 再発見, 浅野裕一・湯浅邦弘編, 岩波書店, 2004年; 竹簡が語る古代中国思想, 浅野裕一編, 汲古書院, 2005年; 古代思想史と郭店楚簡, 浅野裕一編, 汲古書院, 2005年; 上博楚簡研究, 湯浅邦弘編, 汲古書院, 2007年

備考 集中授業

開設科目	中国哲学思想論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	高木智見				

授業の概要 現代中国を代表する古代中国史家、呂思勉氏の著作・論文からその力作を選び精読する。/
 検索キーワード 古代中国、考古学、甲骨文、金文、

授業の一般目標 古代中国研究に必要な古代漢語、現代漢語の読解能力は言うまでもなく、論文作成に求められる史料解釈、史料操作、立論の方法などについての基本的知識を摂取する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：現代中国語で書かれた論文を、難読のものでも読みこなすことが出来る。 思考・判断の観点：論者の立場に立って論旨を理解した後、自分の頭でその是非を判断できるようになる。 関心・意欲の観点：中国人研究者の研究に対して、抵抗感無く接することが出来るような意欲を引き出す。

授業の計画(全体) 受講者と相談の上、適当な論文を選定して、順次読み進める。言うまでもなく、引用史料は、原典に当たって作者の理解が妥当であるか確認しつつ読む。

成績評価方法(総合) 毎回の受講態度とレポートの出来による。

教科書・参考書 教科書：プリント配布 / 参考書：その都度指示

メッセージ 正確にかつ速くよむことが求められる

連絡先・オフィスアワー 人文棟5階 火曜日15時から16時

開設科目	中国哲学思想論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	高木智見				

授業の概要 前期に同じ / 検索キーワード 前期に同じ

授業の一般目標 前期に同じ

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：前期に同じ 思考・判断の観点：前期に同じ 関心・意欲の観点：前期に同じ

授業の計画（全体） 前期に同じ

成績評価方法（総合） 前期に同じ

教科書・参考書 教科書：前期に同じ / 参考書：前期に同じ

メッセージ 前期に同じ

連絡先・オフィスアワー 人文棟 5 階 火曜日 15 時から 16 時

開設科目	日本思想論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	豊澤 一				

授業の概要 荻生徂徠の思想 古学派の儒者、荻生徂徠 (1666 ~ 1728) の思想を考察します。 / 検索
キーワード 荻生徂徠

授業の一般目標 徂徠の思想を内在的に理解しようと試みます。

授業の計画 (全体) 徂徠の諸著作を考察します。

成績評価方法 (総合) 学期末にレポートを課します (100%)。

教科書・参考書 教科書: 使用しません (適宜、複写資料を配付します) / 参考書: 授業の際に紹介します。

連絡先・オフィスアワー 研究室:人文学部棟 409 号研究室 オフィスアワー: 木曜日 12:50 ~ 14:20

開設科目	日本思想論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	柏木寧子				

授業の概要 古代・中世日本倫理思想史研究 古代・中世日本の倫理思想史における基本的文献を読み解きつつ、人とは何か、人の生の拠りどころは何か、といった問いをめぐる倫理的思索の実態を探究します。今年度は、仏法思想に関わる人間・超越の実感的理解とは基本的にどのようなものであったか、また、とくに中世、世界と人為の全体を捉えるどのような見方が仏法思想の中から生まれてきたか、考えていきます。

授業の一般目標 古代・中世日本倫理思想史について、知識・理解を深め、関心を広げること。

授業の計画（全体） 毎回具体的な文献を読み、その思想解明を試みます。受講者には、あらかじめテキストが指示されている場合にはそれを読み、問題意識を明確にして授業に臨むこと、また、授業終了時10分程度で小レポートを書き提出すること、が課せられます。なお、週単位の授業計画については初回授業時に予定をお知らせします。

成績評価方法（総合） (1) 授業内の小レポート。(2) 期末試験。なお、出席が所定の回数に満たない場合は期末試験を受けることができません。

教科書・参考書 教科書：プリントを配付します。/ 参考書：『愚管抄を読む』講談社学術文庫 1381, 大隅和雄, 講談社, 1999年; 『慈円 北畠親房』中公バックス 日本の名著 9(現在品切中), 永原慶二編, 中央公論新社, 1983年; 他の参考文献については授業中に随時紹介します。

メッセージ 注のみで現代語訳のないテキストも用います。自発性と根気をもって取り組んでください。

連絡先・オフィスアワー kashiwg@yamaguchi-u.ac.jp 人文学部 4階 410 研究室

開設科目	日本思想論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	豊澤一				

授業の概要 受講者と相談の上，講義内容を決定します。

授業の一般目標 受講者が自らの研究テーマにしたがって研鑽を積むことに、助言・指導を行います。そのことによって、受講者が修士論文を滞りなく完成させることを目標とします。

授業の計画（全体） 受講者の計画に対応します。

成績評価方法（総合） 受講者のテーマ等に応じて，適宜，対応します。一応，期末レポート 50%，出席 50%としておきます。

連絡先・オフィスアワー 大抵，研究室にありますので，電話で（あるいは e-mail で）在室を確認してからご来室ください。

開設科目	日本思想論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	豊澤一				

授業の概要 受講者と相談の上，講義内容を決定します。

授業の一般目標 受講者が自らの研究テーマにしたがって研鑽を積むことに、助言・指導を行います。そのことによって、受講者が修士論文を滞りなく完成させることを目標とします。

授業の計画（全体） 受講者の計画に対応します。

成績評価方法（総合） 受講者のテーマ等に応じて，適宜，対応します。一応，期末レポート 50 %，出席 50 %としておきます。

連絡先・オフィスアワー 大抵，研究室にありますので，電話で（あるいは e-mail で）在室を確認してからご来室ください。

開設科目	日本思想論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	柏木寧子				

授業の概要 日本思想史の諸問題 受講生の関心に従って、日本思想史における基本的文献を採り上げ、主として内在的読解に拠り、併せて関連文献・先行研究の検討も行いながら、その思想内容を具体的に解明します。 / 検索キーワード 内在的読解

授業の一般目標 日本思想史に関わる知識・理解をもち、内在的研究の方法を学び習得するとともに、自らの関心に従って問いを発見・追求すること。

授業の計画(全体) 受講者と相談の上決定します。

成績評価方法(総合) (1) 授業時間内の報告(演習)。 (2) 期末レポート。

教科書・参考書 教科書：受講者と相談の上決定します。

連絡先・オフィスアワー kashiwg@yamaguchi-u.ac.jp 人文学部4階410研究室

開設科目	日本思想論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	柏木寧子				

授業の概要 日本思想史の諸問題 受講生の関心に従って、日本思想史における基本的文献を採り上げ、主として内在的読解に拠り、併せて関連文献・先行研究の検討も行いながら、その思想内容を具体的に解明します。 / 検索キーワード 内在的読解

授業の一般目標 日本思想史に関わる知識・理解をもち、内在的研究の方法を知り習得するとともに、自らの関心に従って問いを発見・追求すること。

授業の計画(全体) 受講者と相談の上決定します。

成績評価方法(総合) (1) 授業時間内の報告(演習)。(2) 期末レポート。

教科書・参考書 教科書：受講者と相談の上決定します。

連絡先・オフィスアワー kashiwg@yamaguchi-u.ac.jp 人文学部4階410研究室

開設科目	比較宗教論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	ジュマリ・アラム				

授業の概要 前期の宗教学特殊講義は「宗教と女性」をテーマとする。次のような問いを出発点とする。シャーマン（巫女など）や呪術師・妖術師（魔女など）の担い手とされるのはなぜ女性が多いのか？なぜ「母なる大地」と呼ばれるのか？男神にはなぜ、男性の力を上回る神妃や女神が常に伴うのか？性差と宗教的な表現には、何か相関関係があるのか？男性は、女性に何の宗教的・神秘的な力を見るのか？彼らは何を恐れて女性を支配したがるのか？ / 検索キーワード 宗教、女性、ジェンダー、女神

授業の一般目標 「宗教と女性」の課題について、資料的な情報を知って考えるだけでなく、深く想像して顧みながら、その本質の体系化を試みる。最終的には、宗教学という学問分野から見た「宗教とは何か？」および「宗教と女性の関係とは？」という課題について、一定の図式と枠組みを身につけ、個々の宗教とジェンダーにまつわる現象を一定の視点をもって捉えたり分析したりできるようになることを目指す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：宗教学と「宗教学から見たジェンダー問題」に関する主要な課題について一定の理解と知識を身につけること。 思考・判断の観点：個々の宗教とジェンダー現象について、一定の視点から分析できるようになること。 関心・意欲の観点：日常生活における身近な宗教現象について関心を抱くこと。 技能・表現の観点：宗教とジェンダー現象に関する記述力を養うこと。 その他の観点：宗教とジェンダー現象を捉える感性を磨くこと。

授業の計画（全体） 授業は時間的にはぎっしり詰めて行うが、リラックスした雰囲気の中で行う。宗教とジェンダー現象を捉える論理的思考のみならず、感性とイメージの面を重視する。毎回の授業は講義方式で行い（ときには関連の映像を用いながら）、板書して解説する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション、宗教と女性（およびジェンダーと性差）の課題。
- 第 2 回 項目 女子割礼
- 第 3 回 項目 優生学と不妊手術
- 第 4 回 項目 中世の魔女狩りに見る「宗教と女性」問題
- 第 5 回 項目 「女性的宗教」の起源（女神崇拜、母なる大地、など）
- 第 6 回 項目 日本における女性シャーマン
- 第 7 回 項目 柳田国男による日本の「宗教と女性」
- 第 8 回 項目 現代日本における社会と生活から見る「宗教と女性」
- 第 9 回 項目 日本の新宗教に見る「宗教と女性」
- 第 10 回 項目 「女性性の表現」と「現代組織」の問題
- 第 11 回 項目 女性の聖性に介入する科学（人工授精、代理母・代理出産、デザイナーベビー、など）その 1
- 第 12 回 項目 女性の聖性に介入する科学（人工授精、代理母・代理出産、デザイナーベビー、など）その 2
- 第 13 回 項目 現代映画に見る女性性（女性の聖性）とジェンダー問題
- 第 14 回 項目 「宗教と女性」について総括する
- 第 15 回 項目 試験またはレポート

成績評価方法（総合） 1．出席は 10 回を単位取得の条件とする。 2．レポートを 4 回課す（4 月、5 月、6 月、7 月）。 3．学期末の試験期間中に最終回（第 5 回）のレポートを課す。

教科書・参考書 教科書：用いない。 / 参考書：参考書は授業中に適宜案内し、またはコピーを配布する。

メッセージ 授業はできるだけ体系的にわかりやすく、範囲を限定して行う。授業に出ることによって参加者が、毎回または全体として、宗教学と「宗教学から見たジェンダー問題」に関する一定の内容を吸収することを目指す。そのためには、参加者のほうも、毎回の授業に出席し、多少の予習と復習をする必要がある。

連絡先・オフィスアワー ジュマリ・アラム / 電子メール: djumali@yamaguchi-u.ac.jp / ホームページ: <http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/> 電話(研究室): 083-933-5220 / 研究室: 人文学部 413号室

開設科目	比較宗教論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	ジュマリ・アラム				

授業の概要 後期の宗教学特殊講義は「宗教と芸術」をテーマとする。次のような問いを出発点とする。およそすべての宗教的現象には芸術の要素が含まれ、またおよそすべての芸術には宗教的な要素が含まれるのはなぜなのか？宗教も芸術も、人間の心に内在する本性として、何か隠れた共通点をもっているのではないのか？それは機能なのか、実体なのか？各地の宗教と芸術はどのように、なぜ、何のために結びついているのか？宗教と芸術はどこへ、どのように、なぜ変容するのか？ / 検索キーワード 宗教、アート、芸術、美術、芸能、造形、デザイン、アポリジニ、バリ、ケルト、イコン、演劇、アニメ、放浪芸、様式、文脈

授業の一般目標 「宗教と芸術」の課題について、資料的な情報を知って考えるだけでなく、深く想像して顧みながら、その本質の体系化を試みる。最終的には、宗教学という学問分野から見た「宗教」と「芸術」とは何か、という課題について、一定の図式と枠組みを身につけ、個々の宗教と芸術現象を一定の視点をもって捉えたり分析したりできるようになることを目指す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：宗教学と「宗教学から見た芸術」に関する主要な課題について一定の理解と知識を身につけること。 思考・判断の観点：個々の宗教と芸術現象について、一定の視点から分析できるようになること。 関心・意欲の観点：日常生活における身近な宗教と芸術現象について関心を抱くこと。 技能・表現の観点：宗教と芸術現象に関する記述力を養うこと。 その他の観点：宗教と芸術現象を捉える感性を磨くこと。

授業の計画（全体） 授業は時間的にはぎっしり詰めて行うが、リラックスした雰囲気の中で行う。宗教と芸術現象を捉える論理的思考のみならず、感性とイメージの面を重視する。毎回の授業は講義方式で行い、関連の映像を用いながら、板書して解説する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション、宗教と芸術の課題
- 第 2 回 項目 宗教と芸術の結晶としての祭り
- 第 3 回 項目 宗教と芸術における「様式」と「文脈」
- 第 4 回 項目 アポリジニの宗教と芸術
- 第 5 回 項目 造形芸術における宗教性（1）
- 第 6 回 項目 造形芸術における宗教性（2）
- 第 7 回 項目 ロシア正教会におけるイコン
- 第 8 回 項目 デザイン芸術における宗教性
- 第 9 回 項目 ケルトの宗教と芸術
- 第 10 回 項目 バリの宗教と芸術
- 第 11 回 項目 ジャワのワヤン劇における宗教性
- 第 12 回 項目 歌舞伎における宗教性
- 第 13 回 項目 演劇と宗教、放浪芸における宗教性
- 第 14 回 項目 現代アニメの宗教性
- 第 15 回 項目 試験またはレポート

成績評価方法（総合） 1．出席は10回を単位取得の条件とする。 2．レポートを4回課す（10月、11月、12月、1月）。 3．学期末の試験期間中に最終回（第5回）のレポートを課す。

教科書・参考書 教科書：用いない。 / 参考書：参考書は授業中に適宜案内し、またはコピーを配布する。

メッセージ 授業はできるだけ体系的にわかりやすく、範囲を限定して行う。授業に出ることによって参加者が、毎回または全体として、宗教学と「宗教学から見た芸術」に関する一定の内容を吸収することを目指す。そのためには、参加者のほうも、毎回の授業に出席し、多少の予習と復習をする必要がある。

連絡先・オフィスアワー ジュマリ・アラム / 電子メール: djumali@yamaguchi-u.ac.jp / ホーム
ページ: <http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/> 電話(研究室): 083-933-5220 / 研究室: 人文学部
413号室

開設科目	比較宗教論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	川瀬 貴也				

授業の概要 現代社会はいわゆる既成宗教の力が衰退したといわれて久しいが、実は「心理療法(psychotherapy)」や「精神分析 psychoanalysis (的な知)」にその「面影」が見て取れる。この講義では、いわゆる「宗教」と心理学/精神分析の類似点、相違点、その歴史的淵源などを調べつつ、現在の我々を囲む「心理学化する社会」をリフレクシヴに考察する端緒としていきたい。/ 検索キーワード 宗教、心理学、精神分析、セラピー、癒し

授業の一般目標 近代～現代社会における「宗教」と「精神分析(的な知)」のありかたを理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 授業で取り扱う概念や思想史的できごとの把握。

授業の計画(全体) この講義では、宗教が担っていた役割がだんだん心理療法・精神分析に委譲されてきたという視点から、それぞれの相違点・類似点、その歴史的淵源などを調べつつ、現在の我々を囲繞する「心理療法 = 宗教」融合的な世界観を考察していきたい。また、一方で「マインド・コントロール」と呼ばれるものが「宗教(カルト)」を説明する際に用いられている。心理学的な見地からの「宗教」の意味付けについても考察していきたいと思っている。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 精神分析前史
- 第 2 回 項目 メスメリズム
- 第 3 回 項目 フロイト
- 第 4 回 項目 ユング
- 第 5 回 項目 集合的無意識と神話
- 第 6 回 項目 司牧型権力
- 第 7 回 項目 認知的不協和理論
- 第 8 回 項目 マインドコントロール
- 第 9 回 項目 トラウマ理論
- 第 10 回 項目 癒し・ヒーリング
- 第 11 回 項目 スピリチュアリティ
- 第 12 回 項目 セラピー文化
- 第 13 回 項目 カルト問題
- 第 14 回 項目 心理療法と「宗教」
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法 (総合) 期末レポート

教科書・参考書 教科書： プリントを配布 / 参考書： 『西欧精神医学背景史』, 中井久夫, みすず書房, 1999 年

連絡先・オフィスアワー t-kawase@kpu.ac.jp

備考 集中授業

開設科目	比較宗教論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	ジュマリ・アラム				

授業の概要 この演習は、宗教研究に関する論文を作成するための、ガイダンスと相互の情報交換・ディスカッションを主な内容とする。テーマの選定から論文の作成に至るまでの各段階において、順番にプレゼンテーションを行う。 / 検索キーワード 宗教、宗教学、記述、説明、資料、比較研究、研究方法、方法論

授業の一般目標 宗教研究に関する論文の作成とプレゼンテーションの実践練習を行い、研究内容の充実と高度化を図る。

授業の到達目標 / **知識・理解の観点**：宗教学に関する主要な課題について一定の理解と知識を身につけること。 **思考・判断の観点**：個々の宗教現象について、一定の視点から分析できるようになること。

関心・意欲の観点：日常生活の中の身近な宗教現象について関心を抱くこと。 **態度の観点**：宗教に関するいろいろな課題について積極的に知ろうとすること。 **技能・表現の観点**：宗教学の理論・学説および宗教現象に関する記述力を養うこと。 **その他の観点**：宗教現象を捉える感性を磨くこと。

授業の計画 (全体) 毎回の授業(初回と最終回は多少異なる)は、次のようなかたちで進める(多少の工夫や変更はありうる)。(1)当日のテーマのプレゼンテーション、コメント、ディスカッション。(2)次回テーマのプロポーサルの発表・紹介。

教科書・参考書 教科書：使用しない。 / 参考書：テーマに沿って、適宜案内する。

連絡先・オフィスアワー ジュマリ・アラム / 電子メール：djumali@yamaguchi-u.ac.jp / ホームページ：<http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/> / 電話(研究室)：083-933-5220 / 研究室：人文学部 413 号室

開設科目	比較宗教論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	ジュマリ・アラム				

授業の概要 この演習は、宗教研究に関する論文を作成するための、ガイダンスと相互の情報交換・ディスカッションを主な内容とする。テーマの選定から論文の作成に至るまでの各段階において、順番にプレゼンテーションを行う。/ 検索キーワード 宗教、宗教学、記述、説明、資料、比較研究、研究方法、方法論

授業の一般目標 宗教研究に関する論文の作成とプレゼンテーションの実践練習を行い、研究内容の充実と高度化を図る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：宗教学に関する主要な課題について一定の理解と知識を身につけること。 思考・判断の観点：個々の宗教現象について、一定の視点から分析できるようになること。

関心・意欲の観点：日常生活の中の身近な宗教現象について関心を抱くこと。 態度の観点：宗教に関するいろいろな課題について積極的に知ろうとすること。 技能・表現の観点：宗教学の理論・学説および宗教現象に関する記述力を養うこと。 その他の観点：宗教現象を捉える感性を磨くこと。

授業の計画 (全体) 毎回の授業(初回と最終回は多少異なる)は、次のようなかたちで進める(多少の工夫や変更はありうる)。(1)当日のテーマのプレゼンテーション、コメント、ディスカッション。(2)次回テーマのプロポーサルの発表・紹介。

教科書・参考書 教科書：使用しない。/ 参考書：テーマに沿って、適宜案内する。

連絡先・オフィスアワー ジュマリ・アラム / 電子メール：djumali@yamaguchi-u.ac.jp / ホームページ：<http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/> / 電話(研究室)：083-933-5220 / 研究室：人文学部 413 号室

地域文化専攻 歴史文化論

開設科目	日本歴史文化論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	橋本義則				

授業の概要 日本の古代宮都（宮殿と都城）は律令を基本とした日本における古代統一国家の首都である。そしてその構造は古代国家の政治体制を直接的に反映していると考えられる。それゆえに宮都の構造上の変化は古代国家の政治体制、さらに国家自身の変化をも意味することになる。本授業では、このような観点のもと、飛鳥時代から平安時代の宮都をめぐる諸問題を具体的に取り上げて古代宮都の実態をできうる限り明らかにするとともに、さらに日本の古代についても考えを及ぼしてみたい。今学期は特に宮都に関わる様々な観点から述べることにする。／検索キーワード 日本古代史、宮都、複都制、平城宮、平城京、恭仁宮、難波宮、甲賀宮、保良宮、由義宮、文献史料、遺跡、遺構

授業の一般目標 宮都の歴史的展開過程を理解することを通じて、日本古代の歴史を再確認するとともに、研究上の常識や通説を疑い学問・研究する姿勢を養う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：授業で講じられた、奈良時代の宮都個々について正確に説明できる。思考・判断の観点：授業で講じられた、奈良時代の宮都の変遷について歴史的観点から論理的に説明できる。関心・意欲の観点：歴史及び歴史学への興味・関心をいただく。態度の観点：学問上の常識や通説を疑う姿勢を養う。技能・表現の観点：正しい日本語（書き言葉）で自分の意見を論理的に表現できる。

授業の計画（全体） 日本の古代宮都（宮殿と都城）は律令を基本とした日本における古代統一国家の首都である。そしてその構造は古代国家の政治体制を直接的に反映していると考えられる。それゆえに宮都の構造上の変化は古代国家の政治体制、さらに国家自身の変化をも意味することになる。本授業では、このような観点のもと、飛鳥時代から平安時代の宮都をめぐる諸問題を具体的に取り上げて古代宮都の実態をできうる限り明らかにするとともに、さらに日本の古代についても考えを及ぼしてみたい。今学期は特に平城宮と平城京を中心に奈良時代の宮都について述べることにする。

成績評価方法（総合） 1．学期末にレポートを提出する。2．レポートの分量と内容については別途指示する。

教科書・参考書 参考書：授業中に適宜指摘する。

メッセージ 日本史概説を受講し、飛鳥・奈良・平安の各時代についてやや詳しい知識をもっていることが望ましい。また受講のためにノートパソコンが必携である。

連絡先・オフィスアワー y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー：一応、月・木の5時40分～6時40分、しかし時間のあるときはいつでも

開設科目	日本歴史文化論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	橋本義則				

授業の概要 日本古代の喪葬儀礼や喪葬に関わる制度については、考古学や民族学の調査・研究成果を踏まえつつ、主として所謂大化前代を対象に研究が行われ、多くの成果を上げてきました。しかし律令を基本とした古代国家が成立した 8 世紀以降の喪葬に関する研究はまだ少なく、またそれらの研究は極めて不十分なものでしかないと思われます。本講義では、このような研究の現状に鑑み、まず 8 世紀の喪葬の具体的な様相について貴族階級を対象をおいてできる限り明かにし、次いで律令国家の喪葬政策やそれをめぐる政治・社会状況を考えることにしたいと思います。そしてこれらの検討を通じて律令国家の喪葬に対する政策の意図やその変化、さらにそれを推し進め、貴族社会の変化などについても考えてみたいと思っています。昨年度は喪葬のうち「葬」について話しました。本年度は引き続き「葬」について、特に墓と墓地の問題について宮都毎に話します。 / 検索キーワード 日本古代史、貴族社会、喪葬、墳墓

授業の一般目標 日本古代の喪葬儀礼や喪葬に関わる制度とその成立の経緯を理解することを通じて、日本古代の貴族社会について理解を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 古代の喪葬制度とその背景にある政治・社会状況を説明できる。

思考・判断の観点： 史料や資料を用いて、古代貴族社会の実態を論理的に解釈する能力を身につける。

関心・意欲の観点： 古代貴族社会に関心・興味を抱く。 **態度の観点：** 学問上の常識や通説を疑う姿勢を養う。 **技能・表現の観点：** 1, 古代の史料・資料を博捜し、正しく解釈できる。2, 正しい日本語(書き言葉)で自分の意見を論理的に表現できる。

授業の計画(全体) 日本古代の喪葬儀礼や喪葬に関わる制度については、考古学や民族学の調査・研究成果を踏まえつつ、主として所謂大化前代を対象に研究が行われ、多くの成果を上げてきました。しかし律令を基本とした古代国家が成立した 8 世紀以降の喪葬に関する研究はまだ少なく、またそれらの研究は極めて不十分なものでしかないと思われます。本講義では、このような研究の現状に鑑み、まず 8 世紀の喪葬の具体的な様相について貴族階級を対象をおいてできる限り明かにし、次いで律令国家の喪葬政策やそれをめぐる政治・社会状況を考えることにしたいと思います。そしてこれらの検討を通じて律令国家の喪葬に対する政策の意図やその変化、さらにそれを推し進め、貴族社会の変化などについても考えてみたいと思っています。

成績評価方法(総合) 1 . 学期末にレポートを提出する。 2 . レポートの分量と内容については別途指示する。

教科書・参考書 参考書： 授業中に適宜指摘する。

メッセージ 日本史概説を受講し、飛鳥・奈良・平安の各時代について詳しい知識をもっていることが望ましい。また受講のためにノートパソコンが必携である。

連絡先・オフィスアワー y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部 3 階 オフィスアワー：一応、月・木の 5 時 4 0 分～ 6 時 4 0 分、しかし時間のあるときはいつでも

開設科目	日本歴史文化論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	真木隆行				

授業の概要 講義題目「中世の大内氏権力と寺社(仮)」 室町戦国期の大内氏は、山口を本拠とし、中国地方の西部から九州地方の北部にわたる諸国の守護となって、一大勢力を誇った。こうした守護権力は、分国内外の寺社とどのように関係したか。やがて戦乱が激しくなると、それらの関係はどのように変化したか。これらの問題について、史料を読みすすめながら検討したい。

授業の一般目標 (1) 当該問題について理解を深める。(2) 歴史学の研究方法の一端を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 基本的な事実関係や諸論点について理解する。 思考・判断の観点： 史料・先行研究・通説・講義内容、これらを独自の視点で捉え直し、自分なりの見解を導き出す。

関心・意欲の観点： 関心あるテーマに即してとことん問題を掘り下げる。 技能・表現の観点： 自分なりの見解を論理的にとりまとめて論述できる。

授業の計画(全体) 序論 中世の政治権力と宗教、(1)大内氏の氏寺氏神と菩提寺群、(2)大内氏とその分国内寺社、(3)大内氏と周防国国衙領、(4)15世紀後半における大内氏と寺社、(5)16世紀における大内氏と寺社、むすびにかえて

成績評価方法(総合) 出席状況、授業内コメント票の記入内容、定期試験、以上から総合的見地に立って評価する。

教科書・参考書 教科書： プリントを配布する。

開設科目	日本歴史文化論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	真木隆行				

授業の概要 講義題目「治承寿永の内乱と寺社勢力(仮)」前年度は、平安時代末期における寺社勢力の動向に関して、保元の乱以降、鹿ヶ谷事件までの時期を中心に検討した。そこで今年度はこれにひきつづき、「治承寿永の内乱」(いわゆる源平合戦)の時期における寺社勢力の動向について検討したい。

授業の一般目標 (1) 当該問題について理解を深める。(2) 歴史学の研究方法の一端を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 基本的な事実関係や諸論点について理解する。 思考・判断の観点： 史料・先行研究・通説・講義内容、これらを独自の視点で捉え直し、自分なりの見解を導き出す。

関心・意欲の観点： 関心あるテーマに即してとことん問題を掘り下げる。 技能・表現の観点： 自分なりの見解を論理的にとりまとめて論述できる。

授業の計画(全体) 序論、(1) 以仁王の乱と寺社勢力、(2) 福原遷都と寺社勢力、(3) 平氏政権による大寺院焼討ち、(4) 源義仲と寺社勢力、(5) 源頼朝と寺社勢力、むすびにかえて、

成績評価方法(総合) 出席状況、授業内コメント票の記入内容、定期試験、以上から総合的見地に立って評価する。

教科書・参考書 教科書： プリントを配布する。

開設科目	日本歴史文化論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	藤田達生				

授業の概要 【日本中・近世移行期の国家と権力】 室町幕府崩壊期から江戸幕府成立期までの国家の変容を論じ、通説的見解を再検討する。 / 検索キーワード 天下思想・本能寺の変・惣無事令・幕藩体制

授業の一般目標 【歴史学研究の意義について議論する】 織田信長・豊臣秀吉・徳川家康のめざした国家像を良質の史料をもとに検討しながら、歴史学研究の魅力を感じとる。

授業の計画(全体) 国家統合と地域分権をテーマとする。具体的には、(1) 信長の天下思想の意義 (2) 秀吉の「惣無事令」批判 (3) 「藩」成立論 について論じる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 織田信長論 室町幕府・守護体制と環伊勢海地域(1)
- 第 2 回 項目 織田信長論 - 思想家として(2)
- 第 3 回 項目 織田信長論 - 思想家として(3)
- 第 4 回 項目 織田信長論 - 本能寺の変(4)
- 第 5 回 項目 室町幕府 - 本能寺の変(5)
- 第 6 回 項目 豊臣秀吉論 秀吉神話(1)
- 第 7 回 項目 豊臣秀吉論 秀吉神話(2)
- 第 8 回 項目 豊臣秀吉論 「惣無事令」批判(3)
- 第 9 回 項目 豊臣秀吉論 「惣無事令」批判(4)
- 第 10 回 項目 豊臣秀吉論 「惣無事令」批判(5)
- 第 11 回 項目 幕藩体制成立史論 幕府成立過程(1)
- 第 12 回 項目 幕藩体制成立史論 幕府成立過程(2)
- 第 13 回 項目 幕藩体制成立史論 「藩」の歴史的意義(3)
- 第 14 回 項目 幕藩体制成立史論 「藩」の歴史的意義(4)
- 第 15 回 項目 幕藩体制成立史論 「藩」の歴史的意義(5)

成績評価方法(総合) 出席と試験とで評価する。

教科書・参考書 教科書：『江戸時代の設計者』、藤田達生、講談社、2006年；『秀吉神話をくつがえす』、藤田達生、講談社、2007年 / 参考書：『日本中・近世移行期の地域構造』、藤田達生、校倉書房、2000年；『日本近世国家成立史の研究』、藤田達生、校倉書房、2001年

メッセージ あらかじめ教科書を読んでいただきたい。

備考 集中授業

開設科目	日本歴史文化論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	田中誠二				

授業の概要 「萩藩前期の藩財政と山代紙」について講義を行う。まず、17世紀前半期と後半期の萩藩財政について、概要を説明する。ついで、17世紀萩藩財政のなかでの山代紙の位置づけを行い、当該期の山代請紙制を藩財政の観点から具体的に明らかにしていく。/検索キーワード 萩藩・藩財政・山代紙

授業の一般目標 1.萩藩財政の構造的理解を目指す。2.山代請紙制を藩財政の観点から具体的に明らかにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：1.藩財政の主要要素を具体的に理解する。2.藩内主要産業の一つである山代紙を藩財政の観点から理解する。思考・判断の観点：1.藩財政の主要要素間の連関の仕方を考える。2.藩財政と領国経済の関係の仕方を考える。技能・表現の観点：授業で理解したこと、考えたことを的確に表現することができる。

授業の計画(全体) 「萩藩前期藩財政と山代紙」という主題で授業を行う。まず、17世紀の萩藩財政の概要を説明し、ついで、当該期藩財政のなかでの山代紙を位置づけ、藩財政の観点から山代請紙制を具体的に明らかにしていく。

成績評価方法(総合) 学期末に試験にかえてレポートを提出し、その内容によって評価する。

教科書・参考書 参考書：史料レジュメを適宜配布する。

連絡先・オフィスアワー 月曜と金曜の昼休み。

開設科目	日本歴史文化論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	水本 邦彦				

授業の概要 日本近世史のうち社会経済史の集中講義を行う(予定)。

授業の一般目標 日本近世社会の特質を具体的に理解する。

成績評価方法(総合) 試験によって評価を行う。

備考 集中授業

開設科目	日本歴史文化論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	田中誠二				

授業の概要 「日本歴史文化論演習」: 受講者の課題に近い原史料の写真版をテキストに、史料を精読していく。また、受講者の課題に基づく発表を行い、討論をして内容を深める機会も適宜織り込む。 / 検索キーワード 日本近世史、歴史学、演習

授業の一般目標 1 . 近世史料の内難度の高いものが読解できる。 2 . 自分の主題について、史料に基づき論を立てることができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1 . 難度の高いくずし字の史料が読解できる。 2 . 自分の主題に関する研究史の整理が的確にできる。 思考・判断の観点: 1 . 史料を用いての論証が精密にできる。 2 . 自分の主題をオリジナリティーをもった論として立てることができる。 技能・表現の観点: 1 . 自分の見解を論理的に文章で表現できる。

授業の計画(全体) 受講者の課題に近い原史料の写真版を用いて、精読していく。また、受講者の課題に基づく報告を行い、討論をして内容を深める機会を適宜もうける。

成績評価方法(総合) 定期試験にかえてレポートを提出させ、その内容によって成績評価を行う。レポートは、400字詰15枚以上。

教科書・参考書 教科書: 特になし。適宜レジュメ・資料を配付する。

連絡先・オフィスアワー オフィスアワー月曜・金曜昼休み。

開設科目	日本歴史文化論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	田中誠二				

授業の概要 前期と同様。 / 検索キーワード 日本近世史、歴史学、演習

授業の一般目標 前期と同様

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：前期と同様 思考・判断の観点：前期と同様 技能・表現の観点：前期と同様

授業の計画（全体） 前期と同様

成績評価方法（総合） 前期と同様

教科書・参考書 教科書：前期と同様

連絡先・オフィスアワー 前期と同様

開設科目	日本歴史文化論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	橋本義則				

授業の概要 受講生は自らが関心を持つ日本古代史上の種々のテーマについて、具体的な史料を用いながら調査・研究を進め、毎々その成果を報告してもらいます。報告終了後、まず提示された史料解釈の妥当性を中心にして検討を行い、さらにその研究史上における問題や論理の展開などについて討議、検討を加えます。この過程を通じてよりよい修士論文の作成を目指したいと考えています。 / 検索キーワード よりよい修士論文の作成を目指す。

授業の一般目標 受講生は自らが関心を持つ日本古代史上の種々のテーマについて、具体的な史料を用いながら調査・研究を進め、毎々その成果を報告してもらいます。報告終了後、まず提示された史料解釈の妥当性を中心にして検討を行い、さらにその研究史上における問題や論理の展開などについて討議、検討を加えます。この過程を通じてよりよい修士論文の作成を目指したいと考えています。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 修士論文作成に必要な日本古代史の高度な知識を獲得する。 思考・判断の観点： 修士論文作成に必要な論理的考察力を獲得する。 関心・意欲の観点： 修士論文作成に当たり、自らの興味・関心に基づいて、問題を設定する力をつける。 態度の観点： 修士論文の作成を通じて、自ら学問上の常識や通説を疑い、解決する姿勢を養う。 技能・表現の観点： 1, 論文作成に必要な史料を正確に解釈できる。 2, 正しい日本語（書き言葉）で自分の意見を論理的に表現できる。

授業の計画（全体） 受講生は自らが関心を持つ日本古代史上の種々のテーマについて、具体的な史料を用いながら調査・研究を進め、毎々その成果を報告してもらいます。報告終了後、まず提示された史料解釈の妥当性を中心にして検討を行い、さらにその研究史上における問題や論理の展開などについて討議、検討を加えます。この過程を通じてよりよい修士論文の作成を目指したいと考えています。

成績評価方法（総合） 1 . 学期末に半期かかって報告した研究内容についてレポートを提出する。 2 . レポートの分量については別途指示する。

教科書・参考書 教科書： なし / 参考書： なし

メッセージ 本授業では授業時に受講生全員がパソコンを持ち込み、使用することが必須とされる。また毎回の研究報告発表者はあらかじめワープロソフト（ワード）を用いて報告に必要な配布資料を作成し、授業時に教官および受講生全員に資料をワードのファイルで配布することが義務付けられます。また資料の作成に当たってはスキャナーなどの周辺機器の活用も必要とされる。

連絡先・オフィスアワー y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー：一応、月・火の5時40分～6時40分、しかし時間のあるときはいつでも

開設科目	日本歴史文化論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	橋本義則				

授業の概要 受講生は自らが関心を持つ日本古代史上の種々のテーマについて、具体的な史料を用いながら調査・研究を進め、毎々その成果を報告してもらいます。報告終了後、まず提示された史料解釈の妥当性を中心にして検討を行い、さらにその研究史上における問題や論理の展開などについて討議、検討を加えます。この過程を通じてよりよい修士論文の作成を目指したいと考えています。 / 検索キーワード よりよい修士論文の作成を目指す。

授業の一般目標 受講生は自らが関心を持つ日本古代史上の種々のテーマについて、具体的な史料を用いながら調査・研究を進め、毎々その成果を報告してもらいます。報告終了後、まず提示された史料解釈の妥当性を中心にして検討を行い、さらにその研究史上における問題や論理の展開などについて討議、検討を加えます。この過程を通じてよりよい修士論文の作成を目指したいと考えています。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 修士論文作成に必要な日本古代史の高度な知識を獲得する。 **思考・判断の観点：** 修士論文作成に必要な論理的考察力を獲得する。 **関心・意欲の観点：** 修士論文作成に当たり、自らの興味・関心に基づいて、問題を設定する力をつける。 **態度の観点：** 修士論文の作成を通じて、自ら学問上の常識や通説を疑い、解決する姿勢を養う。 **技能・表現の観点：** 1, 論文作成に必要な史料を正確に解釈できる。 2, 正しい日本語（書き言葉）で自分の意見を論理的に表現できる。

授業の計画（全体） 受講生は自らが関心を持つ日本古代史上の種々のテーマについて、具体的な史料を用いながら調査・研究を進め、毎々その成果を報告してもらいます。報告終了後、まず提示された史料解釈の妥当性を中心にして検討を行い、さらにその研究史上における問題や論理の展開などについて討議、検討を加えます。この過程を通じてよりよい修士論文の作成を目指したいと考えています。

成績評価方法（総合） 1 . 学期末に半期かかって報告した研究内容についてレポートを提出する。 2 . レポートの分量については別途指示する。

教科書・参考書 教科書： なし / 参考書： なし

メッセージ 本授業では授業時に受講生全員がパソコンを持ち込み、使用することが必須とされる。また毎回の研究報告発表者はあらかじめワープロソフト（ワード）を用いて報告に必要な配布資料を作成し、授業時に教官および受講生全員に資料をワードのファイルで配布することが義務付けられます。また資料の作成に当たってはスキャナーなどの周辺機器の活用も必要とされる。

連絡先・オフィスアワー y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー：一応、月・火の5時40分～6時40分、しかし時間のあるときはいつでも

開設科目	日本歴史文化論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	真木隆行				

授業の概要 日本中世史を専攻する修士課程の大学院生を対象とし、修士論文の作成に向けた指導を行う。
受講者と相談しながら史料を選び、これを輪読するとともに、受講者自身の研究成果報告をおこなう。

授業の一般目標 修士論文作成につながるような研究成果を重ねる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： (1) 関係史料や先行研究について把握する。(2) 関心ある事象の時代背景を把握する。 思考・判断の観点： 史料・先行研究・通説などを独自の視点で捉え直し、自分なりの見解を導き出す。 関心・意欲の観点： 関心あるテーマを見つけ、とことん問題を掘り下げる。
態度の観点： 一研究者としての専門家意識を持つ。 技能・表現の観点： 自分なりの見解を論理的にとりまとめ、よりよい報告や論述ができる。

授業の計画(全体) 各自が設定した修士論文のテーマを掘り下げ、研究報告を行う。

成績評価方法(総合) 演習時間内の報告内容と、提出レポートで評価する。

メッセージ いい修士論文を読ませてください。

連絡先・オフィスアワー ご来訪ご質問は、いつでも歓迎する。

開設科目	日本歴史文化論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	真木隆行				

授業の概要 日本中世史を専攻する修士課程の大学院生を対象とし、修士論文の作成に向けた指導を行う。
受講者と相談しながら史料を選び、これを輪読するとともに、受講者自身の研究成果報告をおこなう。

授業の一般目標 修士論文作成につながるような研究成果を重ねる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：(1) 関係史料や先行研究について把握する。(2) 関心ある事象の時代背景を把握する。 思考・判断の観点：史料・先行研究・通説などを独自の視点で捉え直し、自分なりの見解を導き出す。 関心・意欲の観点：関心あるテーマを見つけ、とことん問題を掘り下げる。
態度の観点：一研究者としての専門家意識を持つ。 技能・表現の観点：自分なりの見解を論理的にとりまとめ、よりよい報告や論述ができる。

授業の計画(全体) 各自が設定した修士論文のテーマを掘り下げ、研究報告を行う。

成績評価方法(総合) 演習時間内の報告内容と、提出レポートで評価する。

メッセージ いい修士論文を読ませてください。

連絡先・オフィスアワー ご来訪ご質問は、いつでも歓迎する。

開設科目	中国歴史文化論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	馬彪				

授業の概要 百年以来中国古代の秦漢時代(BC.220 ~ AD.220)の出土文字資料 簡牘を大量に発見してきたので、本講義は秦漢時代の簡牘と伝世文献に見る秦漢史について紹介したいものである。 / 検索キーワード 出土文字

授業の一般目標 出土文字の研究によって、21世紀における中国史研究の先端動態を説明できる目標である。

授業の計画(全体) まず、簡牘史学の形成と特性を説明し、その後具体的な実例を説明する。

成績評価方法(総合) 成績評価は基本的に、出席(30%)と試験(70%)で行う。

開設科目	中国歴史文化論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	馬彪				

授業の概要 百年以来中国古代の秦漢時代(BC.220 ~ AD.220)の出土文字資料 簡牘を大量に発見してきたので、本講義は秦漢時代の簡牘と伝世文献に見る秦漢史について紹介したいものである。 / 検索キーワード 出土文字

授業の一般目標 出土文字の研究によって、21世紀における中国史研究の先端動態を説明できる目標である。

開設科目	中国歴史文化論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	滝野正二郎				

授業の概要 前年度に引き続き清代常関をめぐる商品流通を分析し、常関という定点から見た商品流通について明らかにする。今年度は長江中流域を中心とする。 / 検索キーワード 常関、徴税報告、商品流通、米、内陸 沿岸間の商品流通、内陸地域の発展

授業の一般目標 (1) 清代の商品流通について一応の知識を得る。(2) 清代における長江の中流域の発展について知識を得る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 清代の商品流通について一応の知識を得る。 清代における長江の中流域の発展について知識を得る。 思考・判断の観点： 清代中後期における長江流域の発展について史料に基づいて考える。

授業の計画(全体) 長江中流域を中心して清代常関をめぐる商品流通を分析し、常関という定点から見た商品流通について検討していく。

成績評価方法(総合) 学期末に提出するレポートによって評価する。

教科書・参考書 教科書： なし。授業中にプリントを配布する。 / 参考書： 清代史の研究, 安倍健夫, 創文社, 1971 年 ; 清代の市場構造と経済政策, 山本進, 名古屋大学出版会, 2002 年

メッセージ 漢文史料を紹介しつつ授業を進めるので、漢文史料に興味のある学生の聴講を 望む。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 517、内線 5229、E-mail:stakino@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：木曜日 5/6 時限

開設科目	中国歴史文化論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	森川哲雄				

授業の概要 「14～18世紀のモンゴル史の諸問題」モンゴル帝国崩壊後、18世紀までのモンゴリアを中心とした政治、歴史、文化について講義する。/ 検索キーワード モンゴル帝国、大元、チベット仏教、夷俗記、モンゴル年代記

授業の一般目標 アジアの東部地域の歴史を考察するときには一般的に中国を中心にして記すことが多いが、それと隣接しながら全く価値観の異なる世界であり、また、世界史の上でも大きな意義を持ったモンゴル世界の歴史的意味について理解をはかる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：前近代のモンゴリアの様々な様相について理解を得る。 思考・判断の観点：多様な価値観を持つ世界が存在することを理解する。

授業の計画(全体) モンゴル帝国崩壊後、18世紀までのモンゴリアを中心とした政治、歴史、文化について講義する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに 内容 世界史におけるモンゴル帝国の意義
- 第 2 回 項目 モンゴル帝国継承国家論(1) 内容 モンゴル帝国崩壊後の中央ユーラシア世界の歴史(14～17世紀)
- 第 3 回 項目 モンゴル帝国継承国家論(2) 内容 中央ユーラシア世界の歴史(18～20世紀)
- 第 4 回 項目 「大元」の継承(1) 内容 14～17世紀のモンゴル政権と「大元」の問題(1)
- 第 5 回 項目 「大元」の継承(2) 内容 14～17世紀のモンゴル政権と「大元」の問題(2)
- 第 6 回 項目 チベット仏教とモンゴル文化 内容 チベット仏教の再流入とモンゴルの文化について
- 第 7 回 項目 17世紀のモンゴル人の生活 内容 肖大亨『夷俗記』の記述
- 第 8 回 項目 17世紀のモンゴル人の風俗 内容 肖大亨『夷俗記』の記述
- 第 9 回 項目 清朝のモンゴル支配(1) 内容 17～18世紀のモンゴリアの再編
- 第 10 回 項目 清朝のモンゴル支配(2) 内容 清朝のモンゴル支配の浸透
- 第 11 回 項目 モンゴル年代記(1) 内容 モンゴル年代記の概要
- 第 12 回 項目 モンゴル年代記(2) 内容 モンゴル年代記の内容
- 第 13 回 項目 モンゴルから見た中華世界(1) 内容 「北アジア世界」の位置
- 第 14 回 項目 モンゴルから見た中華世界(2) 内容 モンゴル人は中華世界をどのように認識していたか
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 講義の内容をまとめる。

成績評価方法(総合) 授業終了後にレポートを課す。

教科書・参考書 教科書：授業中にプリントを配布する。/ 参考書：ロシアとアジア草原, 佐口透, 吉川弘文館, 1966年; 世界史の誕生, 岡田英弘, 筑摩書房, 1992年; 世界史歴史大系 中国史4 明・清, 神田信夫編, 山川出版社, 1999年; 中央ユーラシア史, 小松久男編, 山川出版社, 2000年; モンゴルの歴史, 宮脇淳子, 刀水書房, 2002年; モンゴル年代記, 森川哲雄, 白帝社, 2007年 他

備考 集中授業

開設科目	中国歴史文化論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	馬彪				

授業の概要 『龍崗秦簡』をテキストとして、簡牘学の知識を勉強しながら、院生自身が原始写真を参照して、古代文字の資料を読み、発表、討論を行う演習で構成される。

授業の一般目標 院生に出土文字資料を読ませて、一層研究の能力を養成することを目標とする。

成績評価方法 (総合) レポート。

教科書・参考書 教科書：『龍崗秦簡』, 整理小組, 中華書局, 2002 年

開設科目	中国歴史文化論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	馬彪				

授業の概要 『龍崗秦簡』をテキストとして、簡牘学の知識を勉強しながら、院生自身が原始写真を参照して、古代文字の資料を読み、発表、討論を行う演習で構成される。

授業の一般目標 院生に出土文字資料を読ませて、一層研究の能力を養成することを目標とする。

成績評価方法 (総合) レポート。

教科書・参考書 教科書：龍崗秦簡, 整理小組, 中華書局, 2002 年

開設科目	中国歴史文化論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	滝野正二郎				

授業の概要 テーマ：中国史史料の研究 受講生の研究に関する史料を読み、そこから受講生が担当者とともに議論して当該時代の歴史像を構築する。 / 検索キーワード 中国、史料、読解、時代像

授業の一般目標 史料を読解し、そこから当該時代の歴史像を構築する力を獲得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：中国史料に関する基礎的な知識を獲得する。 思考・判断の観点：史料から歴史像を考える。 関心・意欲の観点：歴史に関心を持ち、史料そのものから歴史像を構築する意欲を持つ。 態度の観点：史料から歴史を考える態度を持つ。 技能・表現の観点：中国史料を操作する基本的技能を獲得する。

授業の計画（全体） 受講生の研究に関する史料を受講生が分担して読み、そこから受講生が担当者とともに議論して当該時代の歴史像を構築する。

成績評価方法（総合） 授業における発表と期末レポートで成績を評価する。

教科書・参考書 教科書：受講者との相談によって決定する。 / 参考書：その都度紹介する。

メッセージ 受講生は学期途中で、受講を取りやめないこと。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 517、内線 5229、E-mail:stakino@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：木曜日 5/6 時限

開設科目	中国歴史文化論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	滝野正二郎				

授業の概要 テーマ：中国史史料の研究 受講生の研究に関する史料を読み、そこから受講生が担当者とともに議論して当該時代の歴史像を構築する。 / 検索キーワード 中国、史料、読解、時代像

授業の一般目標 史料を読解し、そこから当該時代の歴史像を構築する力を獲得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：中国史料に関する基礎的な知識を獲得する。 思考・判断の観点：史料から歴史像を考える。 関心・意欲の観点：歴史に関心を持ち、史料そのものから歴史像を構築する意欲を持つ。 態度の観点：史料から歴史を考える態度を持つ。 技能・表現の観点：中国史料を操作する基本的技能を獲得する。

授業の計画（全体） 受講生の研究に関する史料を受講生が分担して読み、そこから受講生が担当者とともに議論して当該時代の歴史像を構築する。

成績評価方法（総合） 授業における発表と期末レポートで成績を評価する。

教科書・参考書 教科書：受講者との相談によって決定する。 / 参考書：その都度紹介する。

メッセージ 受講生は学期途中で、受講を取りやめないこと。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 517、内線 5229、E-mail:stakino@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：木曜日 5/6 時限

開設科目	西洋歴史文化論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	尼川創二				

授業の概要 【19 世紀末までのロシア史の展開】9 世紀のキエフ国家の成立から反体制知識人たちが「人民主義」の革命運動を開始し挫折した 19 世紀末のロシア帝国の状況までのロシア史 を通観するが、ロシアの反体制知識人たちが常に意識していた西ヨーロッパの国家・社会の歴史とロシアのそれとの対比も絶えず行なうことにしたい。

授業の一般目標 専制政治と農奴制を特徴とするロシア帝国が何ゆえ、またどのようにして形成されたのか、そして 19 世紀末に始まりまもなく挫折する人民主義者の革命運動がいかなる問題点を内包していたかについての理解を深める。西ヨーロッパとロシアでの国家・社会の形成過程および反体制運動の類似点と相違点にも留意する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：上記の点について知識をもち、理解する。 思考・判断の観点：上記の点について自分で深く考えてみる。 関心・意欲の観点：ロシアとヨーロッパの歴史に強い関心をもつ。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに
- 第 2 回 項目 ロシアの自然環境とその影響（1）
- 第 3 回 項目 ロシアの自然環境とその影響（2）
- 第 4 回 項目 キエフ国家の成立
- 第 5 回 項目 キエフ国家の崩壊
- 第 6 回 項目 モスクワ国家からロシア帝国へ（1） 軍事的中央集権国家の出現
- 第 7 回 項目 モスクワ国家からロシア帝国へ（2） 農奴制の形成
- 第 8 回 項目 モスクワ国家からロシア帝国へ（3） 農奴制の確立
- 第 9 回 項目 皇帝と貴族
- 第 10 回 項目 ラジーシチェフとデカブリスト
- 第 11 回 項目 スラヴ主義者対西欧主義者の大論争
- 第 12 回 項目 ゲルツェンの「ロシア社会主義」論
- 第 13 回 項目 農奴解放と人民主義運動
- 第 14 回 項目 人民主義の思想家たち
- 第 15 回 項目 人民主義運動の展開と挫折

成績評価方法 (総合) レポート(読書感想文)100 点。無断欠席 1 回につきマイナス 5 点。遅刻マイナス 2 点。

教科書・参考書 教科書：用いない。適宜プリントを配付する。 / 参考書：授業中に適宜紹介する。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 4 階 407 号室 (TEL: 933-5227/ E-mail: amak@yamaguchi-u.ac.jp)

開設科目	西洋歴史文化論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	尼川創二				

授業の概要 【ロシア革命の考察】19 世紀の末に人民主義に代わってマルクス主義がロシアの革命的 インテリゲンツィアの心を捉え始めたのはなぜなのか。1902 年にレーニンが提起した党 組織論はどのような問題点を孕んでいたか。社会主義革命が、資本主義の発達した西欧 においてではなく、発展途上国ロシアで達成されたのはなぜなのか。そもそも西欧で社 会主義革命を目指す大きな動きが生じなかったのはなぜだろう。レーニンに率いられた ボリシェヴィキ党（共産党の前身）がロシアの革命勢力の中心になりえたのはなぜか。 同党とロシアの労働者、農民、少数民族との関係はどのようであったか。同党が革 命体 制形成過程で逢着した問題はなんであったのか。その革命体制はのちに出現するスター リンの強権 的政治体制とどの点でつながり、どの点で断絶しているのか。 こうした 問題を考えてみたい。

授業の一般目標 概要に記したような諸問題の考察を通じて、ロシア革命についての理解を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：ロシア革命について知識を得、理解を深める。 思考・判断の観 点：ロシア革命の原因・経過・結果について自分で考えてみる。 関心・意欲の観点：ロシアとヨーロッ パの歴史に強い関心をもつ。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ロシアにおける マルクス主義の 受容と拡大（1）
- 第 2 回 項目 ロシアにおける マルクス主義の 受容と拡大（2）
- 第 3 回 項目 レーニンの党組 織論
- 第 4 回 項目 ボリシェヴィキ とメンシェヴィ キの対立
- 第 5 回 項目 西欧における革 命運動の退潮
- 第 6 回 項目 1905 年革命
- 第 7 回 項目 1917 年の 2 月革命
- 第 8 回 項目 2 月革命から 10 月革命へ
- 第 9 回 項目 創建期ソヴィエ ト政府の諸政策
- 第 10 回 項目 内戦の勃発
- 第 11 回 項目 「戦時共産主 義」
- 第 12 回 項目 内戦の終結、「戦時共産主 義」の続行、農 民反乱
- 第 13 回 項目 ネット（新経済 政策）への転 換、共産党一党 独裁の完成
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 予備日

成績評価方法（総合） 授業外レポート 100 点。無断欠席 1 回につきマイナス 5 点。遅刻マイナス 2 点。

教科書・参考書 教科書：用いない。適宜プリントを配付する。 / 参考書：授業中に適宜紹介する。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 4 階 407 号室 (TEL: 933-5227/ E-mail: amak@yamaguchi-u.ac.jp)

開設科目	西洋歴史文化論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	南川高志				

授業の概要 講義テーマ「地中海のローマ帝国と森のローマ帝国 西洋古代世界の新たな解釈の試み」
概要「よく知られているように、ローマ帝国は古代イタリアの一都市国家から出発して、地中海周辺地域を中心に巨大な帝国を築き、長く統治した。しかし、古代ギリシア人と異なり、ローマ人は故地イタリアや地中海を離れて内陸部にも進出し、今日のイギリスやドイツにまで支配領域を広げた。そこには、地中海周辺の「海のローマ帝国」「イタリアのローマ帝国」とは性格を異にする「森のローマ帝国」が形成されたのである。この講義では、一般に知られている地中海周辺のローマ帝国の社会や文化について論じるだけでなく、帝国境界に存在した「森のローマ帝国」にも力点を置いて、ローマ帝国の性格や歴史的意義について検討する。イギリスやドイツに残る遺跡・遺物の写真などを紹介し、あるいはまた古代人の書き残した記録を日本語訳で紹介しつつ、具体的にローマ帝国に接近することを試みる。

授業の一般目標 この講義では、まずは古代のローマ帝国の実態を受講生が正確に理解し、それを通じて西洋史の古代の実相とローマ帝国の歴史的意義を明確に認識することが目標である。しかし、それに留まらず、古代の世界帝国ローマを、「未開の土地に文明をもたらす帝国」として長らく解釈してきた欧米の学界や欧米の思潮についても、19～20世紀のヨーロッパの歩みと関連させて理解することを目標としたい。

授業の計画（全体） 本講義は、15時限の集中講義として実施します。

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 「ローマ帝国」とは何か 内容 帝国の統治構造と社会の仕組み
- 第 2 回 項目 地中海のローマ帝国（生活と文化その 1） 内容 日常生活：住居と衣服
- 第 3 回 項目 地中海のローマ帝国（生活と文化その 2） 内容 日常生活：食事と娯楽
- 第 4 回 項目 地中海のローマ帝国（生活と文化その 3） 内容 日常生活：娯楽
- 第 5 回 項目 地中海のローマ帝国（生活と文化その 4） 内容 教育と娯楽（1）
- 第 6 回 項目 地中海のローマ帝国（生活と文化その 5） 内容 教育と娯楽（2）
- 第 7 回 項目 森のローマ帝国（その 1） 内容 帝国中核地域と辺境属州の関係
- 第 8 回 項目 森のローマ帝国（その 2） 内容 ブリテン島の場合（1）
- 第 9 回 項目 森のローマ帝国（その 3） 内容 ブリテン島の場合（2）
- 第 10 回 項目 森のローマ帝国（その 4） 内容 ブリテン島の場合（3）
- 第 11 回 項目 森のローマ帝国（その 5） 内容 ブリテン島の場合（4）
- 第 12 回 項目 森のローマ帝国（その 6） 内容 ガリア、ゲルマニアの場合（その 1）
- 第 13 回 項目 森のローマ帝国（その 7） 内容 ガリア、ゲルマニアの場合（その 2）
- 第 14 回 項目 ローマ史研究の歩みと解釈の変遷 内容 近現代ヨーロッパの歩みとローマ帝国解釈の変容
- 第 15 回 項目 講義のまとめと筆記試験 内容 講義全体のまとめと修得度の調査

成績評価方法（総合） 授業の最終回で、講義全体のまとめをした後、講義内容に即した筆記試験をおこないます。

教科書・参考書 教科書：教科書は使いませんが、古代ローマ人の残した記録の日本語訳したものや地図などをプリントで配布します。／参考書：海のかなたのローマ帝国, 南川高志, 岩波書店, 2003 年；古代のイギリス, P・サルウェイ, 岩波書店, 2005 年；参考書は、上にかかげた 2 冊以外にも授業中随時紹介します。必ずしも購入する必要はありません。

メッセージ 受講にあたって、西洋史に関する特別の知識は必要ありません。はるかに時を隔てた古代世界と、私たちが生きている 21 世紀の現代とが、全く無関係ではないということを認識できる柔軟な頭脳と、異なる価値観の世界を理解できる瑞々しい感性の持ち主を期待しています。

備考 集中授業

開設科目	西洋歴史文化論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	藤永康政				

授業の概要 1960年代の社会政治運動の諸相に関して、史料をもとに考察を深めていく。また多くの映像史料と映画での表象を比較や、現代のアメリカ文化やアメリカ社会への理解を深めながら、「60年代」が今日においていかなる意味をもつのかについて考えていく。 / 検索キーワード アメリカ、黒人、社会運動

授業の一般目標 (1) 史料を論理的に且つイマジネーション豊かに解釈していく力を学ぶ (2) 現代史特有の問題点に関し理解を含める

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：運動の年代記だけでなく、その社会政治経済的背景への理解を深める 思考・判断の観点：既存の学説にとらわれることなく斬新的な解釈をする力を身につける 関心・意欲の観点：現代社会の諸事情と現代史の関係について理解を深める 態度の観点：積極的に発言し、意見を交換することが学問的知を拡大するものだという「思考法」を身につける

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション 内容 授業の進行方法に関するガイダンス
- 第 2 回 項目 今日のアメリカの人種関係 内容 アメリカ黒人社会の現状の概説
- 第 3 回 項目 「長い公民権運動論」の考察 内容 公民権運動に関する史学史論の整理
- 第 4 回 項目 南部公民権運動 (1) 内容 南部公民権運動に関する概説 授業外指示 予習として史料を読ん
でくる
- 第 5 回 項目 南部公民権運動 (2) 内容 史料に基づいた考察 授業外指示 予習として史料を読ん
でくる
- 第 6 回 項目 南部公民権運動 (3) 内容 史料に基づいた考察
- 第 7 回 項目 ブラック・ナショナリズム (1) 内容 ブラックナショナリズムの概説 授業外指示 予習とし
て史料を読ん
でくる
- 第 8 回 項目 ブラック・ナショナリズム (2) 内容 史料に基づいた考察 授業外指示 予習として史料を読
んでくる
- 第 9 回 項目 ブラック・ナショナリズム (3) 内容 史料に基づいた考察
- 第 10 回 項目 冷戦と公民権運動 内容 冷戦構造がアメリカ内政に及ぼした影響の解説 授業外指示 予習
として史料を読ん
でくる
- 第 11 回 項目 黒人の運動と都市暴動 (1) 内容 都市暴動解釈の歴史の概説 授業外指示 予習として史料を
読ん
でくる
- 第 12 回 項目 黒人の運動と都市暴動 (2) 内容 デトロイト都市研究史概説
- 第 13 回 項目 黒人の運動と都市暴動 (3) 内容 史料に基づいた考察 授業外指示 予習として史料を読ん
で
くる
- 第 14 回 項目 60年代を歴史化すること 内容 前期の講義のまとめ 授業外指示 予習として史料を読ん
で
くる
- 第 15 回 項目 予備日

成績評価方法 (総合) 毎回課題の読書箇所を指示し、それに基づいて発言をしてもらう。その発言の内容がもっとも重視される。予習なしには当然質問に答えられるはずがなく、単なる出席は評価しない。

教科書・参考書 教科書：Takim' to the Streets, Alexander Boom and Wini Breines, Oxford University Press, 2003 年；教科書販売場所：大学生協

メッセージ 質問などがあれば気楽にメールで連絡してください。(ただし、携帯電話からのメールの場合、冒頭に学年所属氏名を明記すること)

連絡先・オフィスアワー メールアドレス：yfujinag@yamaguchi-u.ac.jp 水：11時50分から12時50分

開設科目	西洋歴史文化論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	近藤 淳子				

授業の概要 20 世紀のアメリカ外交史を考察する。建国時のアメリカ外交の基本方針は経済を主体とするもので軍事的要因を否定するものであった。だが、第 2 次世界大戦後のアメリカは軍事大国となり、21 世紀はアメリカ主導の戦争が展開されている。この授業では、20 世紀の国際環境の中でアメリカが軍事大国化した経済・政治。文化的背景について調べていく。/ 検索キーワード 外交、戦争と平和、国際関係。

授業の一般目標 アメリカ外交史を通してアメリカ人の戦争と平和に対する価値観、及び 20 世紀の国際関係についての理解を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 外交の理念と実践に深くかかわる軍事・経済・政治的要因だけでなく文化的価値観を理解する力を養う。 思考・判断の観点： 歴史的事実に立脚した歴史解釈を形成していく力を身につける。 関心・意欲の観点： 現在の国際紛争に関心を持つことの重要性に対する認識を深める。 態度の観点： プレゼンテーションを準備し実践することによって自己の歴史解釈を表現する力を身につける。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 アメリカ外交の特質 内容 アメリカの外交の仕組みと外交理念の特長について学ぶ。 授業外指示 権力政治と道義外交について調べる。
- 第 2 回 項目 アメリカの建国から大国へ 内容 アメリカの伝統的外交理念の確立から経済大国としてアメリカが国際社会に台頭するまでの歴史の変遷を学ぶ。 授業外指示 米西戦争、シオドア・ルーズヴェルト大統領の力の外交を調べる。
- 第 3 回 項目 第一次世界大戦とウィルソン外交 内容 国際連盟の設立へ導いたウィルソンの世界観とは何かを考察すれ。 授業外指示 ウィルソンの「14 か条の平和原則」とパリ講和会議について調べる。
- 第 4 回 項目 戦間期の国際関係とアメリカの外交思想 内容 戦間期の平和思想について考察する。また、満州事変をめぐるアジア情勢がアメリカ外交に与えた影響について学ぶ。 授業外指示 ワシントン軍縮会議、スティムソン・ドクトリンについて調べる。
- 第 5 回 項目 日米戦争 内容 日米両国の戦争に対する価値観の違いについて学ぶ。 授業外指示 日米交渉、ブレトンウッズ体制、国際連合について調べる。
- 第 6 回 項目 原爆外交 内容 原爆製造から投下までのアメリカの決断と、戦後の核実験が国際世論に与える影響について考察する。 授業外指示 広島・長崎への原爆投下の原因と結果について調べる。
- 第 7 回 項目 冷戦とトルーマン外交 内容 冷戦の起源について考察し、アジアの冷戦に朝鮮戦争が持つ意義について学ぶ。 授業外指示 憂鬱 録 茲 砲 弔 督 瓦 戮 襦
- 第 8 回 項目 アイゼンハワー外交 内容 米ソ関係を基軸とする冷戦構造の確立について学ぶ。 授業外指示 大量報復戦略、核抑止論について調べる。
- 第 9 回 項目 キューバ危機とケネディ外交 内容 アメリカとキューバの関係を中心に核兵器使用の可能性について考察する。 授業外指示 キューバ・ミサイル危機、部分的核実験停止条約について調べる。
- 第 10 回 項目 ベトナム戦争のジョンソン外交 内容 ベトナム戦争に敗北したアメリカが抱える諸問題、とくにアメリカ人の反戦運動について考察する。 授業外指示 ベトナム戦争とイラク戦争を比較し、その相違点を調べる。
- 第 11 回 項目 ニクソン外交と米中関係 内容 キッシンジャー外交を主軸として米中国交回復を果たした米中両国の外交方針について学ぶ。 授業外指示 キッシンジャー外交と周恩来外交について調べる。
- 第 12 回 項目 カーターの人権外交 内容 ハードパワーが支配する国際社会の中で人権外交や道義外交は実践可能なのかをカーター外交を通して考察する。 授業外指示 イラン革命と米大使館人質事件について調べる。

- 第 13 回 項目 レーガンの力の外交 内容 「悪の帝国」論を掲げてパワーポリティクスを実践したレーガン大統領の外交を学ぶ。授業外指示 冷戦の終結をもたらしたものは何かを調べる。
- 第 14 回 項目 プレゼンテーション(1) 内容 各人が選んだ課題についてプレゼンテーションする。
- 第 15 回 項目 プレゼンテーション(2) 内容 各人が選んだ課題についてプレゼンテーションする。

教科書・参考書 教科書：未定、

連絡先・オフィスアワー メールアドレス：kondo@fis.ypu.jp

開設科目	西洋歴史文化論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	尼川創二				

授業の概要 未定。受講する院生の研究テーマを知ったうえで決める。

授業の一般目標 未定。受講する院生の研究テーマを知ったうえで決める。

授業の計画（全体） 未定。受講する院生の研究テーマを知ったうえで決める。

成績評価方法（総合） 未定。受講する院生の研究テーマを知ったうえで決める。

開設科目	西洋歴史文化論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	尼川創二				

授業の概要 未定。受講する院生の研究テーマを知ったうえで決める。

授業の一般目標 未定。受講する院生の研究テーマを知ったうえで決める。

授業の計画（全体） 未定。受講する院生の研究テーマを知ったうえで決める。

成績評価方法（総合） 未定。受講する院生の研究テーマを知ったうえで決める。

開設科目	西洋歴史文化論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	藤永康政				

授業の概要 アメリカ史が直面している諸問題を批判的に検討する。具体的内容はゼミ参加者の関心にしたがって決定する / 検索キーワード アメリカ史

授業の一般目標 (1) 歴史学諸理論の把握 (2) 早く良い先行研究を見つける方法を会得し、良い「問い」のたてかたを学ぶ (3) 理解した理論をいかに展開していくかを学ぶ

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 現代思想と歴史議論、現代社会と歴史学との関係について理解を深める 思考・判断の観点： 歴史学理論の展開の仕方を会得し、それに則った論理的思考を身につける

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 イントロダクション 内容 今後のゼミの進行について打ち合わせをする。受講希望者は必ず出席のこと

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

成績評価方法 (総合) 授業での報告、ならびに参加者の報告に対する議論等々、積極的な授業参加を求め、そのみを評価基準とする。

メッセージ 質問などがあれば気楽にメールで連絡してください。(ただし、携帯電話からのメールの場合、冒頭に学年所属氏名を明記すること)

連絡先・オフィスアワー メールアドレス：yfuji@yamaguchi-u.ac.jp 水：11時50分から12時50分

地域文化専攻 現代社会分析論

開設科目	現代社会変動論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	小谷典子				

授業の概要 地域社会を多様な主体から構成されるネットワーク型社会としてとらえ、具体的には、企業と地域社会の関わりを、企業の社会的責任や社会貢献活動に焦点を当てて、事例を紹介しながら考察する。 / 検索キーワード 企業の社会的責任 (CSR)、企業の社会貢献活動、ステークホルダー、NPO、アートNPO 地域社会、まちづくり

授業の一般目標 現代社会における企業組織の社会的責任や企業の社会貢献活動の実態を理解しながら、現代社会の仕組みと問題点を探る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：企業組織の社会貢献活動についての理解を深める 思考・判断の観点：企業活動の光と陰の実態から公共とは何かについて考える 関心・意欲の観点：地域社会に立地する企業と市民活動について関心を持つ 態度の観点：身近な地域社会の実態を把握する

授業の計画 (全体) 企業の社会的責任や企業の社会貢献活動を、具体的な事例をみながら理解し、地域社会と企業の望ましい共存のあり方を探る。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 産業社会と社会学の成立
- 第 2 回 項目 近代化と企業活動
- 第 3 回 項目 企業組織と企業家の経営理念
- 第 4 回 項目 企業の社会貢献活動
- 第 5 回 項目 企業メセナ活動の現況
- 第 6 回 項目 企業とステークホルダー
- 第 7 回 項目 企業組織とNPOの連携
- 第 8 回 項目 ステークホルダーとしての地域社会
- 第 9 回 項目 山口県における企業活動の現況
- 第 10 回 項目 山口県における企業の社会貢献活動 (1)
- 第 11 回 項目 山口県における企業の社会貢献活動 (2)
- 第 12 回 項目 防府市における企業の社会貢献活動
- 第 13 回 項目 防府市民の企業評価
- 第 14 回 項目 企業組織と地域社会 (1)
- 第 15 回 項目 企業組織と地域社会 (2)

成績評価方法 (総合) 出席と小レポートと期末テストで総合的に判断する

教科書・参考書 参考書：企業の社会貢献とコミュニティ, 三浦典子, ミネルヴァ書房, 2004 年; その他は、適宜紹介する

メッセージ できる限り前期後期続けて受講してほしい

連絡先・オフィスアワー otani@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	現代社会変動論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	小谷典子				

授業の概要 現代社会における、企業の社会的貢献活動と地域活性化・まちづくりを事例として取り上げ、企業組織とコミュニティの共存可能性について考察する / 検索キーワード 企業の社会的責任、企業メセナ、企業市民性、まちづくり、NPO, アートNPO, 地域活性化、グラウンドワーク、ネットワーク型社会

授業の一般目標 まちづくりに対する企業の社会的責任や企業の社会貢献活動の実態を知り、企業組織とコミュニティのかかわりを認識し、地域社会における一市民としての企業組織の可能性について考える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：地域社会における企業の社会貢献についての理解を深める 思考・判断の観点：企業活動の光と陰について考える 関心・意欲の観点：企業の社会貢献活動やまちづくりについて関心を持つ 態度の観点：身近まちづくりに目を向け、地域社会への参加意欲を高めるようになる

授業の計画(全体) 地域社会の活性化に対する企業の関わりを、企業の社会的責任や社会貢献活動に視点を置いて明らかにし、企業組織と地域社会との共存の可能性を探る

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 企業の社会的責任と社会貢献活動
- 第 2 回 項目 企業とステークホルダー
- 第 3 回 項目 企業家の社会貢献(1)
- 第 4 回 項目 企業家の社会貢献(2)
- 第 5 回 項目 企業メセナ活動
- 第 6 回 項目 地域メセナの活動と展開
- 第 7 回 項目 企業メセナとまちづくり(1)
- 第 8 回 項目 企業メセナとまちづくり(2)
- 第 9 回 項目 企業メセナとまちづくり
- 第 10 回 項目 文化によるまちづくり
- 第 11 回 項目 地域活性化への企業の貢献(1)
- 第 12 回 項目 地域活性化への企業の貢献(2)
- 第 13 回 項目 市民活動とグラウンドワーク
- 第 14 回 項目 ネットワーク型社会を考える(1)
- 第 15 回 項目 ネットワーク型社会を考える(2)

成績評価方法(総合) 出席と小レポートと期末テストで総合的に判断する

教科書・参考書 参考書：企業の社会貢献とコミュニティ, 三浦典子, ミネルヴァ書房, 2004年; その他適宜紹介する

メッセージ 前期・後期続けて受講してほしい

連絡先・オフィスアワー otani@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	地域社会計画論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	横田尚俊				

授業の概要 「都市と貧困」をテーマに、近現代都市における貧困、階層格差の問題と、都市下層の生活実態や共同性の位相、さらには都市下層社会の変容について、社会学的な調査記録や調査データに依拠しながら、概観していく。 / 検索キーワード 都市下層、スラム、シカゴ学派、社会調査、社会事業、寄せ場、ホームレス

授業の一般目標 (1) 近現代の欧米や日本における都市化を、都市下層社会の変容という視点から見つめ直すことによって、都市化過程の重層的な理解を促す。(2) 現代社会における階層格差のありようを、社会学的なデータに基づいて理解し、都市問題、社会問題に対する関心を深める。

授業の計画(全体) 都市と貧困との関係、および都市下層社会の諸相、都市下層調査の変遷などを概観する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 インTRODクシヨN 内容 授業の進め方の説明
- 第 2 回 項目 都市と貧困
- 第 3 回 項目 イギリス産業都市における貧困
- 第 4 回 項目 同上(続き)
- 第 5 回 項目 シカゴ学派の調査モノグラフに見る都市下層社会
- 第 6 回 項目 同上(続き)
- 第 7 回 項目 近代日本の都市下層(1) 内容 貧民窟調査の記録
- 第 8 回 項目 同上(2) 内容 「細民調査」と「月島調査」
- 第 9 回 項目 同上(3) 内容 草間八十雄と都市下層調査
- 第 10 回 項目 同上(4) 内容 社会事業の展開
- 第 11 回 項目 現代日本の都市下層(1) 内容 「バタヤ社会」の形成と消滅
- 第 12 回 項目 同上(2) 内容 都市化と新興宗教
- 第 13 回 項目 同上(3) 内容 寄せ場とホームレス
- 第 14 回 項目 同上(4) 内容 ホームレス、ワーキングプアと現代の貧困
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法(総合) 定期試験(論述式) 50% 出席 40% 小レポート・授業参加度 10%

教科書・参考書 教科書: 教科書は特に使用しない。 / 参考書: シカゴ社会学の研究, 宝月誠ほか, 恒星社厚生閣, 1997年; 日本の下層社会, 横山源之助, 岩波書店(文庫), 1985年; 月島調査(復刻版), 内務省衛生局, 光生館, 1970年; ホームレス自立支援システムの研究, 麦倉哲, 第一書林, 2006年; 現代の貧困, 岩田正美, 筑摩書房(新書), 2007年; その他の参考文献に関しては、授業の中で適宜紹介する。

メッセージ 時間的に余裕があれば、テーマに関連するビデオ映像なども積極的に利用したい。

連絡先・オフィスアワー メール・アドレス n.y@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 人文棟3階307室

開設科目	地域社会計画論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	横田尚俊				

授業の概要 現代日本における都市政策、地域政策の展開と変容を地域社会学の視点から考察し、その課題について考える。 / 検索キーワード 地域社会学、都市、都市政策、地域政策

授業の一般目標 (1) 現代日本における都市政策、地域政策の展開と変容について理解を深める。(2) 地域社会学の視点から、都市政策、地域政策の現状と課題を考察する。

授業の計画(全体) 地域社会学の視点から、現代日本の地域政策、都市政策の展開と変容、その課題について考察していく。講義科目ではあるが、対話しながらの演習形式で授業を進めていく。受講生には、テキストにそって適宜課題を与え、授業の中で報告してもらうので、あらかじめ了解してほしい。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 インTRODクシヨN 内容 授業の進め方についての説明
- 第 2 回 項目 都市計画と社会学
- 第 3 回 項目 都市政策の基本視角
- 第 4 回 項目 都市政策の基本視角(続き)
- 第 5 回 項目 災・公害・環境政策
- 第 6 回 項目 災・公害・環境政策(続き)
- 第 7 回 項目 災・公害・環境政策(続き)
- 第 8 回 項目 住宅・交通政策
- 第 9 回 項目 住宅・交通政策(続き)
- 第 10 回 項目 福祉・医療政策
- 第 11 回 項目 地域情報政策
- 第 12 回 項目 コミュニティ政策
- 第 13 回 項目 コミュニティ政策(続き)
- 第 14 回 項目 都市行政の再編
- 第 15 回 項目 課題レポート

成績評価方法(総合) 課題レポート 30% 出席 40% 授業外レポート・報告 30%

教科書・参考書 教科書: 日本の都市社会第4巻 都市の諸政策, 和田清美ほか, 文化書房博文社, 2008年; テキストが予定通りに刊行されなかった場合には、類似した内容の別の書物を使用する。 / 参考書: 日本の都市社会 第1巻~第3巻, 北川隆吉ほか, 文化書房博文社, 2007年; 地域社会の政策とガバナンス(地域社会学講座3), 岩崎信彦、矢澤澄子ほか, 東信堂, 2006年; その他の参考文献に関しては、授業の中で適宜紹介する。

メッセージ 時間的に余裕があれば、テーマに関連するビデオ映像なども積極的に利用したい。

連絡先・オフィスアワー メール・アドレス n.y@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 人文棟3階307室

開設科目	現代社会意識調査論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	辻正二				

授業の概要 私たち人間は、時間のなかで毎日の正確をおくっている。この指針には時計の時間が大きな働きをしている。しかし、時計の時間は、天文的な時間に基づいているわけであるが、それとは別に一年の中で決められた祝祭日、休日、日々の労働時間などさまざまな社会的な時間が存在し、この社会的時間のなかでわれわれ人間は生活している。この講義では、社会学において社会的時間の構成や作用などを研究してきた文献を通して時間の社会学の歴史を学び、さらに現在の社会において社会的時間をどのように利用していけばよいかを考えてみたい。/ 検索キーワード 社会的時間、リズム、スピード、生活時間

授業の一般目標 1) 社会的時間の種類とその成り立ち、働きを理解する。2) デュルケームやマートンなど時間を社会学的研究してきた学者たちの時間社会学の理論と研究成果を学ぶ。3) 現在において社会的時間をどのように利用していけばよいかの考え方を学ぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：基本的な社会的時間の知識や時間の社会学の知識を学び、理解することができる。思考・判断の観点：社会的に存在する社会的時間現象などを自分自身で考え、それがもつ構造面と機能面を考え、どのような意義があるか判断できる。関心・意欲の観点：社会現象の中での社会的な出来事への関心をもつことができる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 講義のねらい 内容 今回の授業の狙いと全体の流れを説明する
- 第 2 回 項目 現代社会と社会的時間 内容 現代社会の変化を時間という視点で捉え、時間学的課題を考える。
- 第 3 回 項目 デュルケームの時間の社会学(1) 内容 『宗教生活の原初形態』における社会的時間
- 第 4 回 項目 デュルケームの時間の社会学(2) 内容 デュルケームの社会学の中で時間の視点の位置を考える
- 第 5 回 項目 ソローキンの時間の社会学(1) 内容 ソローキンにとって時間とは何であったか。彼の社会学の中で考える。
- 第 6 回 項目 ソローキンの時間の社会学(2) 内容 移動論と社会的時間論
- 第 7 回 項目 アルヴァックスの時間の社会学 内容 集合的記憶とは何か
- 第 8 回 項目 ギュルヴィッチの時間の社会学 内容 多元的な社会的時間の存在
- 第 9 回 項目 マートンの時間の社会学 内容 社会的に期待される持続性とは何か、マートンにとって時間とは何か。
- 第 10 回 項目 ムーアの時間の社会学 内容 社会生活の時間と時間整序
- 第 11 回 項目 ゼルバベルの時間の社会学 内容 時間的規則性、かくれたリズム
- 第 12 回 項目 エリアスの時間の社会学 内容 時間決定と時間体験
- 第 13 回 項目 蔵内数太の時間の社会学 内容 前集団、現集団、後集団
- 第 14 回 項目 時間の社会学の課題
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 講義の全体的なまとめ

教科書・参考書 参考書：自殺論(中公文庫)、デュルケーム著；宮島喬訳、中央公論社、1985年；社会理論と社会構造、ロバート.K. マートン [著]；森東吾 [ほか] 訳、みすず書房、1961年；宗教生活の原初形態、デュルケーム、岩波書店、1975年；社会理論と社会構造、マートン、みすず書房、1961年；自殺論、デュルケーム、中央公論社、1985年；かくれたリズム、ゼルバベル、サイマル出版会、1984年

メッセージ 参考書は最低1冊は、該当箇所を読んでおくこと。

連絡先・オフィスアワー 辻研究室(309室)

開設科目	現代社会意識調査論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	辻正二				

授業の概要 現代の社会は、グローバル化や情報化等の進行により、産業社会構造そのものが大きく変化して、人間の時間意識の変化を余儀なくされている。現代社会は、社会的時間レベルで見ると、車やパソコンのモデルチェンジにみられるように、生産と消費のスピードがますます加速化しており、人間はそれに適応しなければならないが、実際にはそのなかでますますストレスを背負い、その結果いろいろな病理現象を生みつつある。その一方現代社会は、成熟社会や高齢社会になるにつれ、青年期や高齢期の時間帯が長期化して、青年の中には大人になることを「延長化」し、高齢者は平均寿命の伸びによって高齢期の「延長化」を迎えて、いままで経験しなかったを抱えている。この講義では、現代社会が抱える問題を「時間社会学」のレベルから迫り、今後、時間の視点から現代社会が直面する問題、人間の時間意識の問題について今後どのような方向づけが必要かを考えてみたい。/ 検索キーワード 時間意識、社会的時間、社会的速度、タイミング、持続性、時間政策

授業の一般目標 (1) 現代社会の変化を時間学のレベルから研究する視点を学ぶ。(2) 青年期と高齢期の対照的な時間帯に共通する時間の長期化を通して現代人が直面する問題が何なのかを学ぶ。(3) 時間して視点からの時間政策の方策について考える姿勢を学ぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：現代社会の時間学的見方に関する知識を学び、時間学のアプローチについて理解することができる。思考・判断の観点：自ら進んで社会的時間や現代社会における時間的思考や判断が出来ること。関心・意欲の観点：生活の中で社会的時間に関心を持ち、その現象的理解とともに問題点を意欲的に取り組むことができる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 講義の狙い
- 第 2 回 項目 現代社会の時間論的課題 内容 情報化、高齢化、グローバル化、社会的時間の変化と課題
- 第 3 回 項目 時間意識の近代化 内容 機械時計の登場と「時は金なり」
- 第 4 回 項目 現代社会と時間意識 内容 バーチャルの時間感覚
- 第 5 回 項目 若者の時間感覚 内容 モラトリアムの長期化：フリーター、ニート問題と時間
- 第 6 回 項目 高齢者の時間感覚 内容 生涯現役と長寿化の課題
- 第 7 回 項目 東アジアの時間と時間感覚 内容 直線的時間と円環的時間、文化的時間の問題
- 第 8 回 項目 生活時間の変化 内容 生活時間調査の分析
- 第 9 回 項目 労働時間の変化 内容 ワークライフバランスを求めて
- 第 10 回 項目 社会的時間とタイミング 内容 時機とは何か、チャンスを生かす
- 第 11 回 項目 社会的速度と時間意識 内容 スピードとストレス
- 第 12 回 項目 社会的持続性と時間 内容 人間にとって持続性とは何か
- 第 13 回 項目 時間とコミュニティ 内容 時間によるコミュニティの安定
- 第 14 回 項目 時間政策の課題 内容 新たな政策課題としての時間政策
- 第 15 回 項目 今回の講義のまとめ

教科書・参考書 参考書：高齢者ラベリングの社会学：老人差別の調査研究, 辻正二著, 恒星社厚生閣, 2000年；高齢者ラベリングの社会学, 辻正二, 恒星社厚生閣, 2000年；時間意識の近代, 西本郁子, 法政大学出版会, 2006年

メッセージ 参考書は、1冊は読んでおいてください。

開設科目	現代社会意識調査論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	佐々木 武夫				

授業の概要 企業経営の環境や、生産技術・熟練などの変化に対応して、経営組織や職業意識がどのように変化していったのかを考えてみる。現在、雇用の安定と人材育成とを特徴とする日本的経営が、雇用の流動化と評価・選択を特徴とする成果主義管理へと移行しつつある。この変化を歴史的に検討してみたい。また、若い世代が選択と評価にもとづくこの変化をどのように考えているのかについても言及してみたい。歴史的あるいは比較社会論の視点から日本的経営論の変化とその背景を考えてみたい。

授業の一般目標 1. 職業意識や職業文化の比較により日本社会の特徴を考える。 2. 現代の産業構造変化や職業構造の変化を整理する。 3. 日本的経営から成果主義管理への変化を考える。

授業の計画(全体) 全体として4つの部分から構成される。一つは日本の工業化と社会変動の特徴。アジアとの比較でも考えてみる。アベグレンの研究を整理してみる。二つは、工業化と経営秩序についての間宏、津田真澂の研究から日本的経営論の特徴を考える。三つめは、能力主義管理の特徴を検討したい。高度経済成長期から石油危機・安定成長期までの変化。トヨタ生産システムの成立。四つめは、グローバル化と平成不況期に提唱された成果主義の現在までの動向とその特徴を検討してみたい。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに 内容 講義の目的
- 第 2 回 項目 工業化と社会変動の特徴(1) 内容 近代化論
- 第 3 回 項目 工業化と社会変動の特徴(2) 内容 アベグレン
- 第 4 回 項目 工業化と社会変動の特徴(3) 内容 職業集団 商家同族・松島静雄の研究
- 第 5 回 項目 日本的経営論の特徴(1) 内容 間宏の研究
- 第 6 回 項目 日本的経営論の特徴(2) 内容 津田真澂の研究
- 第 7 回 項目 日本的経営論の特徴(3) 内容 岩田龍子の研究
- 第 8 回 項目 中間のまとめ 内容 日本的経営 安定と競争、企業内人生
- 第 9 回 項目 能力主義管理の特徴(1) 内容 経済成長から石油危機へ
- 第 10 回 項目 能力主義管理の特徴(2) 内容 間と津田の研究
- 第 11 回 項目 能力主義管理の特徴(3) 内容 熊沢誠の研究
- 第 12 回 項目 成果主義管理(1) 内容 三つのルーツ
- 第 13 回 項目 能力主義管理(2) 内容 仕事評価、選択性と公正性
- 第 14 回 項目 能力主義管理(3) 内容 問題点と課題
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 全体のまとめ

教科書・参考書 教科書：最初の時間に資料配付/参考書：最初の時間に指摘

備考 集中授業

開設科目	現代コミュニケーション論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	高橋征仁				

授業の概要 現在、青少年における「規範意識の低下」が声高に叫ばれている。しかし、この指摘は、はたして本当だろうか？この授業では、規範をめぐるコミュニケーションや道德意識の形成プロセスに焦点を当てながら、社会と個人のダイナミックな関係について考察を深めていく。／検索キーワード コミュニケーション、メディア、道德意識

授業の一般目標 1．古典的コミュニケーション・モデル(モノ・メタファー)の限界を認識する。2．メディアの基本機能と新しいコミュニケーション論の基礎を検討する。3．道德意識の生成と変容に関して、新しいコミュニケーション論の視点から再構築を行う。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業ガイダンス 内容 授業方法の解説 コミュニケーションをめぐるロマン主義的誤謬 授業外指示 メーリングリストの登録
- 第 2 回 項目 メディアの役割 内容 機械論的コミュニケーション論の限界 授業外指示 メーリングリストによる課題提出
- 第 3 回 項目 コミュニケーションと規範 内容 講義概略
- 第 4 回 項目 道德意識研究の貧困 内容 調査研究におけるトリック
- 第 5 回 項目 道德的社会化論 1 内容 フロイトとデュルケム
- 第 6 回 項目 道德的社会化論 2 内容 ミードとピアジェ
- 第 7 回 項目 道德的社会化論 3 内容 エリクソンとコールバーグ
- 第 8 回 項目 コールバーグ = ギリガン 論争 1
- 第 9 回 項目 コールバーグ = ギリガン 論争 2
- 第 10 回 項目 類縁化アプローチ 1
- 第 11 回 項目 類縁化アプローチ 2
- 第 12 回 項目 道德意識の 3 位相 1
- 第 13 回 項目 道德意識の 3 位相 2
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法 (総合) 授業外レポート 40 点と学期末試験 60 点の総合点によって評価する。

開設科目	現代コミュニケーション論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	高橋征仁				

授業の概要 大学院生専用の授業科目として、家族社会学の講義を行う。 / 検索キーワード 少子高齢社会、パラサイト・シングル、若年フリーター

授業の一般目標 1. 未婚化や晩婚化をめぐる現状と社会学的分析について学ぶ 2. 日本における近代家族の形成過程について学ぶ 3. 性やジェンダーをめぐる世代間ギャップ、世代内ギャップについて考察する

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 家族愛のパラドクス
- 第 2 回 項目 家族への思いこみ
- 第 3 回 項目 近代家族の基本的性格
- 第 4 回 項目 近代家族の危うさ
- 第 5 回 項目 近代家族を支える装置
- 第 6 回 項目 近代家族の成立と形成
- 第 7 回 項目 近代社会における愛情の意味
- 第 8 回 項目 母性愛の形成
- 第 9 回 項目 恋愛結婚と近代家族
- 第 10 回 項目 家事労働の基本的性格
- 第 11 回 項目 家事労働の意味
- 第 12 回 項目 家事労働とジェンダー
- 第 13 回 項目 現代化と家族
- 第 14 回 項目 現代家族の変貌
- 第 15 回 項目 現代家族の危機

開設科目	比較社会生活誌論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	野地恒有				

授業の概要 民俗学の立場から、現代日本で自然を相手に営まれている生活を具体的に提示して、現代における日本・地域における生活の多様な姿をとおして、民俗文化の特質を論じる。とくに、海と島の生活に焦点を当て、日本の海洋的な性格をとらえる。

授業の計画(全体) 海と島という自然を相手に展開する生活相を、ほぼ毎回一つの事例を映像(VHS教材)とOHCを用いて提示しながら、その事例について民俗学的に説明するとともに、そこから引き出される文化的な問題(とくに海洋的性格)を論じていく。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 民俗学とはどういう分野か、そして海という視点について
- 第 2 回 項目 海の祭り 1 内容 鳥羽市神島の正月行事
- 第 3 回 項目 海の祭り 2 内容 能登半島の漂着神
- 第 4 回 項目 海の世界関係 内容 鳥羽市答志島の若者宿
- 第 5 回 項目 ハレと魚食 内容 婚姻儀礼と魚食
- 第 6 回 項目 海の世界誌論 1
- 第 7 回 項目 海の世界との比較 1 内容 アイヌと鮭の儀礼
- 第 8 回 項目 海の世界との比較 2 内容 宮崎県のイノシシ狩り 1
- 第 9 回 項目 海の世界との比較 3 内容 宮崎県のイノシシ狩り 2
- 第 10 回 項目 海の世界との比較 4 内容 福島県の木地師 1
- 第 11 回 項目 海の世界との比較 5 内容 福島県の木地師 2
- 第 12 回 項目 海の世界の技術 1 内容 伝統的な漁撈技術 1
- 第 13 回 項目 海の世界の技術 2 内容 伝統的な漁撈技術 2
- 第 14 回 項目 海の世界誌論 2
- 第 15 回 項目 期末試験

成績評価方法(総合) 授業の最後に実施する筆記試験により評価する。

備考 集中授業

開設科目	社会生活伝承論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	湯川洋司				

授業の概要 社会生活伝承論は、現代社会の諸問題からテーマを拾い、民俗学的手法を用いて検討することをめざしています。この授業では、「民俗学から見た高度成長」と題して、現在の日本社会の形成に大きな影響を与えた「高度成長」について、民俗をはじめとする諸資料を手がかりにして読み取り、「高度成長とは何であったのか」を考えます。/ 検索キーワード 民俗学 民俗 高度成長

授業の一般目標 1. 高度成長とは、どのように定義されるものか、理解する。 2. 民俗から現代社会を理解する方法について、考える。 3. 民俗または民俗学から見れば、現代社会はどのような社会と捉えられるか、理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 高度成長の具体相について知る。 思考・判断の観点： 1. 民俗を通じて現代社会のありようを考える。

授業の計画(全体) (1) 高度成長とは従来どのように説明されているかを理解する。(2) 高度成長に伴い変化した暮らしぶりを具体的に知る。(3) 高度成長時代の出来事と高度成長時代を象徴するモノを具体的に知ることを通じてこの時代のありようを分析する。(4) 「高度成長」が現代の日本に及ぼしている文化的社会的影響について、民俗学的手法により考察する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに 内容 授業の趣旨(問題設定)と授業方法について説明する
- 第 2 回 項目 高度成長とは(1) 内容 高度成長の定義について検討する
- 第 3 回 項目 高度成長とは(2) (2) 内容 高度成長以前の日本の姿を紹介する
- 第 4 回 項目 高度成長と暮らしの変化(1) 内容 住宅様式の変化の具合を公団住宅の誕生を軸に見る
- 第 5 回 項目 高度成長と暮らしの変化(2) 内容 生活時間の変化について種々の資料で確認する
- 第 6 回 項目 高度成長と暮らしの変化(3) 内容 都市化に伴い水利用が増大した様相を確認する
- 第 7 回 項目 高度成長と暮らしの変化(4) 内容 開発に伴う海と海岸の変化の様相を見る
- 第 8 回 項目 高度成長時代の出来事(1) 内容 東京オリンピックと新幹線開通の社会的影響を知る。
- 第 9 回 項目 高度成長時代の出来事(2) 内容 地方から都市への集団就職と出稼ぎの様相を知る。
- 第 10 回 項目 高度成長時代の出来事(3) 内容 「公害列島」といわれた状況を知る。
- 第 11 回 項目 高度成長時代のモノ(1) 内容 家電製品(三種の神器)の普及がもった意味を考える。
- 第 12 回 項目 高度成長時代のモノ(2) 内容 クルマの普及とそれが与えた影響を考える。
- 第 13 回 項目 高度成長時代のモノ(3) 内容 身体用具の発達普及とその影響を考える。
- 第 14 回 項目 高度成長とは何だったのか 内容 授業内容全体をまとめて、今の暮らしに与えた高度成長の影響について考察する。
- 第 15 回 項目 試験 内容 期末試験

成績評価方法(総合) 成績は、毎回の小テスト(50%)、期末試験(50%)により評価します。

教科書・参考書 教科書：用いない。必要に応じてプリント資料を配布する。/ 参考書：授業中に適宜紹介する。

メッセージ 今から30年以上前の高度成長時代は、戦後日本の一大転換期でした。農山漁村と都市の双方で見られた急激な変化の様相を具体的に知り省みることで、今の日本とその未来を考える参考にしてください。

連絡先・オフィスアワー yukawa@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部棟2階210号室 いつでも随時訪ねてください

開設科目	社会生活伝承論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	湯川洋司				

授業の概要 社会生活伝承論は、現代社会の諸問題からテーマを拾い、民俗学の手法を用いて検討することをめざしています。この授業では、「民俗学から見える過疎地の未来像」と題して、(1)高度成長時代の結果として現われた「過疎地」のその後の30年を振り返り、(2)現状を探り、また(3)これまで国や自治体が行ってきた過疎対策を振り返り検証したうえで、(4)民俗学者宮本常一の実践活動を中心とした民俗学における「過疎」問題の検討状況を踏まえて、「過疎地の未来像」をどう描くか、考えます。/ 検索キーワード 民俗 民俗学 過疎

授業の一般目標 1 「過疎」に関する定義と具体的事実を広く知る。 2 . 民俗または民俗学から見れば、「過疎」問題はどのように分析されるか、理解する。 3 「過疎地の未来像」を描くうえで、どのようなことが必要になるのか、考える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1 「過疎」の定義について説明できる。 思考・判断の観点: 1 . 民俗や民俗学の方法を通じて、「過疎」現象はどのように理解されるか、説明できる。 2 「過疎」問題の検討に民俗や民俗学はどのように有効であるのか、説明できる。

授業の計画(全体) (1) 高度成長時代の結果として現われた「過疎地」のその後の30年間を振り返る。(2) 過疎地の現状を資料により具体的に探る。(3) これまで国や自治体が行ってきた過疎対策を振り返り検証する。(4) 民俗学者宮本常一の実践活動を中心とした民俗学における「過疎」問題の検討状況を踏まえて、「過疎地の未来像」をどう描くか、考える。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに 内容 授業の趣旨(問題設定)と授業方法について説明する
- 第 2 回 項目 過疎と現代社会(1) 内容 「過疎」の従来の定義を紹介し、高度成長と過疎との関係について歴史を振り返り解説する
- 第 3 回 項目 過疎と現代社会(2) 内容 過疎問題を分析する視点として「家と村」の関係について解説する
- 第 4 回 項目 過疎地の現状(1) 内容 福島県会津地方のA山村の現状を見る
- 第 5 回 項目 過疎地の現状(2) 内容 福島県会津地方のB山村の現状をA山村の場合と比較対照する
- 第 6 回 項目 過疎地の現状(3) 内容 九州山地のC山村の現状を見る
- 第 7 回 項目 「過疎地の現状(4) 内容 四国山地のD山村の現状を見る
- 第 8 回 項目 過疎地の現状(5) 内容 山口県の離島の現状を見る
- 第 9 回 項目 過疎地の現状(6) 内容 山口県の山間地農村の現状を見る
- 第 10 回 項目 過疎対策の歩み(1) 内容 過疎法と国の取組を知る
- 第 11 回 項目 過疎対策の歩み(2) 内容 各地の自治体等の取組を知る
- 第 12 回 項目 宮本常一の実践(1) 内容 産業振興に取り組んだ実践活動の内容と特色を具体的に知る
- 第 13 回 項目 宮本常一の実践(2) 内容 文化振興に取り組んだ実践活動の内容と特色を具体的に知る
- 第 14 回 項目 まとめ 内容 地域をはかるモノサシをどう作るか、価値転換の必要性と可能性について考える。
- 第 15 回 項目 試験 内容 期末試験

成績評価方法(総合) 成績は、小テスト(50%)と期末試験(50%)により評価します

教科書・参考書 教科書: 用いない。必要に応じてプリント資料を配布する。/ 参考書: 授業中に適宜紹介する。

メッセージ 過疎は、地方社会の現象として現われているために地方の問題と思われがちですが、そうではなく、都市社会また日本全体の問題でもあること、すなわちみんなに係わる問題だと捉えられるようになってほしいと思っています。

連絡先・オフィスアワー yukawa@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部棟2階210号室 いつでも随時
訪ねください

開設科目	造形伝承論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	坪郷英彦				

授業の概要 人間の暮らしをものの視点から考察する。文化人類学の物質文化研究、民俗学の民具研究の諸成果を示し、さらに現代の視点からの検討を加えながら授業を進めていきます。今年のテーマとしては「技術・技能・職人」を取りあげる。／検索キーワード 文化人類学、生活用具論、自然環境、採集狩猟、農耕、牧畜、諸職

授業の一般目標 人類が作り出した様々なものを社会的、システムの、技術的に読み解く力を養う。人類の基本的な自然に対する対応の仕方を理解し、現在の地球環境問題に接する視点と態度を養う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 基本的理論、用語の説明ができる。 思考・判断の観点： 日常を機能・システムの視点から読み解くことができる。 関心・意欲の観点： 技術文化の表層と本質的な部分を読み分けることができる。 態度の観点： 日常のもの・ことに新たな視点で接することができる。 技能・表現の観点： 自分の考えを正確に論述できる。

授業の計画（全体） 人類は移動手段から解放された前肢を使い様々な用具を作り出しました。そして自然をコントロールすることをはじめ、現在の高度文明社会を作り出したわけです。この授業では、物を作り出す技術、身体性を伴う技能、そしてこれらを専門的に行う職人をテーマに構成し話を進めていきます。技術では基本的生業と用具の機能を説明し、現在の私たちの基本が農耕が始まった時期にすでに作られていたことを理解してもらいます。技能は未開社会の事例を示しながら、大切さを理解してもらいます。職人については日本の諸職から事例を挙げて説明し、技術文化の広がりと内容を理解してもらいます。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 人類の物質文化研究のアウトライン
- 第 2 回 項目 人類の発生－イマジネーションとロコモーション
- 第 3 回 項目 人類の自然環境への選択と適応
- 第 4 回 項目 採集狩猟と用具
- 第 5 回 項目 農耕と用具
- 第 6 回 項目 牧畜と用具
- 第 7 回 項目 まとめ
- 第 8 回 項目 技術に対する考え方
- 第 9 回 項目 技術と技能に対する考え方
- 第 10 回 項目 未開社会の技術と技能
- 第 11 回 項目 漂泊の民を意味する諸職
- 第 12 回 項目 近世の職人（鍛冶）
- 第 13 回 項目 近世の職人（木地師）
- 第 14 回 項目 近代の職人（屋根師）
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 出席と期末レポート及び数度の授業内レポートにより評価を行います。特に出席と期末レポートを重視します。出席が 70 % に満たない場合は評価の対象になりません。

教科書・参考書 教科書：教科書は使用しませんが、適宜必要な資料をコピーして配布します。／参考書：その都度紹介します。

メッセージ できるだけ視覚情報を使って理解を助けます。

連絡先・オフィスアワー Email： hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp 電話 5239 、研究室 213 オフィスアワー木曜日 12：00～14：00

開設科目	造形伝承論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	坪郷英彦				

授業の概要 人間の暮らしをものの視点から考察する。文化人類学の物質文化研究、民俗学の民具研究の諸成果を示し、さらに現代の視点からの検討を加えながら授業を進めていきます。今年のテーマとしては都市を取りあげる。/ 検索キーワード 文化人類学、都市人類学、民俗学、建築学

授業の一般目標 人間が作り出した様々なものを社会的、システムの、技術的に読み解く力を養う。ものを通して現代社会を分析するための目標と方法を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 基本的理論、用語の説明ができる。 思考・判断の観点： 日常を機能・システムの視点から読み解くことができる。 関心・意欲の観点： 消費社会の表層と本質的な部分を読み分けることができる。 態度の観点： 日常のもの・ことに新たな視点で接することができる。 技能・表現の観点： 自分の考えを正確に論述できる。

授業の計画（全体） 都市は様々な側面から研究されてきました。この授業では文化人類学、民俗学の側面から語られる都市、建築学で語られる都市を取りあげ、まずその視点を紹介することから始めます。どのような展開になるか暗中模索ですが、都市の中の建物と建物とのネガティブな空間としてみられていた、街路に注目する視点とか、新しい都市の中に形成されるエスニックコミュニティに対する視点とかの意味を根底に考えながら話を構成していきます。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業ガイダンス
- 第 2 回 項目 人類の発生と都市
- 第 3 回 項目 歴史的な都市
- 第 4 回 項目 近代の都市
- 第 5 回 項目 都市人類学の視点
- 第 6 回 項目 都市民俗学の視点
- 第 7 回 項目 建築学の視点
- 第 8 回 項目 街路の持つ機能 1
- 第 9 回 項目 街路の持つ機能 2
- 第 10 回 項目 まとめ
- 第 11 回 項目 都市のエスニックコミュニティ 1
- 第 12 回 項目 都市のエスニックコミュニティ 2
- 第 13 回 項目 都市の祭の機能 1
- 第 14 回 項目 都市の祭の機能 2
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 出席と期末レポート及び授業内レポートにより評価します。特に出席と期末レポートを重視します。出席率が 70 % 以下の場合は評価対象となりません。

教科書・参考書 教科書：教科書は使用しませんが、適宜必要な資料をコピーして配布します。 / 参考書：大都市の死と生, J・ジェイコブス, 鹿島出版会, 2003 年

メッセージ 映像やスライドなど画像情報を用いてわかりやすく授業を行います。都市空間に対する眼が開かれます。

連絡先・オフィスアワー Email hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp 電話 5239、研究室 213、オフィスアワー 木曜日 12:00~14:00

開設科目	現代政治社会変動論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	纈纈厚				

授業の概要 現代政治社会に表する様々な政治変動を解析していくため現代政治学の研究成果の適用が求められている。そこで、本講義では現代政治学が取り組んでいる課題を紹介し、細部にわたる講義を展開する。/ 検索キーワード 社会変動 構造転換 構造分析

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 現代政治学の対象
- 第 2 回 項目 現代政治学の諸潮流
- 第 3 回 項目 世界システム論の適用
- 第 4 回 項目 現代民主主義の可能性と限界
- 第 5 回 項目 全体主義・保守主義・新自由主義のあいだ
- 第 6 回 項目 国家機能の拡大と政治決定過程
- 第 7 回 項目 現代政治を動かす要因
- 第 8 回 項目 現代国家論の展開
- 第 9 回 項目 近代政党と議会の役割
- 第 10 回 項目 圧力団体の社会的位置
- 第 11 回 項目 デモクラシー・ファシズム・ミリタリズムの接合
- 第 12 回 項目 支配システムの実際
- 第 13 回 項目 戦前期国家権力の特質
- 第 14 回 項目 戦後期国家権力の特質
- 第 15 回 項目 前期講義の纏め
- 第 16 回
- 第 17 回
- 第 18 回
- 第 19 回
- 第 20 回
- 第 21 回
- 第 22 回
- 第 23 回
- 第 24 回
- 第 25 回
- 第 26 回
- 第 27 回
- 第 28 回
- 第 29 回
- 第 30 回

教科書・参考書 教科書：戦争と平和の政治学, 纈纈厚, 北樹出版, 2005 年

メッセージ 現代政治社会を構造的に切開する視点を

開設科目	現代政治社会変動論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	纈纈厚				

授業の概要 本講義では、現代政治社会に表出する諸現象を解説するために不可欠な現代政治学の方法を基底に据えて、現代社会の変動要因を細部に亘って探求する。そこでは最新の当領域における研究成果をも紹介していく。

授業の一般目標 現代社会の諸事象を客観的に考察できる視点を獲得する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 国家と人間
- 第 2 回 項目 政治社会と人間
- 第 3 回 項目 企業社会と人間
- 第 4 回 項目 現代民主主義と人間
- 第 5 回 項目 全体主義・国家主義と人間
- 第 6 回 項目 愛国主義・愛郷主義と人間
- 第 7 回 項目 現代政治の動要因としての人間
- 第 8 回 項目 自由・平等・安全思想と人間
- 第 9 回 項目 高度経済成長と人間
- 第 10 回 項目 競争と差別意識と人間
- 第 11 回 項目 学歴・階層社会と人間
- 第 12 回 項目 政治の人間化と人間の政治化（ 1 ）
- 第 13 回 項目 政治の人間化と人間の政治化（ 2 ）
- 第 14 回 項目 後期の纏め（ 1 ）
- 第 15 回 項目 後期の纏め（ 2 ）
- 第 16 回
- 第 17 回
- 第 18 回
- 第 19 回
- 第 20 回
- 第 21 回
- 第 22 回
- 第 23 回
- 第 24 回
- 第 25 回
- 第 26 回
- 第 27 回
- 第 28 回
- 第 29 回
- 第 30 回

教科書・参考書 教科書：戦争と平和の政治学，纈纈厚，北樹出版，2005 年；いまに問う 憲法 9 条と日本の臨戦体制，纈纈厚，凱風社，2006 年

メッセージ 理論構築なき現状分析はあり得ない

連絡先・オフィスアワー koketsu@yamaguchi-u.ac.jp Office Hour Thu.PM1:00-2:30 TEL/933-5278

開設科目	現代政治社会変動論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	奥田 敦				

授業の概要 「イスラーム法 (シャリーア・イスラーミーヤ)」について、日本法あるいは西欧法との比較を念頭に置きながら、その一般的な性質、法源、個々の法領域、歴史などを紹介する。イスラーム法は、10億を越えるとされるイスラーム教徒の法であり、国民国家あるいは主権国家を基本的な構成単位とすることなしに成立する法秩序であって、民族や人種あるいは習慣や伝統の違いを乗り越える仕組みを有している。したがって、イスラーム法についての正しい認識は、世界の5～6人にひとりが属するイスラーム教徒の共同体およびその法のありように対する理解を正すばかりでなく、全地球規模での公益を公平かつ公正に分配することが求められるこれからの国際社会の法を構築を考える上でも欠かすことができない。アラビア語の専門用語の紹介・解説も積極的に行ないながら、現代を代表するムスリム法学者の見解に依拠しつつイスラーム法の世界を概観したい。

授業の一般目標 「イスラーム法 (シャリーア・イスラーミーヤ)」について、日本法あるいは西欧法との比較を念頭に置きながら、その一般的な性質、法源、個々の法領域、現代的な問題などを、アラビア語の専門用語の紹介・解説も積極的に行ないながら、現代を代表するムスリム法学者の見解に依拠しつつ、概観していく。イスラーム法は、現在13億とも17億ともされるイスラーム教徒の法である。イスラーム世界の現実を垣間見ればわかるように、この法は十分に守られているとは言えない。しかしながら、シャリーアは、本来的には、国民国家あるいは主権国家を基本的な構成単位とすることなしに成立する法秩序であって、民族や人種あるいは習慣や伝統の違いを乗り越える仕組みを有している。したがって、イスラーム法についての正しい認識は、イスラーム教徒の共同体およびその法が何を目指しているのか明らかにし、彼らの共同体およびその法のありように対する理解を正してくれる。さらに、全地球規模での公益を公平かつ公正に分配することが求められるこれからの国際社会の法を構築を考える上でシャリーアの正しい理解は不可欠である。シャリーアが何であるのかにとどまらず、シャリーアを学ぶことによって自分たちの法や社会のかかえる問題や然るべき変化の方向性について考える機会になってくれればと思う。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イスラーム法への招待 内容 イスラーム法研究の必須性と必要性
- 第 2 回 項目 シャリーアとは 内容 シャリーア・フィクフ・カーヌーン・フクムの語義とともに立法者をアッラーとする法について
- 第 3 回 項目 イスラーム法の法源論 (1) 内容 法源論の特徴とクルアーンについて
- 第 4 回 項目 イスラーム法の法源論 (2) 内容 クルアーンとスンナについて
- 第 5 回 項目 イジュティハードの必要性 内容 イジュティハードおよびイジュティハード的法源について
- 第 6 回 項目 イスラーム法の目的 内容 法の目的論と「福利」の概念について
- 第 7 回 項目 イスラーム法の一般的特質 (1) 内容 一般的性質による法の把握。「天啓性」について
- 第 8 回 項目 イスラーム法の一般的特質 (2) 内容 「倫理性」「現実性」について
- 第 9 回 項目 イスラーム法の一般的特質 (3) 内容 「人道性」「調和性」「包括性」について
- 第 10 回 項目 イスラーム法の諸領域 (1) 内容 イバーダートについて
- 第 11 回 項目 イスラーム法の諸領域 (2) 内容 所有権・契約などについて
- 第 12 回 項目 イスラーム法における人と人権 (1) 内容 イスラーム法における人とは
- 第 13 回 項目 イスラーム法における人と人権 (2) 内容 イスラーム法における人権について
- 第 14 回 項目 イスラーム法におけるジハード 内容 ジハードについて考える
- 第 15 回 項目 イスラーム法の現代的意義 内容 グローバル化時代のシャリーアの在り方について

教科書・参考書 教科書：講義ごとにレジюмеを配布します。 / 参考書：イスラームの人権, 奥田敦, 慶應義塾大学出版会, 2005年

備考 集中授業

開設科目	現代国際社会論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	山本真弓				

授業の概要 アジアでもヨーロッパでもない「アメリカ」に注目し、アメリカを通して現代を考える。

授業の一般目標 「アメリカニズム」の歴史を考察し、その内容を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：教科書が理解できること。 思考・判断の観点：自分で考えること。

授業の計画（全体） テキストに添ってディスカッションをする。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 アメリカニズムとは何か？ 1
- 第 2 回 項目 アメリカリズムとは何か？ 2
- 第 3 回 項目 ポピュリズム 1
- 第 4 回 項目 ポピュリズム 2
- 第 5 回 項目 移民と国民社会 1
- 第 6 回 項目 移民と国民社会 2
- 第 7 回 項目 マルティカルチュラリズム 1
- 第 8 回 項目 マルティカルチュラリズム 2
- 第 9 回 項目 反共主義 1
- 第 10 回 項目 反共主義 2
- 第 11 回 項目 アメリカの世紀 1
- 第 12 回 項目 アメリカの世紀 2
- 第 13 回 項目 「近代化」「西欧化」「アメリカ化」
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 予備

成績評価方法（総合） 出席および態度。

教科書・参考書 教科書：アメリカニズム, 古矢旬, 東京大学出版会, 2002 年

開設科目	現代国際社会論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	山本真弓				

授業の概要 南アジア諸国の国家のありようを、インドを中心に、パキスタン、バングラデシュ、ネパール、ブータンを含めた北部地域を中心に見ていく。

授業の一般目標 ヒンドゥー教徒が多数を占める世俗国家（政教分離国家）で、世界最大の民主主義を誇るインド社会について、その等身大の姿を見ていく。

成績評価方法（総合）テキストに添って、その背景なども説明しながら進める

開設科目	現代社会分析論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	小谷典子				

授業の概要 先行研究に関する文献研究の成果を報告する。修士論文のテーマを明確化する。

授業の一般目標 研究テーマを絞り込み、先行研究に関する文献研究の成果を報告し、自らの論文の作成計画をたて、計画に基づいて修士論文が作成できるよう指導する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：先行研究に関する知識を蓄積する 思考・判断の観点：研究テーマを明確化する 関心・意欲の観点：意欲の向上を図る 態度の観点：積極的に取り組む

授業の計画（全体） 報告レポートに関して、議論し、理解を深める

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 研究テーマの検討
- 第 2 回 項目 研究テーマの検討
- 第 3 回 項目 研究テーマの決定
- 第 4 回 項目 文献研究
- 第 5 回 項目 文献研究
- 第 6 回 項目 文献研究
- 第 7 回 項目 文献研究
- 第 8 回 項目 文献研究
- 第 9 回 項目 文献研究
- 第 10 回 項目 研究中間報告
- 第 11 回 項目 文献研究
- 第 12 回 項目 文献研究
- 第 13 回 項目 文献研究
- 第 14 回 項目 文献研究
- 第 15 回 項目 レポート作成

成績評価方法（総合） 出席とレポートの作成、議論への参加度によって装具的に評価する

教科書・参考書 教科書：研究テーマに応じて決める / 参考書：研究テーマに応じて紹介する

連絡先・オフィスアワー Eアドレス：otani@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	現代社会分析論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	小谷典子				

授業の概要 先行研究に関する文献研究の成果を報告する。修士論文のテーマを明確化する。

授業の一般目標 研究テーマを絞り込み、先行研究に関する文献研究の成果を報告し、自らの論文の作成計画をたて、計画に基づいて修士論文が作成できるよう指導する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：先行研究に関する知識を蓄積する 思考・判断の観点：研究テーマを明確化する 関心・意欲の観点：意欲の向上を図る 態度の観点：積極的に取り組む

授業の計画（全体） 報告レポートに関して、議論し、理解を深める

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 文献研究
- 第 2 回 項目 フィールド調査の準備
- 第 3 回 項目 フィールド調査の準備
- 第 4 回 項目 フィールド調査の準備
- 第 5 回 項目 フィールド調査
- 第 6 回 項目 フィールド調査
- 第 7 回 項目 フィールド調査
- 第 8 回 項目 フィールド調査
- 第 9 回 項目 フィールド調査の分析
- 第 10 回 項目 研究中間報告
- 第 11 回 項目 フィールド調査の分析
- 第 12 回 項目 レポート準備
- 第 13 回 項目 レポート準備
- 第 14 回 項目 レポート作成
- 第 15 回 項目 レポート作成

教科書・参考書 教科書：研究テーマに応じて決める / 参考書：研究テーマに応じて紹介する

連絡先・オフィスアワー otani@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	現代社会分析論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	辻正二				

授業の概要 毎回1人づつレポートを発表する形態の授業である。自分の大学院における研究テーマを発展するように指導する授業である。

授業の一般目標 (1) レポートの課題を通して専門的な知識を学ぶとともに解釈の仕方やプレゼンテーションの方法について学ぶ。(2) 専門的な知識を深めるとともに議論に参加し、自分の見解を述べる姿勢を身につける。(3) 修士論文作成に向けての研究指導をする。

開設科目	現代社会分析論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	辻正二				

授業の概要 毎回1人ずつレポートを発表する形態の授業である。自分の大学院における研究テーマを発展するように指導する授業である。

授業の一般目標 (1) レポートの課題を通して専門的な知識を学ぶとともに解釈の仕方やプレゼンテーションの方法について学ぶ。(2) 専門的な知識を深めるとともに議論に参加し、自分の見解を述べる姿勢を身につける。(3) 修士論文作成に向けての研究指導をする。

開設科目	現代社会分析論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	瀧瀬厚				

授業の概要 修士一年は二年後の修士論文提出までの研究計画を作成し、提出する義務を負う。テーマ設定については指導教官のアドバイスを受けつつ、自らの問題設定への取り組みに全力をあげる。修士二年は、年度末に提出を義務づけられている修士論文の執筆に向け、執筆計画の発表を行う。

授業の一般目標 先行研究や資料を十分に精査し、論理的かつ説得的な論文の執筆を目指す。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 修士論文執筆計画の発表
- 第 2 回 項目 以下、論文要旨の報告を行う。適時、指導教官より講義を行う。
- 第 3 回
- 第 4 回
- 第 5 回
- 第 6 回
- 第 7 回
- 第 8 回
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回
- 第 16 回
- 第 17 回
- 第 18 回
- 第 19 回
- 第 20 回
- 第 21 回
- 第 22 回
- 第 23 回
- 第 24 回
- 第 25 回
- 第 26 回
- 第 27 回
- 第 28 回
- 第 29 回
- 第 30 回

連絡先・オフィスアワー koketsu@yamaguchi-u.ac.jp Office Hour PM1:00-2:30 TEL/933-5278

開設科目	現代社会分析論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	瀧瀬厚				

授業の概要 前期に引き続き修士論文の執筆を目標にして報告と講義を同時的に進める。

授業の一般目標 参考資料・文献・論文の収集と読み解きの手法を獲得する。

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 後期における修論執筆計画報告
- 第 2 回 項目 以下、順次報告と講義を進める。
- 第 3 回
- 第 4 回
- 第 5 回
- 第 6 回
- 第 7 回
- 第 8 回
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回
- 第 16 回
- 第 17 回
- 第 18 回
- 第 19 回
- 第 20 回
- 第 21 回
- 第 22 回
- 第 23 回
- 第 24 回
- 第 25 回
- 第 26 回
- 第 27 回
- 第 28 回
- 第 29 回
- 第 30 回

連絡先・オフィスアワー koketsy@yamaguchi-u.ac.jp Office Our Yhu.PM1:00-2:30 TEL/933-5278

開設科目	現代社会分析論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	湯川洋司				

授業の概要 民俗学上の諸問題について、受講者の希望を聞きつつ、文献講読と討論により理解を深める。

授業の一般目標 民俗学上の諸問題について、民俗学的洞察力を養う。

授業の計画(全体) テキストに基づきながら、いくつかに分けたテーマに即して、受講生の自主的な学習成果を発表しながら進める。具体的スケジュールは受講生と相談して決める。

成績評価方法(総合) 授業への取組姿勢と授業終了後に作成提出するレポートの評価による。

連絡先・オフィスアワー yukawa@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	現代社会分析論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	湯川洋司				

授業の概要 民俗学に基づく個別テーマに関する演習を行なう。民俗学の最新の文献を選択し、読み、討論を行う。

授業の一般目標 1 . 文献をよく読み、理解を深めること。 2 . 自らの研究テーマへの取り込みを積極的に図ること。

授業の計画（全体） 民俗学の最新文献を選定して、発表しながら読み進める。

成績評価方法（総合） 授業への取組姿勢と授業終了後に提出するレポートによる。

連絡先・オフィスアワー yukawa@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	現代社会分析論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	坪郷英彦				

授業の概要 物質文化研究の基礎理論と研究の現状を理解する。 / 検索キーワード 物質文化、民俗技術、民具研究

授業の一般目標 主要な論文の講読を中心にして、理論と研究方法についての理解を深める。

授業の計画(全体) 民俗技術研究の主要論文を提示し、読み進めていく。「日本常民生活資料叢書(日本常民文化研究所編)」から選ぶ予定。

成績評価方法(総合) 自主的な研究態度と期末のレポートによって評価する。

教科書・参考書 教科書：論文の複写をテキストとして進める。 / 参考書：適宜紹介する。

連絡先・オフィスアワー Email hide.tsu@yamaguhi-u.ac.jp 電話 5239 研究室 213 オフィスアワー 木曜日 12:00~14:00

開設科目	現代社会分析論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	坪郷英彦				

授業の概要 修士論文執筆のための関連文献を読み進めていく。 / 検索キーワード 物質文化研究

授業の一般目標 基礎理論と研究方法の基本が理解できる。基本的英文文献からの情報の取得

授業の計画(全体) 文化人類学の物質文化に関するテキストを紹介、講読していく。対象は各自の研究に関連するものを取り上げる。

成績評価方法(総合) 各自の自主的研究態度と期末のレポートによって評価する

教科書・参考書 教科書：テキストは各自の研究に沿って選択する。 / 参考書：適宜紹介する

連絡先・オフィスアワー Email hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp 電話 5239 研究室 213 オフィスアワー 木曜日 12:00~14:00

開設科目	現代社会分析論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	横田尚俊				

授業の概要 受講生が自らの研究テーマを深め、修士論文を作成できるよう、指導を行う。したがって、受講生自身による研究成果の報告と参加者全員による討論によって授業は進められていく。但し、受講生の人数と状況によっては、地域社会学または現代社会論のテキストを選び、各自の報告と並行する形で輪読し、討論を行うことも考えている。その場合、どのような文献をテキストに選ぶかは、受講生と相談して決定する(以下の「教科書」、「授業計画」には、現時点で予定しているテキスト名、テキストの内容を掲載しておく)。 / 検索キーワード 社会学理論、社会調査、社会構造、社会変動、地域社会、修士論文

授業の一般目標 (1) 修士論文の研究課題を具体化し、必要な文献、資料、データ等を渉猟して、自らの研究を深められるようにする。(2) 各自の研究課題に基づいて、修士論文の作成に着手できるようにする。

授業の計画(全体) 受講生自身が、自らの問題関心と研究テーマにしたがって、研究報告を行う。それらの報告にしたがって、受講生全員による質疑、討論等を行う。報告の順番や授業外学習の指示等に関しては、受講生と相談の上、第1回目の授業において決定する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション 内容 授業の進め方についての説明
- 第 2 回 項目 資本主義の両義性
- 第 3 回 項目 もうひとつの構造改革
- 第 4 回 項目 市民社会への歴史的発展経路
- 第 5 回 項目 公共性の構造転換とアソシエーション革命
- 第 6 回 項目 社会経済と生活クラブ運動
- 第 7 回 項目 同上(続き)
- 第 8 回 項目 市民社会形成と地域通貨
- 第 9 回 項目 同上(続き)
- 第 10 回 項目 21 世紀社会変革に向かって
- 第 11 回 項目 「市民活動の時代」に向けて
- 第 12 回 項目 受講生の修士論文テーマに関する報告
- 第 13 回 項目 同上
- 第 14 回 項目 同上
- 第 15 回 項目 課題レポート

成績評価方法(総合) 出席 40% 報告・授業への参加度 40% 課題レポート 20%

教科書・参考書 教科書: アソシエーティブ・デモクラシー, 佐藤慶幸, 有斐閣, 2007 年 / 参考書: NPO と市民社会, 佐藤慶幸, 有斐閣, 2002 年; 市民活動論, 後藤和子・福原義春, 有斐閣, 2005 年; そのほかの参考文献に関しては、授業の中で適宜指示する。

メッセージ 初回の授業で、授業の進め方について説明するので、必ず初回の授業に出席すること。

連絡先・オフィスアワー メール・アドレス n.y@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 人文棟 3 階 307 室

開設科目	現代社会分析論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	高橋征仁				

授業の概要 大学院生を対象とする演習において、青年文化の形成と変容をめぐるアプローチについて検討する。 / 検索キーワード 対抗文化 サブカルチャー 島宇宙

授業の一般目標 1 . 日本の青年文化の形成と変容を概観する。 2 . 青年現象の背後にある社会過程やメカニズムについて考察する。 3 . 計量的分析の意義と限界について学ぶ。

授業の計画 (全体) 受講生の報告を中心に、授業を進める

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス 内容 文献検索、レジュメ作成等
- 第 2 回 項目 青年文化についての報告
- 第 3 回 項目 青年文化についての報告
- 第 4 回 項目 青年文化についての報告
- 第 5 回 項目 青年文化についての報告
- 第 6 回 項目 青年文化についての報告
- 第 7 回 項目 青年文化についての報告
- 第 8 回 項目 青年文化についての報告
- 第 9 回 項目 青年文化についての報告
- 第 10 回 項目 青年文化についての報告
- 第 11 回 項目 青年文化についての報告
- 第 12 回 項目 青年文化についての報告
- 第 13 回 項目 青年文化についての報告
- 第 14 回 項目 青年文化についての報告
- 第 15 回 項目 青年文化についての報告

開設科目	現代社会分析論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	山本真弓				

授業の概要 インドの言語問題を、言語政策に焦点を絞ってみていく。

授業の一般目標 ヨーロッパ諸国を基準にした国家と言語のありようを相対化できること。ヨーロッパの国の狭さに気づくこと（インドの広さに気づくこと）。インドの言語事情を歴史的社会的背景に照らして理解すること。日本の言語問題について考える視点を得ること。

授業の計画（全体）言語問題についての一般的理解とインドの言語問題の特殊性の理解と、その双方をその都度織り交ぜて扱う。

成績評価方法（総合） 期末試験

教科書・参考書 教科書：あふれる言語、あふれる文字、鈴木義里、右文書院、2001年 / 参考書：言語的近代を超えて、山本真弓ほか、明石書店、2004年

開設科目	社会調査法演習 I	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	横田尚俊				

授業の概要 社会調査を企画・実施し、データを分析する能力を養うために、調査方法に関する知識と技法を演習（または実習）形式で実践的に学習する。原則として、共通の調査テーマを設定して調査を実施する予定だが、受講生の人数によっては、受講生自身の修士論文作成とかがかわらせて、調査を企画・設計し実施していく。／検索キーワード 社会調査方法論、統計調査、事例調査、調査票、サンプリング、調査対象、コーディング、データクリーニング、単純集計、クロス集計、図表

授業の一般目標 社会調査を企画・実施し、データを収集・分析するための能力を養う。受講生自身が、調査の一連のプロセスを自立して実施できるだけの知識・能力を身につけることを目標とする。

授業の計画（全体） 社会調査の専門的知識を習得しながら、調査の一連の過程を実践する。最終的には、調査データを分析してレポートをとりまとめてもらうか、あるいは、データを利用して修士論文を作成してもらう。

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 インTRODクシヨン（授業の進め方についての説明）
- 第 2 回 項目 社会調査の方法（基礎知識の確認）
- 第 3 回 項目 調査テーマの設定と調査方法の決定
- 第 4 回 項目 調査の企画（調査全体の手順とスケジュールの決定）
- 第 5 回 項目 仮説構成と調査票の検討（調査項目の洗い出し）
- 第 6 回 項目 調査票の検討
- 第 7 回 項目 調査対象（対象者、フィールド）の決定／サンプリングまたはラポール
- 第 8 回 項目 調査の実施（実査）
- 第 9 回 項目 調査の実施（実査）
- 第 10 回 項目 調査の実施（実査）
- 第 11 回 項目 調査データの処理（コーディング、データ入力）
- 第 12 回 項目 調査データの処理（データ入力）
- 第 13 回 項目 調査データの集計・分析（データクリーニングと単純集計）
- 第 14 回 項目 調査データの集計・分析（クロス集計、グラフ作成）
- 第 15 回 項目 データの分析と調査レポートの作成

成績評価方法（総合） 授業への参加度（調査プロセス・作業への参加） 60 % 調査レポート 40 %

教科書・参考書 教科書：社会調査へのアプローチ（第2版）、大谷信介ほか、ミネルヴァ書房、2005年 / 参考書：社会学小辞典、浜嶋朗ほか、有斐閣、1997年；社会調査、森岡清志、日本評論社、2000年；その他の参考文献は、授業の中で適宜紹介する。

連絡先・オフィスアワー メール・アドレス n.y@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 人文棟3階307室

開設科目	社会調査法演習 II	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	高橋征仁				

授業の概要 大学院生を対象として、多変量解析の基本的な考え方について講義を行うとともに、実際の調査データを用いながら、分析及びプレゼンの練習を行う。 / 検索キーワード 多変量解析 重回帰分析 パス解析

授業の一般目標 1 . 多変量解析の基本的な考え方について学ぶ 2 . コンピュータソフトを用いて、実際に多変量解析を行う能力を身につける 3 . 各自の研究テーマに関して、多変量解析を活用する方法を検討する

授業の計画(全体) 多変量解析の技法を学ぶだけでなく、実際にそれを用いて、自分の研究をより洗練していく方法を学ぶ。また社会調査士資格認定機構による専門社会調査士資格 I 科目として、量的データの取り扱いにおける調査倫理についても学ぶ。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 下準備と復習 内容 パソコン、統計ソフト、WEB 情報等々についての解説、基礎概念についての復習
- 第 3 回 項目 ウォーミングアップ 内容 第 1 章
- 第 4 回 項目 数量化理論 III 類 内容 第 2 章
- 第 5 回 項目 数量化理論 III 類 内容 第 2 章
- 第 6 回 項目 主成分分析 内容 第 3 章
- 第 7 回 項目 因子分析 1 内容 第 4 章
- 第 8 回 項目 因子分析 2 内容 第 4 章
- 第 9 回 項目 クラスター分析 内容 第 5 章
- 第 10 回 項目 復習と中間まとめ
- 第 11 回 項目 重回帰分析 内容 第 6 章
- 第 12 回 項目 パス解析
- 第 13 回 項目 判別分析 内容 第 7 章
- 第 14 回 項目 多変量解析における問題 内容 第 9 章
- 第 15 回 項目 復習とまとめ

教科書・参考書 教科書：入門 多変量解析の実際, 朝野ひろ彦, 講談社, 2000 年

開設科目	社会調査法演習 III	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	山本真弓				

授業の概要 この授業は、日本以外の国に生きる人々の歴史を、オーラル・リサーチの手法を使って研究する手法とその成果の表現方法について扱う。まず、日本国内の場合には問題にならない出入国等の行政的手続きや政治情勢が、調査の動向やテーマ選択、ひいては調査の視点そのものをも左右しかねないほど大きな問題であることを押さえる。また、調査者の言語能力、生活能力（衣食住の条件など）が大きな意味をもつことも確認する。そのうえで、具体的な調査の過程とそこで得られた成果の分析、評価、解釈、そして報告に際しての道義的責任などについて考察する。

授業の一般目標 現代史を、その真っ只中を生きてきた人々の〈語り〉、個人的な記憶（忘却と捏造）と経験を人々の口から導き出すことで、公文書や、教科書的な公けの歴史とは異なる動的なものとして捉えることを目的とする。

授業の計画（全体） 技術面や方法論を扱う部分が半分くらいを占めるが、その場合にも、抽象的な説明ではなく、ネパール、インドでの調査を事例にとりあげつつ、実際に作成された資料等を読み込む作業も行なう。

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 現代史とオーラルリサーチ：その位置づけ (1)
- 第 2 回 項目 現代史とオーラルリサーチ：その位置づけ (2)
- 第 3 回 項目 技術的側面の調査・技能習得（治安等政治状況、調査許可およびビザ取得、入国後手続き、禁止事項、使用言語の選択と習得など）とテーマとの関係 (1)
- 第 4 回 項目 技術的側面の調査・技能習得（治安等政治状況、調査許可およびビザ取得、入国後手続き、禁止事項、使用言語の選択と習得など）とテーマとの関係 (2)
- 第 5 回 項目 テーマおよび調査地選定の方法と課題 (1)
- 第 6 回 項目 テーマおよび調査地選定の方法と課題 (2)
- 第 7 回 項目 インフォーマント探しとネットワーク形成 (1)
- 第 8 回 項目 インフォーマント探しとネットワーク形成 (2)
- 第 9 回 項目 関連資料・史料の収集と特定 (1)
- 第 10 回 項目 関連資料・史料の収集と特定 (2)
- 第 11 回 項目 成果の活用（信頼度、基礎文献資料の併用、インフォーマントの位置付けなど）(1)
- 第 12 回 項目 成果の活用（信頼度、基礎文献資料の併用、インフォーマントの位置付けなど）(2)
- 第 13 回 項目 成果の記録と活用法、分析、評価、解釈（何をどのように書くか、書かないか）(1)
- 第 14 回 項目 成果の記録と活用法、分析、評価、解釈（何をどのように書くか、書かないか）(2)
- 第 15 回 項目 成果の記録と活用法、分析、評価、解釈（何をどのように書くか、書かないか）(3)

成績評価方法（総合） 出席、授業への参加度、期末試験の 3 つを総合的に評価する。

地域文化専攻 博物・芸術論

開設科目	原始文化論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	村田裕一				

授業の概要 授業は、講義と演習を取り混ぜた授業スタイルにより構成する。縄文時代から弥生時代への転換過程は、大陸からもたらされた文化要素を様々な形で受容することで成し遂げられる。講義では、特に石器と鉄器という物質文化に注目し、弥生社会の形成過程を概観する。具体的には、日本列島内における大陸系磨製石器の成立とその生産・流通、鉄器の流入と生産、石器から鉄器への転換過程といった問題について探求する。新来の要素の影響下に形成された弥生時代社会の一側面を描き出す。本講義は、上記の総合的テーマで複数年次にわたり継続的に取り組んでいるものであるが、取り扱う個別のテーマ（考古資料および地域）は、毎年・開講学期毎に異なる。／検索キーワード 考古学、石器、鉄器、弥生時代、生産と流通

授業の一般目標 1. 事例研究の一つとして、石器と鉄器を軸に描き出した弥生時代社会について学ぶ。2. 遺物および遺構のデータを操作して、社会構造の復元に応用してゆく過程を習得する。3. 学術論文を批判的に読解することで抽出できる問題点から出発し、自らの理論を構築する力を養う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：A. 石器と鉄器を軸に描き出した弥生時代社会の事例を説明できる。

思考・判断の観点：A. 学術論文を批判的に読解し批評することができる。B. 考古学の方法論を自分の選んだ考古学的題材に効果的に適用し、自らの考えを論理的に説明できる。

授業の計画（全体） 【弥生時代の石器・鉄器】弥生時代の社会構造を石器と鉄器に注目しながら読み解いてゆく。日本列島各地の遺跡および地域について取り上げ、石器と鉄器の特徴について詳細に検討する。その上で、集落の動態とあわせて石器・鉄器の地域性を抽出し、製作技術・生産と流通のシステムといった観点から社会構造の解明へと考察を深める。特定地域や個別遺跡の具体的な状況を受講生とともに課題設定して解明してゆく。受講生は、実際の考古資料を、報告書に掲載されている実測図によって実際に扱うことで、経験的に考古資料操作の方法を学ぶ。＜留意点＞ 講義と演習を取り混ぜた授業スタイルを採用し、受講生の理解のために必要であれば、遺物実測図の並べ替えといった、作業を伴うような時間を設定する。また、授業時間内には受講生に頻繁に意見を求めるので、自分の考えをもって講義にのぞむように。考古学の基本知識を持っていることを前提として講義を進めるので、受講生は考古学概説の単位を取得するか、同等の知識を習得しておくこと。

成績評価方法（総合） 小テスト・授業内レポート 20 %、宿題・授業外レポート 60 %、授業中の発表・資料操作の成果 20 %。

教科書・参考書 参考書：石器入門事典 - 先土器 - - 縄文 -、加藤晋平・鶴丸俊明・鈴木道之助、柏書房、1991年；倭人と鉄の考古学、村上恭通、青木書店、1998年；考古資料大観 第9巻 弥生・古墳時代 石器・石製品・骨角器、北条芳隆・禰宜田佳男 監修、小学館、2002年；石器研究入門、大沼克彦・西秋良宏、鈴木美保 訳、クパプロ、1998年；ここにあげたものは、特に代表的なものである。講義の中で他にも多数の文献を紹介する。

メッセージ 石器や鉄器などの、個別の遺物について詳細に解説する場合や、あるいは統計的手法の解説を行ったりする場合には、講義内容がやや難しくなることもあるかもしれませんが。解説のわかりにくいところ、あるいは意図のわかりにくいところなどは、講義時間の内外に関わらずどんどん質問してください。

連絡先・オフィスアワー E-mail：h-murata@yamaguchi-u.ac.jp，オフィスアワー：水曜日7・8時限

開設科目	原始文化論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	中村友博				

授業の概要 弥生時代の祭祀：弥生時代の人は世界をどのように見ていたのであろうか。この講義は、弥生時代の祭祀具や宗教遺跡を紹介しながら、弥生時代の人間の観念を理解しようとするものである。まずそのためには、どのような遺跡や遺物に弥生人の超自然観が込められているのか、決定しなくてはならない。しかしこれが実に難しい課題であって、例えば非実用品一つとっても、様々な理解の仕方があるが、弥生時代になると、民俗的な風習から「類推」できる遺物も少なくない。そこで、講義ではむしろそうした民俗事例との関連を紹介しながら、どうしたら考古資料から当時の人間の超自然観に接近できるのかを考えてみよう。

授業の一般目標 1．考古学では特殊な遺物である弥生時代の呪術具にどのようなものがあるのか理解する。 2．弥生時代に特徴的な祭祀遺跡は、どのようなものであるのか、理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：考古学における祭祀具を理解する。 思考・判断の観点：研究が到達した問題点を理解する。 関心・意欲の観点：学説について修得する。 態度の観点：根本的な資料にさかのぼる姿勢を身につける。 技能・表現の観点：資料を図、言語で表現できる。 その他の観点：発掘報告書を批判的に読みこなせる。

授業の計画（全体）具体的な遺跡や遺物を紹介しながら、その解釈について講義する。特にこの授業では、一般的ではない見解も導入するから、推論の妥当性が主題となる。戦後、著しく研究が進展した武器形木製品の理解に関しては詳細に検討する。

成績評価方法（総合）授業は特殊な講義であるから、成績の評価は主に受講生独自の研究を期末にレポートとして提出していただき、その成果・到達度を判定する。従って、あまりにも難解なテーマ、逆にあまりにも容易、簡単なテーマを選ばずに、あらかじめ十分に勉強し、正しく理解の及ぶ範囲の内容を徹底的に調べたかどうか、評価のポイントとなる。

連絡先・オフィスアワー tomo@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部 3 階 オフィスアワー月曜日 16:10 ~ 17:40

開設科目	原始文化論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	森下 章司				

授業の概要 鏡と古墳時代： 銅鏡の研究は、古墳の編年、政治史復元、信仰や祭祀の研究に大きな役割を果たしてきた。これまでの研究成果について、銅鏡の用語や分類、研究方法について基本的な事柄を紹介するとともに、考古資料を用いた歴史研究の道筋についても考える。 / 検索キーワード 古墳 銅鏡 三角縁神獣鏡 分類研究 型式学的研究方法

授業の一般目標 銅鏡及び古墳時代にかんする考古学的な研究成果について、基本的な知識を身につける。銅鏡を中心とした考古資料に対するアプローチの方法を考えてみる。考古資料を用いた歴史の研究方法について、批判的に吸収・会得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 銅鏡・古墳時代研究について、基本的な成果を説明できる。 思考・判断の観点： 考古学的な研究方法について、その原理や問題点を自分なりに説明・応用できる。 関心・意欲の観点： 身近な古墳・考古資料について、授業で得た知識・方法を用いて検討する力をもつ。 態度の観点： 古墳時代に関する調査結果の報道、著作、論文などに関心をもつ。 技能・表現の観点： 理解した内容を文章・絵などで適切に表現できる。

授業の計画(全体) 1 古墳とは(具体例にもとづく紹介) 2 銅鏡とは(用語、特徴) 3 銅鏡の分類 4 銅鏡の研究(文様 銘文 製作技術 編年 製作者 科学分析) 5 小林行雄の研究(伝世鏡論 同範鏡論 同型鏡) 6 三角縁神獣鏡をめぐって 7 銅鏡と古墳研究(古墳編年 実年代比定 政治史研究 対外交渉) 8 銅鏡と考古学研究の問題点(分類 型式学的研究 社会復元の方法) 9 銅鏡研究の新展開 レジюме・資料・ビデオ・その他教材を利用する。

成績評価方法(総合) 授業内容の区切りごとに小レポートを提出(兼出席調査; 40%) 授業終了後にレポート(60%) 質問・意見など積極的な参加態度も評価する。

教科書・参考書 参考書：古鏡(改訂版), 小林行雄, 学生社, 2000年; 三角縁神獣鏡の時代, 岡村秀典, 吉川弘文館, 1999年

備考 集中授業

開設科目	原始文化論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	中村友博				

授業の概要 比較考古学演習：考古資料の取り扱いを実践する。主題については、学生の希望にしたがう。資料検索の方法、およびその取り扱いが考古学の正規の手順に則るように指導するが、図書での独学では修得不可能な分野に力点を置く。

授業の一般目標 1．専門的な論文が読めるようになる。 2．専門的な論文が書けるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：従来の学説を承知する。 思考・判断の観点：問題点を明確に整理する。 関心・意欲の観点：徹底した資料収集をはかる。 態度の観点：論点の公共化を図る。 技能・表現の観点：資料の適正な表現法を修得する。

授業の計画（全体）受講生に年間研究計画を立てさせ、それに従って進行するように務める。

成績評価方法（総合）演習の平常時をもって、採点する。専門的な水準に到達していなければ、いくら出席率がよくても高く評価しない。逆に、今まで研究者がだれも気が付かなかったことを、周到に調べ上げ、体系づけ、新たに独創的な研究分野を切り開けば、高く評価する。普通、従来の研究の成果を理解し、問題解決のための資料を検索、検討し、一歩でも研究が前進できればよしとする。

教科書・参考書 教科書：指定せず。 / 参考書：授業中に紹介する。

連絡先・オフィスアワー tomo@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部 3 階 オフィスアワー月曜日 16:10 ~ 17.40

開設科目	原始文化論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	中村友博				

授業の概要 比較考古学演習：考古資料の取り扱いを実践する。主題については、学生の希望にしたがう。その取り扱いが考古学の正規の手順に則るようにつとめる。

授業の一般目標 1．専門的な論文が読めるようになる。 2．専門的な論文が書けるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：従来の学説を承知する。 思考・判断の観点：問題点を整理し、明確化する。 関心・意欲の観点：資料収集の徹底を図る。 態度の観点：論点の公共化をはかる。 技能・表現の観点：効果的な表現法の修得する。

授業の計画（全体） 研究計画を事前にたずね、それに従って進行する。特に苦手とおもう分野があれば、指導が対応できれば、改善するから申し出が可能である。

成績評価方法（総合） 演習の平常時をもって、採点する。専門的な水準に到達していなければ、いくら出席率がよくても高く評価しない。逆に、今まで研究者がだれも気が付かなかったことを、周到に調べ上げ、体系づけ、新たに独創的な研究分野を切り開けば、高く評価する。普通、従来の研究の成果を理解し、問題解決のための資料を検索、検討し、一歩でも研究が前進できればよしとする。

教科書・参考書 教科書：指定せず。 / 参考書：授業中に紹介する。

連絡先・オフィスアワー tomo@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部 3 階 オフィスアワー 月曜日 16:10 ~ 17:40

開設科目	原始文化論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	村田裕一				

授業の概要 受講生の研究能力を高める訓練を目的とする演習である。受講生自らが設定したテーマにそって研究を進め成果を発表する。授業では、受講生の研究の進捗状況を確認するとともに、考古学的方法論の指導、具体的な資料操作方法についての指導を行う。

授業の一般目標 1. 応用的な考古資料の操作方法を習得する。2. 事例研究を行い、発表、討議することで、プレゼンテーションの技術を高めるとともに、いわゆるディベートの能力を訓練する。3. 自らが設定した研究テーマを掘り下げ、修士論文につながる研究成果を導き出す。

授業の到達目標 / 技能・表現の観点： A. 考古資料に対して、より効果的な資料操作を行うことができる。 B. 資料操作の過程、結果を図版・分析表などを駆使して説明できる。 C. 資料操作の結果に基づいて論旨を構築・発表できる。 D. 発表に際しての討議で、的確な受け答えができる。

授業の計画（全体）【考古学の諸問題】受講生は、各自が設定したテーマにそって研究発表を行う。発表者は、レジメの図版の組み方、図表類の効果的な使用を心がける。発表については、受講生全員で問題点などの討議を行うことで発表者はもちろんのこと討議参加者も研究内容を深めてゆく。

成績評価方法（総合）受講者の発表（プレゼン）・授業内での制作作品 100 %。

メッセージ 研究を進展させ、学外の調査研究機関に資料調査に行く機会、あるいは学術研究会等で情報収集を行う機会を多く作ってください。研究は一朝一夕に進展するものではないので、各自の日頃の取り組みが重要です。地道に努力し、多彩な研究分野に興味関心を持って研究を進めてください。研究発表は十分な準備を行い、全力で行ってください。可能であれば、発表者は、パソコンによるプレゼンテーションを取り入れた発表を1回以上行ってください。

連絡先・オフィスアワー E-mail : h-murata@yamaguchi-u.ac.jp , オフィスアワー : 水曜日 7・8 時限

開設科目	原始文化論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	村田裕一				

授業の概要 受講生の研究能力を高める訓練を目的とする演習である。受講生自らが設定したテーマにそって研究を進め成果を発表する。授業では、受講生の研究の進捗状況を確認するとともに、考古学的方法論の指導、具体的な資料操作方法についての指導を行う。

授業の一般目標 1. 応用的な考古資料の操作方法を習得する。2. 事例研究を行い、発表、討議することで、プレゼンテーションの技術を高めるとともに、いわゆるディベートの能力を訓練する。3. 自らが設定した研究テーマを掘り下げ、修士論文につながる研究成果を導き出す。

授業の到達目標 / 技能・表現の観点： A. 考古資料に対して、より効果的な資料操作を行うことができる。 B. 資料操作の過程、結果を図版・分析表などを駆使して説明できる。 C. 資料操作の結果に基づいて論旨を構築・発表できる。 D. 発表に際しての討議で、的確な受け答えができる。

授業の計画（全体）【考古学の諸問題】受講生は、各自が設定したテーマにそって研究発表を行う。発表者は、レジメの図版の組み方、図表類の効果的な使用を心がける。発表については、受講生全員で問題点などの討議を行うことで発表者はもちろんのこと討議参加者も研究内容を深めてゆく。

成績評価方法（総合）受講者の発表（プレゼン）・授業内での制作作品 100 %。

メッセージ 研究を進展させ、学外の調査研究機関に資料調査に行く機会、あるいは学術研究会等で情報収集を行う機会を多く作ってください。研究は一朝一夕に進展するものではないので、各自の日頃の取り組みが重要です。地道に努力し、多彩な研究分野に興味関心を持って研究を進めてください。研究発表は十分な準備を行い、全力で行ってください。可能であれば、発表者は、パソコンによるプレゼンテーションを取り入れた発表を1回以上行ってください。

連絡先・オフィスアワー E-mail : h-murata@yamaguchi-u.ac.jp, オフィスアワー : 水曜日 7・8 時限

開設科目	芸術論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	田中 均				

授業の概要 毎回一人ないし二人ずつ、古代から現代までの代表的な美学者を取り上げて、美学の歴史を概観する。特に 19 世紀後半以降の美学者に重点を置く。

授業の一般目標 代表的な美学者について、その主な学説を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 代表的な美学者について、その主な学説を説明することができる。

思考・判断の観点： 代表的な美学者の学説を比較し、その特徴を指摘することができる。 技能・表現の観点： 古代から現代までの美学的著作に触れ、それらを理解するだけでなく、それを踏まえて自ら

思索し、表現できる。

授業の計画（全体） 毎回一人ないし二人ずつ、古代から現代までの代表的な美学者を取り上げて、美学の歴史を概観する。特に 19 世紀後半以降の美学者に重点を置く。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 西洋古代の美学者（1） 内容 プラトン
- 第 2 回 項目 西洋古代の美学者（2） 内容 アリストテレス
- 第 3 回 項目 西洋近世の美学者（1） 内容 ヒュームとバーク
- 第 4 回 項目 西洋近世の美学者（2） 内容 ヴィンケルマンとレッシング
- 第 5 回 項目 西洋近世の美学者（3） 内容 デイドロとルソー
- 第 6 回 項目 西洋近代の美学者（1） 内容 カント
- 第 7 回 項目 西洋近代の美学者（2） 内容 シェリングとドイツ・ロマン主義
- 第 8 回 項目 西洋近代の美学者（3） 内容 ヘーゲル
- 第 9 回 項目 現代美学の先駆者（1） 内容 ニーチェ
- 第 10 回 項目 現代美学の先駆者（2） 内容 ハイデガー
- 第 11 回 項目 現代美学の先駆者（3） 内容 ベンヤミン
- 第 12 回 項目 まとめ
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

成績評価方法（総合） 学期末の試験。

教科書・参考書 教科書： 適宜コピーを配付する。 / 参考書： 美の変貌, 当津武彦（編）, 世界思想社, 1988 年

開設科目	芸術論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	田中 均				

授業の概要 毎回一人ないし二人ずつ、古代から現代までの代表的な美学者を取り上げて、美学の歴史を概観する。特に 19 世紀後半以降の美学者に重点を置く。

授業の一般目標 代表的な美学者について、その主な学説を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 代表的な美学者について、その主な学説を説明することができる。

思考・判断の観点： 代表的な美学者の学説を比較し、その特徴を指摘することができる。 関心・意欲の観点： 古代から現代までの美学的著作に触れ、それらを理解するだけでなく、それを踏まえて自ら思索し、表現できる。

授業の計画（全体） 毎回一人ないし二人ずつ、古代から現代までの代表的な美学者を取り上げて、美学の歴史を概観する。特に 19 世紀後半以降の美学者に重点を置く。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 西洋現代の美学者（1） 内容 アドルノと批判理論
- 第 2 回 項目 西洋現代の美学者（2） 内容 バルトと構造主義
- 第 3 回 項目 西洋現代の美学者（3） 内容 デリダと脱構築
- 第 4 回 項目 西洋現代の美学者（4） 内容 ダントーと分析美学
- 第 5 回 項目 古代日本の美学者 内容 未定
- 第 6 回 項目 中世日本の美学者 内容 未定
- 第 7 回 項目 近世日本の美学者 内容 未定
- 第 8 回 項目 近代日本の美学者（1） 内容 未定
- 第 9 回 項目 近代日本の美学者（2） 内容 未定
- 第 10 回 項目 近代日本の美学者（3） 内容 未定
- 第 11 回 項目 現代日本の美学者 内容 未定
- 第 12 回 項目 まとめ
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

成績評価方法（総合） 学期末の試験。

教科書・参考書 教科書： 適宜コピーを配布する。 / 参考書： 美の変貌, 当津武彦（編）, 世界思想社, 1988 年

開設科目	芸術論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	藤川哲				

授業の概要 この講義では、国内外で開催されている国際美術展の現況について解説します。デジタル画像やビデオの上映を交えながら国際美術展の歴史、代表的な国際美術展を紹介したのち、特に 1990 年代以降の地球規模化をめぐる今後の課題について、ヨーロッパとアジアとの対比の中で考察します。 / 検索キーワード 国際美術展、現代美術、グローバルゼーション、ビエンナリゼーション

授業の一般目標 (1) 国際美術展の現況について理解する。(2) 地球時代の現代美術に対する問題意識をもつ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 代表的な国際美術展について簡単な説明ができる。 思考・判断の観点： 国際美術展の地球規模化について肯定的な側面と課題とを指摘できる。 関心・意欲の観点： 自ら国際美術展を見に出かける。あるいは、インターネット上の関連サイト、新聞、雑誌で国際美術展に関する情報を収集する。

授業の計画 (全体) 前半は、国際美術展の歴史、日本の参加・開催の経緯等について概観し、中盤は毎回 1 つの国際美術展を取り上げ、話題を集めた作品の紹介や、企画者の意図等の解説を行います。後半は、ヨーロッパとアジアとの対比の中で、国際美術展における地球規模化の問題について紹介します。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 国際美術展の歴史(一) 内容 ヴェネツィア・ビエンナーレ
- 第 3 回 項目 国際美術展の歴史(二) 内容 日本参加の経緯
- 第 4 回 項目 国際美術展の歴史(三) 内容 日本の開催事例
- 第 5 回 項目 事例研究(一) 内容 シンガポール・ビエンナーレ
- 第 6 回 項目 事例研究(二) 内容 サンパウロ・ビエンナーレ
- 第 7 回 項目 事例研究(三) 内容 ドクメンタ
- 第 8 回 項目 事例研究(四) 内容 ヴェネツィア・ビエンナーレ
- 第 9 回 項目 中間まとめ 内容 二〇〇八年開催の国際美術展
- 第 10 回 項目 地球規模化する国際美術展(一) 内容 開催数の増加
- 第 11 回 項目 地球規模化する国際美術展(二) 内容 地球規模化を主題とする現代美術
- 第 12 回 項目 地球規模化する国際美術展(三) 内容 展覧会企画者の役割
- 第 13 回 項目 まとめ
- 第 14 回
- 第 15 回

成績評価方法 (総合) 期末試験の成績を基礎として、中間レポートの提出の有無や出席点などを加えて総合的に評価します。詳しくは講義最初のオリエンテーションで説明します。

教科書・参考書 教科書： 教科書の指定はありません。ウェブサイト (<http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/fujikawa/index.html>) から画像などを見ることができます。必要に応じてプリントを配布します。 / 参考書： ヴェネツィアと日本： 美術をめぐる交流, 石井元章著, "ブリュッケ, 星雲社 (発売)", 1999 年 ; 『 12 人の挑戦 大観から日比野まで 』, , 茨城新聞社, 2002 年 ; ヴェネツィア・ビエンナーレ 日本参加の 40 年, , 国際交流基金ほか, 1995 年 ; アートマネージメント, 伊東正伸ほか, 武蔵野美術大学出版局, 2003 年 ; アートが知りたい, 岡部あおみ編, 武蔵野美術大学出版局, 2005 年 ; 記録集 横浜会議 2 0 0 4 「なぜ、国際展か?」, , BankART1929, 2005 年

メッセージ 今年度は、2006 年に調査したシンガポールやサンパウロ、2007 年夏開催のカッセル(ドイツ) やヴェネツィアの国際美術展を紹介します。

連絡先・オフィスアワー 連絡先: fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー:人文学部の研究室 417 にて水曜日午後

開設科目	芸術論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	藤川哲				

授業の概要 この講義では、2008 年度に開催される展覧会を紹介します。特に、企画趣旨や出品作品、作家について解説します。 / 検索キーワード 展覧会企画、学芸員、現代美術、近代美術、近代以前の美術、日本美術、欧米美術、アジア美術、非欧米圏の美術

授業の一般目標 (1) 幅広い分野の作品に親しむ。(2) 各展覧会の企画趣旨について理解する。(3) 美術展や美術館の制度と背景について理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: (1) 基礎的な美術史の用語を理解し、それを用いて作品を説明できる。(2) 企画展、常設展、公募展、巡回展、回顧展、テーマ展などの展覧会を区別できる。 **思考・判断の観点:** 展覧会の企画趣旨を読み解き、それに対する自らの考えを述べることができる。 **関心・意欲の観点:** (1) 県内・国内で開催されている展覧会情報を集めて、心の琴線に触れた展覧会は見に行く。(2) 海外旅行に出掛ける際には、旅先の美術館や美術展を訪ねる。

授業の計画 (全体) 企画趣旨についての解説や作品画像の上映によって、毎週 1 つずつ展覧会を紹介します。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 展覧会紹介 1
- 第 3 回 項目 展覧会紹介 2
- 第 4 回 項目 展覧会紹介 3
- 第 5 回 項目 展覧会紹介 4
- 第 6 回 項目 展覧会紹介 5
- 第 7 回 項目 展覧会紹介 6
- 第 8 回 項目 展覧会紹介 7
- 第 9 回 項目 展覧会紹介 8
- 第 10 回 項目 展覧会紹介 9
- 第 11 回 項目 展覧会紹介 10
- 第 12 回 項目 展覧会紹介 11
- 第 13 回 項目 展覧会紹介 12
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回

成績評価方法 (総合) 期末試験の成績を基礎として、中間レポートの提出の有無や出席点などを加えて総合的に評価します。詳しくは講義最初のオリエンテーションで説明します。

教科書・参考書 教科書: 教科書の指定はありません。ウェブサイト (<http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/fujikawa/index.html>) から画像などを見ることができます。必要に応じてプリントを配布します。 / 参考書: 五感で恋する名画鑑賞術, 西岡文彦, 講談社, 2003 年; なぜ、これがアートなの?, アメリア・アレナス, 淡交社, 1998 年; なにも見ていない, ダニエル・アラス, 白水社, 2002 年; 現代美術館学, 並木誠士ほか編, 昭和堂, 1998 年; 増補版 美の裏方, 朝日新聞マリオン編集部編, ペリかん社, 1993 年

メッセージ 美術展を見るのが楽しくなります。

連絡先・オフィスアワー 連絡先: fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー: 人文学部の研究室 417 にて水曜日午後

開設科目	芸術論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	藤川哲				

授業の概要 各自の研究に関係のある論文を紹介してもらいます。レジュメ作成のこと。外国語文献の場合は、訳文作成をお願いします。授業は、発表内容に対する討議を中心とします。

授業の一般目標 専門的かつ横断的な視野と思考力を獲得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 自らの研究課題の解明に必要な専門的知識を習得する。 思考・判断の観点： 自らの研究課題をめぐって幅広い視野から多面的に考え抜く。 関心・意欲の観点： 適切な課題設定を行い、解決に向けた最適な筋道を構想した上で、それを着実に実現できる。

授業の計画(全体) 1人の発表者が1~3週間、同じテーマで発表を担当し、集中的に討議します。その後、別の学生による発表と討議、と続けます。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 研究発表
- 第 3 回 項目 研究発表
- 第 4 回 項目 研究発表
- 第 5 回 項目 研究発表
- 第 6 回 項目 研究発表
- 第 7 回 項目 中間討議
- 第 8 回 項目 研究発表
- 第 9 回 項目 研究発表
- 第 10 回 項目 研究発表
- 第 11 回 項目 研究発表
- 第 12 回 項目 研究発表
- 第 13 回 項目 研究発表
- 第 14 回 項目 総括
- 第 15 回

成績評価方法(総合) 発表内容と期末のレポートによって評価します。

教科書・参考書 参考書： 適宜紹介します。

連絡先・オフィスアワー 連絡先: fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー:人文学部の研究室 417 にて水曜日午後

開設科目	芸術論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	藤川哲				

授業の概要 各自の研究に関係のある論文を紹介してもらいます。レジュメ作成のこと。外国語文献の場合は、訳文作成をお願いします。授業は、発表内容に対する討議を中心とします。

授業の一般目標 専門的かつ横断的な視野と思考力の獲得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 自らの研究課題の解明に必要な専門的知識を習得する。 思考・判断の観点： 自らの研究課題をめぐって幅広い視野から多面的に考え抜く。 関心・意欲の観点： 適切な課題設定を行い、解決に向けた最適な筋道を構想した上で、それを着実に実現できる。

授業の計画(全体) 1人の発表者が1~3週間、同じテーマで発表を担当し、集中的に討議します。その後、別の学生による発表と討議、と続けます。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 研究発表 1
- 第 3 回 項目 研究発表 2
- 第 4 回 項目 研究発表 3
- 第 5 回 項目 研究発表 4
- 第 6 回 項目 研究発表 5
- 第 7 回 項目 中間討議
- 第 8 回 項目 研究発表 6
- 第 9 回 項目 研究発表 7
- 第 10 回 項目 研究発表 8
- 第 11 回 項目 研究発表 9
- 第 12 回 項目 研究発表 10
- 第 13 回 項目 研究発表 11
- 第 14 回 項目 総括
- 第 15 回

成績評価方法(総合) 発表内容と期末レポートによって評価します。

教科書・参考書 参考書： 適宜紹介します。

連絡先・オフィスアワー 連絡先: fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー:人文学部の研究室 417 にて水曜日午後

開設科目	芸術論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	田中 均				

授業の概要 受講者による報告と討論による演習であり、修士論文執筆のための準備。具体的には、研究主題に関連する論文の紹介。場合によっては文献の精読も行う。

授業の一般目標 専門的な知識と方法論を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 研究主題について、十分に先行研究を理解し、専門的な知識・方法論を身につける。 思考・判断の観点： 研究主題について、習得した知識・方法論に基づいて論じるべき問題を設定する。 関心・意欲の観点： 研究計画を立て、収集した資料・調査に基づいて独自の議論を展開する。

授業の計画（全体） 受講者の研究主題を踏まえて、第一回の授業で計画を決める。

成績評価方法（総合） 研究報告、学期末レポートによって評価する。

開設科目	芸術論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	田中 均				

授業の概要 受講者による報告と討論による演習であり、修士論文執筆のための準備。具体的には、研究主題に関連する論文の紹介。場合によっては文献の精読も行う。

授業の一般目標 専門的な知識と方法論を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：研究主題について、十分に先行研究を理解し、専門的な知識・方法論を身につける。 思考・判断の観点：研究主題について、習得した知識・方法論に基づいて論じるべき問題を設定する。 関心・意欲の観点：研究計画を立て、収集した資料・調査に基づいて独自の議論を展開する。

授業の計画（全体） 受講者の研究主題を踏まえて、第一回の授業で計画を決める。

成績評価方法（総合） 研究報告、学期末レポートによって評価する。

言語文化専攻 日本語学文学論

開設科目	日本語論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	添田建治郎				

授業の概要 日本語方言の形成過程やその特徴を考えながら、方言研究の意義を明らかにする。 / 検索キーワード 方言の意義、方言変化、方言の働き

授業の一般目標 日本語の方言とは何か、その特徴・意義を考える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本語方言の意義、特徴、変化の姿と分布の意味について理解を深める。 思考・判断の観点：日本語方言についての分析視点を獲得する。 関心・意欲の観点：日本語方言の特徴・意義、変化を再認識する。

授業の計画（全体） 方言の概念規定、方言の意義、方言変化、その働きなどについて述べる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 導入
- 第 2 回 項目 ことばの差
- 第 3 回 項目 方言とは何か
- 第 4 回 項目 方言とは何か
- 第 5 回 項目 方言の意義
- 第 6 回 項目 方言の意義
- 第 7 回 項目 方言の意義
- 第 8 回 項目 方言の変化を生む要因
- 第 9 回 項目 方言の変化を生む要因
- 第 10 回 項目 方言の変化を生む要因
- 第 11 回 項目 文献の中にあらわれる方言
- 第 12 回 項目 文献の中にあらわれる方言
- 第 13 回 項目 文献の中にあらわれる方言
- 第 14 回 項目 方言分布の解釈
- 第 15 回 項目 前期筆記試験

成績評価方法（総合） 定期試験、質問カードの内容、出席

メッセージ 日本語の方言はかけがえのないことば

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 5 階（083-933-5249） オフィスアワー火曜日 13:00～14:30

開設科目	日本語論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	添田建治郎				

授業の概要 日本語方言の形成過程やその特徴を考えながら、方言研究の意義を明らかにする。 / 検索キーワード 方言の意義、方言の変化、方言の働き

授業の一般目標 日本語の方言とは何か、その特徴・意義を考える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本語方言の意義、特徴、変化の姿と分布の意味について理解を深める。 思考・判断の観点：日本語方言についての分析視点を獲得する。 関心・意欲の観点：日本語方言の特徴・意義、変化を再認識する。

授業の計画（全体） 方言の概念規定、方言の意義、方言変化、その働きなどについて述べる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 方言分布の解釈
- 第 2 回 項目 方言分布の解釈
- 第 3 回 項目 方言分布の解釈
- 第 4 回 項目 東西方言境界線
- 第 5 回 項目 東西方言境界線
- 第 6 回 項目 東西方言境界線
- 第 7 回 項目 日本の方言の東西を主とした特徴
- 第 8 回 項目 日本の方言の東西を主とした特徴
- 第 9 回 項目 日本の方言の東西を主とした特徴
- 第 10 回 項目 方言区画
- 第 11 回 項目 東西方言境界線
- 第 12 回 項目 地域的比較の補助的原理
- 第 13 回 項目 地域的比較の補助的原理
- 第 14 回 項目 方言の調査法
- 第 15 回 項目 後期筆記試験

成績評価方法（総合） 定期試験、質問カードの内容、出席

メッセージ 日本語の方言はかけがえのないことば

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 5 階（083-933-5249）オフィスアワー火曜日 13:00～14:30

開設科目	日本語論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	林伸一				

授業の概要 大学院生にとって、修士論文の作成のヒントになるような授業になるようにする。 / 検索キーワード 日本語教授法、エンカウンター

授業の一般目標 大学院生として、自ら構成的グループ・エンカウンターの実施者として、リーダーシップを発揮できるようにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1、構成的グループ・エンカウンターと類似の活動との異同について説明できる。 2、人間関係づくり、リレーションづくりのしかけとしくみを理解する。 3、日本語教育とカウンセリングの接点について理解を深める。 思考・判断の観点： オリジナリティのある思考と客観性のある判断 関心・意欲の観点： 自分の研究テーマに関する関心と意欲を高める 態度の観点： 調査研究への積極的な態度を示す 技能・表現の観点： 1、他者の立場を尊重しながらも、説得力のある自己主張をする。 2、簡潔に自分の意見を述べ、書けるようにする。 3、質問力を身につけ、日本語教授法につながる技法を身につける。

授業の計画（全体） 参加体験型の授業を通して、プレゼンテーションができるようにする

成績評価方法（総合） 出席とレポートを重視し、テストはしない。

教科書・参考書 教科書： プリント配布 / 参考書： エンカウンターで学級が変わる・ショートエクササイズ集、林伸一ほか、図書文化、1999 年； 多文化共生時代の日本語教育、縫部義憲、瀝々社、2002 年； エンカウンターとは何か、国分康孝他、図書文化、2000 年； エンカウンタースキルアップ、国分康孝ほか、図書文化、2001 年； 質問力、齋藤孝、筑摩書房、2003 年

メッセージ 日本語教師志望者、留学生歓迎

連絡先・オフィスアワー 人文学部 2 階 210-2 号室（研究室）、オフィスアワー木曜：11 時～12 時
E-mail: hayashix@yamaguchi-u.ac.jp 携帯：090 - 6415 - 8203

開設科目	日本語論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	林伸一				

授業の概要 日本語学特殊講義後期の授業概要に準ずる / 検索キーワード 日本語教授法、エンカウンター

授業の一般目標 同上

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：前期に同じ 思考・判断の観点：同上 関心・意欲の観点：同上
態度の観点：同上 技能・表現の観点：同上

授業の計画（全体） 特殊講義に準ずる

成績評価方法（総合） 前期に準ずる

教科書・参考書 参考書：特殊講義に同じ

メッセージ 日本語教師志望者、留学生歓迎、他学科・他コースの学生歓迎

連絡先・オフィスアワー 前期に同じ

開設科目	日本語論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	磯部佳宏				

授業の概要 ~ 待遇表現 (1) ~ 日本語の「待遇表現」について、現代語を中心に考察する。

授業の一般目標 日本語の「待遇表現」に関する基礎知識を身につけるとともに、「待遇表現」に関する諸問題について考える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本語の「待遇表現」に関する基本的な知識が身に付いているかを判断する。 思考・判断の観点：日本語の「待遇表現」に関する基本的な知識を使って、思考力を判断する。 関心・意欲の観点：授業に対する取り組みを判断する。

授業の計画 (全体) 待遇表現とは 待遇表現の種類 敬語と待遇表現 人称代名詞 人物の呼称 現代敬語の性格 敬語の持つ効果 敬語の分類 など

成績評価方法 (総合) 期末試験を主たる評価の対象とする。 毎回、授業時に用紙を配布し、出席の確認を兼ねて、指示する内容について記入してもらう。

教科書・参考書 教科書：特定の教科書は使用しない。 随時、補助プリントを使用する。

開設科目	日本語論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	磯部佳宏				

授業の概要 ~ 待遇表現 (2) ~ 日本語の「待遇表現」について、現代語を中心に考察する。

授業の一般目標 日本語の「待遇表現」に関する基礎知識を身に付けるとともに、「待遇表現」に関する諸問題について考える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本語の「待遇表現」に関する基本的な知識が身についているかを判断する。 思考・判断の観点：日本語の「待遇表現」に関する基本的な知識を使って、思考力を判断する。 関心・意欲の観点：授業に対する取り組みを判断する。

授業の計画(全体) 美化語の用法と形式 丁寧語の用法と形式 尊敬語の用法と形式 謙譲語の用法と形式 丁寧語の用法と形式 準敬語とは 問題となる敬語表現 など

成績評価方法(総合) 期末試験を主たる評価の対象とする。 毎回、授業時に用紙を配布し、出席の確認を兼ねて、指示する内容について記入してもらう。

教科書・参考書 教科書：特定の教科書は使用しない。 随時、補助プリントを使用する。

開設科目	日本語論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	米川 明彦				

授業の概要 集団語について先行研究、定義、種類、各集団のことば、造語法、カテゴリー分類、言語意識などから考察し、論じる。また、集団語に関連する俗語、隠語について論じる。 / 検索キーワード 集団語、隠語、俗語

授業の一般目標 1、日本語の位相・多様性を知る。2、ことばの使用の目的と表現について考える。3、日本語研究の方法を学ぶ。4、学生自ら調査・研究するきっかけを与える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 集団語とは何か、ことばは何のためにあるのかなどを知り、理解する。 思考・判断の観点： 集団とことばの関係、言語意識と造語法の関係などを考える。 関心・意欲の観点： いろいろな集団のことばに関心を持ち、調査・研究する意欲を養う。

授業の計画(全体) 上記の目標達成のために講義しつつ、学生に発言を求め、以下に項目と内容を示す。集中講義なので、各週とあるのは、各コマのことである。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 日本語の現状 内容 各種の言語使用調査結果から現状を知る
- 第 2 回 項目 ことばの乱れとは 内容 ことばの「乱れ」の基準は何か考える
- 第 3 回 項目 俗語とは 内容 俗語とは何か分類と種類を述べる
- 第 4 回 項目 俗語とは 内容 俗語の働き、意義、言語意識について考える
- 第 5 回 項目 隠語とは 内容 隠語とは何か、分類と種類を述べる
- 第 6 回 項目 集団語とは 内容 集団語とは何か、先行研究、定義、種類を述べる
- 第 7 回 項目 集団語とは 内容 集団語研究の位置づけとテーマを述べる
- 第 8 回 項目 社会的集団のことば 内容 百貨店、落語家、医療関係者など社会的集団のことばを個別に取りあげる
- 第 9 回 項目 反社会集団のことば 内容 ヤクザ、不良、スリ、泥棒など反社会的集団のことばを個別に取りあげる
- 第 10 回 項目 キャンパス集団のことば 内容 大学などキャンパスに集る集団のことばを取りあげる
- 第 11 回 項目 若者語 内容 若者語の歴史、特徴、背景、造語法を取りあげる
- 第 12 回 項目 意味分類から見た集団語 内容 意味分類から各集団語の特徴を考える
- 第 13 回 項目 造語法から見た集団語 内容 造語法から各集団語の特徴を考える
- 第 14 回 項目 手話 内容 もうひとつの日本の言語である手話の歴史、ろう者の歴史、手話の特徴を述べる
- 第 15 回 項目 「伝え合う」から「通じ合う」へ 内容 コミュニケーションの根底にある相手を理解し、相手から理解されたい「通じ合う心」について述べる

成績評価方法(総合) 出席とレポートによる。

教科書・参考書 教科書： これも日本語！あれも日本語？, 米川明彦, NHK 出版, 2006 年 / 参考書： 現代若者ことば考, 米川明彦, 丸善ライブラリー, 1996 年 若者ことば辞典, 米川明彦, 東京堂出版, 1997 年 若者語を科学する, 米川明彦, 明治書院, 1998 年 集団語辞典, 米川明彦, 東京堂出版, 2000 年 日本俗語大辞典, 米川明彦, 東京堂出版, 2003 年

メッセージ 集団語・若者語を科学しよう！

連絡先・オフィスアワー 林伸一研究室、hayashix@yamaguchi-u.ac.jp 教科書割引購入申し込み先

備考 集中授業

開設科目	日本語論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	添田建治郎				

授業の概要 鷲流狂言を読み、他流派を含む系統関係を考える。

授業の一般目標 鷲流の一本、山口大学図書館所蔵の棲息堂文庫本の意義を明らかにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：狂言資料の系統関係を解明する。 思考・判断の観点：狂言資料の系統関係を解明する方法を学ぶ。 関心・意欲の観点：口承文芸への理解を深める。

授業の計画（全体） 鷲流狂言を読み、本家の仁衛門系と分家の伝衛門系や他流派との系統関係を考える。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 受講生のレポート
- 第 2 回 項目 受講生のレポート
- 第 3 回 項目 受講生のレポート
- 第 4 回 項目 受講生のレポート
- 第 5 回 項目 受講生のレポート
- 第 6 回 項目 受講生のレポート
- 第 7 回 項目 受講生のレポート
- 第 8 回 項目 受講生のレポート
- 第 9 回 項目 受講生のレポート
- 第 10 回 項目 受講生のレポート
- 第 11 回 項目 受講生のレポート
- 第 12 回 項目 受講生のレポート
- 第 13 回 項目 受講生のレポート
- 第 14 回 項目 受講生のレポート
- 第 15 回 項目 受講生のレポート

成績評価方法（総合） 出席、レポートの内容

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 5 階（083-933-5249）オフィスアワー：火曜日 13:00～14:30 研究室：人文学部 5 階 オフィスアワー：火曜日 10:00～12:00 研究室：人文学部 5 階 オフィスアワー：10:00～12:00

開設科目	日本語論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	添田建治郎				

授業の概要 鷲流狂言を読み、他流派を含む系統関係を考える。

授業の一般目標 鷲流の一本、山口大学図書館所蔵の棲息堂文庫本の意義を明らかにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：狂言資料の系統関係を解明する。 思考・判断の観点：狂言資料の系統関係を解明する方法を学ぶ。 関心・意欲の観点：口承文芸への理解を深める。

授業の計画（全体） 鷲流狂言を読み、本家の仁衛門系と分家の伝衛門系や他流派との系統関係を考える。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 受講生のレポート
- 第 2 回 項目 受講生のレポート
- 第 3 回 項目 受講生のレポート
- 第 4 回 項目 受講生のレポート
- 第 5 回 項目 受講生のレポート
- 第 6 回 項目 受講生のレポート
- 第 7 回 項目 受講生のレポート
- 第 8 回 項目 受講生のレポート
- 第 9 回 項目 受講生のレポート
- 第 10 回 項目 受講生のレポート
- 第 11 回 項目 受講生のレポート
- 第 12 回 項目 受講生のレポート
- 第 13 回 項目 受講生のレポート
- 第 14 回 項目 受講生のレポート
- 第 15 回 項目 受講生のレポート

成績評価方法（総合） 出席、レポートの内容

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 5 階（083-933-5249）オフィスアワー：火曜日 13:00～14:30

開設科目	日本語論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	林伸一				

授業の概要 主に日本語教育、日本語教授法関連の学術論文、実践報告を材料に大学院生レベルの演習をおこなう。特に修士論文の作成に直結するような内容の検討を相互に実施する。 / 検索キーワード 論文化、研究発表

授業の一般目標 1、学術論文、実践報告を批判的に読む。 2、修士論文のテーマを明確にしなが、その目的と意義を考える。 3、修士論文の研究方法与手順について検討する。 4、修士論文のデータの取り方、処理のしかたを検討する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1、論文とエッセーの違い 2、学術論文と報告書の違い 3、先行研究とオリジナリティの関係 4、論文と教科書風記述の問題 思考・判断の観点： 1、論旨の一貫性 2、放射思考としてのマインドマップの活用 3、一般論に対して適切な具体例の提示 関心・意欲の観点： 1、テーマに関する関心と意欲 2、研究方法に関する関心と意欲 3、表現方法に関する関心と意欲 態度の観点： 1、積極的に検討に参加する 2、すすんで研究内容を発表する 技能・表現の観点： 1、わかりやすい図表を提示する 2、わかりやすい図表の説明、分析をする 3、独創性のある考察ができる

授業の計画（全体） 上記のような授業の各目標を達成するために授業を対話的なゼミ形式で進めていく。例えば「論文とエッセーの違い」など二項対立的な問いをペアワーク形式で考えていく。院生一人一人の興味と関心に合わせて、具体的な課題を設定し、ディスカッションする。学術論文産出に貢献するような形で、検討とアドバイスを積み重ねていく。

成績評価方法（総合） 出席と論文発表・授業内小レポート（質問・感想カード）を重視し、テストはしない。

教科書・参考書 教科書：プリント配布 / 参考書：プリント配布

メッセージ 事実を発見し、育み、発表して形にする知の広場としてのゼミナール。地道に探求し、独自性を尊重する態度を大切にしたい。

連絡先・オフィスアワー 人文学部 2 階 210 - 2 号室、オフィスアワー：木曜 11 時-12 時

E-mail: hayashix@yamaguchi-u.ac.jp 携帯：090 - 6145 - 8203

開設科目	日本語論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	林伸一				

授業の概要 前期概要に準ずるが、その発展として、修士論文の内容の吟味をする 実際に修士論文の一部を取り出し、できれば学会発表をするための準備をする / 検索キーワード 前期に同じ

授業の一般目標 1、学会発表を想定して、発表申請書を作成する。 2、学会発表のためのハンドアウトを作成する。 3、学会発表のリハーサルをゼミで実施する。 4、指摘された不十分な点を補い、内容を修正する。 5、学会発表の積み重ねで、修士論文を作成する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1、先行研究の知識と理解 2、仮説と検証の関係 思考・判断の観点： 1、独話論の世界に入り込んでいないか 2、序論一本論一結論といった論文の構成の適否 関心・意欲の観点： 前期に準じる 態度の観点： 前期に準じる 技能・表現の観点： 1、図や表の処理の技能 2、文章表現能力

授業の計画（全体） 上記の目標を達成するための演習を対話的ゼミナール形式で行なう。

成績評価方法（総合） 出席と発表を重視し、テストは行なわない。

教科書・参考書 教科書：プリント配布 / 参考書：プリント配布

メッセージ 前期に同じ

連絡先・オフィスアワー 前期に同じ

開設科目	日本語論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	磯部佳宏				

授業の概要 ~日本語の文法・語彙・待遇表現(1)~日本語の文法・語彙・待遇表現に関する研究の流れ、研究者による立場の違いなどのついて概観するとともに、受講者には研究テーマに応じた調査・発表を求める。

授業の一般目標 受講者は、日本語の文法・語彙・待遇表現に関するテーマについて、自発的に問題提起し、調査発表する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：問題点の設定と取り組み。 思考・判断の観点：発表資料のまとめ方。 関心・意欲の観点：質疑応答への参加度。 技能・表現の観点：口頭発表における技術、表現。資料・参考文献の取り扱い方。

授業の計画(全体) 日本語の文法・語彙・待遇表現に関する研究の流れ、研究者による立場の違いなどのついて概観するとともに、受講者には研究テーマに応じた調査・発表を求める。

成績評価方法(総合) 授業時の口頭発表。 質疑応答への参加度。

教科書・参考書 教科書：特定の教科書は使用せず、適宜プリント配布。

開設科目	日本語論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	磯部佳宏				

授業の概要 ~日本語の文法・語彙・待遇表現(2)~日本語の文法・語彙・待遇表現に関する研究の流れ、研究者による立場の違いなどのついて概観するとともに、受講者には研究テーマに応じた調査・発表を求める。

授業の一般目標 受講者は、日本語の文法・語彙・待遇表現に関するテーマについて、自発的に問題提起し、調査発表する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：問題点の設定と取り組み。 思考・判断の観点：発表資料のまとめ方。 関心・意欲の観点：質疑応答への参加度。 技能・表現の観点：口頭発表における技術、表現。資料・参考文献の取り扱い方。

授業の計画(全体) 日本語の文法・語彙・待遇表現に関する研究の流れ、研究者による立場の違いなどのついて概観するとともに、受講者には研究テーマに応じた調査・発表を求める。

成績評価方法(総合) 授業時の口頭発表。 質疑応答への参加度。

教科書・参考書 教科書：特定の教科書は使用せず、適宜プリント配布。

開設科目	日本文学論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	森野正弘				

授業の概要 中古文学作品を対象として、研究史の上で営まれてきた様々な読解を紹介しつつ、そこで提起された諸問題について検討を加えていく。 / 検索キーワード 古典文学

授業の一般目標 中古文学作品を研究する上で必要な知識の習得、及び理解力・分析力・論理的思考力を養成する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 中古文学作品に書かれた内容を正確に読み取るための知識を得ることができる。 思考・判断の観点： 中古文学作品に書かれた内容や研究論文を通じて多面的な物の見方・考え方ができるようになる。

授業の計画（全体） 『源氏物語』について先行研究が提示してきた読解の視点を検証していく。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 『源氏物語』の概説
- 第 2 回 項目 「桐壺」巻の分析（ 1 ）
- 第 3 回 項目 「桐壺」巻の分析（ 2 ）
- 第 4 回 項目 「帚木」巻の分析（ 1 ）
- 第 5 回 項目 「帚木」巻の分析（ 2 ）
- 第 6 回 項目 「夕顔」巻の分析（ 1 ）
- 第 7 回 項目 「夕顔」巻の分析（ 2 ）
- 第 8 回 項目 「夕顔」巻の分析（ 3 ）
- 第 9 回 項目 「若紫」巻の分析（ 1 ）
- 第 10 回 項目 「若紫」巻の分析（ 2 ）
- 第 11 回 項目 「若紫」巻の分析（ 3 ）
- 第 12 回 項目 「末摘花」巻の分析
- 第 13 回 項目 「紅葉賀」巻の分析
- 第 14 回 項目 「花宴」巻の分析（ 1 ）
- 第 15 回 項目 「花宴」巻の分析（ 2 ）

成績評価方法（総合） 期末試験による。

教科書・参考書 教科書： 新編日本古典文学全集 源氏物語 全 6 冊, 阿部秋生・秋山虔・今井源衛・鈴木日出男, 小学館, 1998 年 / 参考書： 授業時に紹介する。

メッセージ 八割以上出席すること。

連絡先・オフィスアワー 水曜日 5・6 時限

開設科目	日本文学論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	森野正弘				

授業の概要 中古文学作品を対象として、研究史の上で営まれてきた様々な読解を紹介しつつ、そこで提起された諸問題について検討を加えていく。 / 検索キーワード 古典文学

授業の一般目標 中古文学作品を研究する上で必要な知識の習得、及び理解力・分析力・論理的思考力を養成する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 中古文学作品に書かれた内容を正確に読み取るための知識を得ることができる。 思考・判断の観点： 中古文学作品に書かれた内容や研究論文を通じて多面的な物の見方・考え方ができるようになる。

授業の計画（全体） 『源氏物語』について先行研究が提示してきた読解の視点を検証していく。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 『源氏物語』の概説
- 第 2 回 項目 「若菜上」巻の読解 (1)
- 第 3 回 項目 「若菜上」巻の諸問題 (1)
- 第 4 回 項目 「若菜上」巻の読解 (2)
- 第 5 回 項目 「若菜上」巻の諸問題 (2)
- 第 6 回 項目 「若菜上」巻の読解 (3)
- 第 7 回 項目 「若菜上」巻の諸問題 (3)
- 第 8 回 項目 「若菜下」巻の読解 (1)
- 第 9 回 項目 「若菜下」巻の諸問題 (1)
- 第 10 回 項目 「若菜下」巻の読解 (2)
- 第 11 回 項目 「若菜下」巻の諸問題 (2)
- 第 12 回 項目 「若菜下」巻の読解 (3)
- 第 13 回 項目 「若菜下」巻の諸問題 (3)
- 第 14 回 項目 「若菜下」巻の読解 (4)
- 第 15 回 項目 「若菜下」巻の諸問題 (4)

成績評価方法 (総合) 期末試験による。

教科書・参考書 教科書：新編日本古典文学全集 源氏物語 全 6 冊, 阿部秋生・秋山虔・今井源衛・鈴木日出男, 小学館, 1998 年 / 参考書：授業時に紹介する。

メッセージ 八割以上出席すること。

連絡先・オフィスアワー 水曜日 5・6 時限

開設科目	日本文学論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	尾崎千佳				

授業の概要 近世文学研究のためのアプローチ法について講述する。文学の周辺にある資料群へも目配りしつつ、適宜演習形態も取り入れながら、文献収集の方法・文献読解の技術・書誌的基礎知識の習得を指導する。

授業の一般目標 近世文学諸作品の読解、及び文学史的位置付けを目指し、その方法論を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 近世文学の作品を原本によりの確に解読することができる。2. 書誌調査の基礎を習得する。 思考・判断の観点： 1. 近世文学の作品を適切に読解することができる。2. 書誌情報を作品の理解に利用することができる。

授業の計画（全体） 附属図書館所蔵の旧制山口高校および旧制山口高等商業学校旧蔵和書を素材として、書誌調査の基礎を講じる。初回は尾崎研究室においてガイダンスを行い、第2回以降は、図書館内貴重書庫室にて授業を行う。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 インTRODクシヨN
- 第 2 回 項目 書誌調査 (1) 内容 写本 (1)
- 第 3 回 項目 書誌調査 (2) 内容 写本 (2)
- 第 4 回 項目 書誌調査 (3) 内容 写本 (3)
- 第 5 回 項目 書誌調査 (4) 内容 写本 (4)
- 第 6 回 項目 書誌調査 (5) 内容 写本 (5)
- 第 7 回 項目 書誌調査 (6) 内容 版本 (1)
- 第 8 回 項目 書誌調査 (7) 内容 版本 (2)
- 第 9 回 項目 書誌調査 (8) 内容 版本 (3)
- 第 10 回 項目 書誌調査 (9) 内容 版本 (4)
- 第 11 回 項目 書誌調査 (9) 内容 版本 (5)
- 第 12 回 項目 書誌調査 (10) 内容 版本 (6)
- 第 13 回 項目 書誌調査 (11) 内容 版本 (7)
- 第 14 回 項目 書誌調査 (12) 内容 版本 (8)
- 第 15 回 項目 書誌調査 (13) 内容 版本 (9)

成績評価方法（総合） 各自が採録した調査カードや授業時の質疑応答により評価する。試験は行わない。

教科書・参考書 教科書： 使用しない。 / 参考書： (1) くずし字用例辞典, 児玉幸多, 東京堂出版; 日本古典書誌学総説, 藤井隆, 和泉書院, 1991 年; 日本文学論所属で古典文学専攻者は購入することが望ましい。

メッセージ 参加者各自、鉛筆（シャープペンシル不可）数本・メジャー（ビニル製）・電卓を第2回の授業時まで準備しておくこと。

連絡先・オフィスアワー 研究室 = 人文 508 / 電話 = 933-5257 / E-mail = ozaki@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	日本文学論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	尾崎千佳				

授業の概要【連歌師の紀行文 宗因『肥後道記』を読む】昨年度に引き続き、近世前期を代表する連歌師・俳諧師、西山宗因の紀行文の嚆矢『肥後道記』をとりあげ、その本文を精読する。『肥後道記』は、『土佐日記』『平家物語』『源氏物語』などの古典を豊富に引用している。その古典引用のあり方を子細に検討することを通して、『肥後道記』の主題に迫りたい。／検索キーワード 連歌師、俳諧師、紀行文、肥後道記、西山宗因

授業の一般目標 1. 連歌師 / 俳諧師の文章の型と主題を理解する。2. 近世文学における古典引用の意味を理解する。3. 研究上の問題設定と論証のあり方の例に触れ、自らの修士論文への備えとする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 連歌師 / 俳諧師の文章を精確に解釈することができる。 思考・判断の観点： 1. 研究上の問題設定と論証のあり方を習得する。 関心・意欲の観点： 1. 問題設定・論証のあり方を自らの課題に反映させることができる。

授業の計画(全体) (1) 問題提起 『肥後道記』の先行研究とその問題 (2) 『肥後道記』と『土佐日記』 (3) 『肥後道記』と『平家物語』 (4) 『肥後道記』と『源氏物語』 (5) 総括と展望 『肥後道記』の文学性と政治性

成績評価方法(総合) 主に期末テストによって評価する。4回の無断欠席でその受験資格を失う。

教科書・参考書 教科書： 使用しない。

連絡先・オフィスアワー 研究室 = 人文 508 / 電話 = 933-5257 / E-mail = ozaki@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	日本文学論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	小野美典				

授業の概要 平家物語研究の現状と課題に関して、具体的に章段を取り上げて考察を進める。半期という短い期間なので、「成立に関する問題」「諸本に関する問題」「平家物語の文芸性に関する問題」の三点に絞って、解説していくこととする。また、本文に関係する資料も可能な限り取り上げて、中世の文学研究に必要な基礎資料に関する解説もあわせて行いたい。/ 検索キーワード 平家物語 読み本系諸本 語り本系諸本 琵琶法師 平忠度

授業の一般目標 『平家物語』研究の現状と課題をしることを目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 『平家物語』の特質に関する理解を深める。 『平家物語』研究の現状と課題について理解を深める。 中世文学研究の基礎資料に関する知識を深める。 思考・判断の観点： 『平家物語』の本文を読み解く。 歴史資料を読み解く。 関心・意欲の観点： 『平家物語』に関する興味を深める。 同時代の他の資料への関心を深める。 態度の観点： 資料を積極的に読もうとする。 技能・表現の観点： 自分の調査・考察したことを的確に文章で表現する。

授業の計画（全体） 資料プリントを使いながら、口頭での解説を中心とした講義形式で授業を進める。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 講義概要の説明
- 第 2 回 項目 講義で使う資料の説明
- 第 3 回 項目 成立の問題に関して（一）
- 第 4 回 項目 成立の問題に関して（二）
- 第 5 回 項目 諸本に関して（一）
- 第 6 回 項目 諸本に関して（二）
- 第 7 回 項目 本文の読解と問題（一）
- 第 8 回 項目 本文の読解と問題（二）
- 第 9 回 項目 本文の読解と問題（三）
- 第 10 回 項目 本文の読解と問題（四）
- 第 11 回 項目 本文の読解と問題（五）
- 第 12 回 項目 本文の読解と問題（六）
- 第 13 回 項目 本文の読解と問題（七）
- 第 14 回 項目 本文の読解と問題（八）
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） レポートによって評価する。なお、出席は3分の2以上出席していることが評価の前提となる。その出席条件を満たした者に関して、レポート内容で成績評価を行う。出席状況を点数化して評価に加点することはしない。なお、講義中の授業への参加態度も、若干の考慮に入れる。

教科書・参考書 教科書： プリントを用いる。 / 参考書： プリントを用いる。

メッセージ 半期という短い期間ですが、『平家物語』の世界に興味を持ってもらえたら幸いです。お互いに楽しく授業を進めましょう。

連絡先・オフィスアワー 第一回の授業でメールアドレスを公表するので、それで受け付ける。また、授業終了後に時間を設けるので、積極的に活用してもらいたい。

開設科目	日本文学論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	平野芳信				

授業の概要 本年度は受講生と相談の上、内容を決定する。

授業の一般目標 未定

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 導入

第 2 回 項目 未定

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回 項目 総括（ 1 ）

第 15 回 項目 総括（ 2 ）

成績評価方法（総合） 未定

教科書・参考書 参考書： 適宜指示します。

連絡先・オフィスアワー 個人研究室 9 3 3 - 5 2 6 2 y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp オフィス・アワー：
追って指示します。

開設科目	日本文学論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	平野芳信				

授業の概要 本年度は受講生と相談の上、内容を決定する。

授業の一般目標 未定

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 導入

第 2 回 項目 未定

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回 項目 総括（ 1 ）

第 15 回 項目 総括（ 2 ）

成績評価方法（総合） 未定

教科書・参考書 参考書： 適宜指示します。

連絡先・オフィスアワー 個人研究室 9 3 3 - 5 2 6 2 y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp オフィス・アワー：
追って指示します。

開設科目	日本文学論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	平野芳信				

授業の概要 本年度は受講生と相談の上、内容を決定する。

授業の一般目標 できれば、一人の作家がどのようにして、自己の個人様式を確立させていくかという問題を検証したい。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 導入

第 2 回 項目 未定

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回 項目 総括（ 1 ）

第 15 回 項目 総括（ 2 ）

成績評価方法（総合） 授業態度や授業への参加度 = 30 % 受講者の発表（プレゼン）や授業内での製作作業（作品） = 30 % 演習 = 30 % 出席 = 10 %

教科書・参考書 教科書：テキストは各自で購入しておいてください。 / 参考書：適宜指示します。

連絡先・オフィスアワー 個人研究室 9 3 3 - 5 2 6 2 y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp オフィス・アワー：追って指示します。

開設科目	日本文学論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	平野芳信				

授業の概要 本年度は受講生と相談の上、内容を決定する。

授業の一般目標 できれば、一人の作家がどのようにして、自己の個人様式を確立させていくかという問題を検証したい。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 導入

第 2 回 項目 未定

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回 項目 総括(1)

第 15 回 項目 総括(2)

成績評価方法(総合) 授業態度や授業への参加度 = 30 % 受講者の発表(プレゼン)や授業内での製作作業(作品) = 30 % 演習 = 30 % 出席 = 10 %

教科書・参考書 教科書：テキストは各自で購入しておいてください。 / 参考書：適宜指示します。

連絡先・オフィスアワー 個人研究室 9 3 3 - 5 2 6 2 y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp オフィス・アワー：追って指示します。

開設科目	日本文学論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	森野正弘				

授業の概要 中古文学作品の研究。 / 検索キーワード 中古文学

授業の一般目標 中古文学作品を研究するうえで必要な知識の習得、及び理解力・分析力・論理的思考力などを養成する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 中古文学作品に書かれた内容を正確に読み取るための知識を得ることができる。 思考・判断の観点： 中古文学作品に書かれた内容や研究論文を通じて多面的な物の見方・考え方ができるようになる。 関心・意欲の観点： 自発的に中古文学作品を読み進め、関連する事項について調査・研究する意欲を高める。 態度の観点： 中古文学作品に提起されている問題を主体的に考え、自ら探究することができる。 技能・表現の観点： 考察した結果を文章や口頭で適切に表現できるようになる。

授業の計画（全体） 中古文学作品を取りあげ、本文の異同や諸注釈について検討を加え、発表担当者の考察を展開していく。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 研究テーマの検討
- 第 3 回 項目 研究テーマの発表
- 第 4 回 項目 先行研究論文の収集 (1)
- 第 5 回 項目 先行研究論文の収集 (2)
- 第 6 回 項目 先行研究論文の収集 (3)
- 第 7 回 項目 先行研究論文の整理 (1)
- 第 8 回 項目 先行研究論文の整理 (2)
- 第 9 回 項目 発表資料の作成 (1)
- 第 10 回 項目 発表資料の作成 (2)
- 第 11 回 項目 発表資料の作成 (3)
- 第 12 回 項目 研究発表 (1)
- 第 13 回 項目 研究発表 (2)
- 第 14 回 項目 研究発表 (3)
- 第 15 回 項目 総括

成績評価方法（総合） 資料の完成度・レポートによる。

教科書・参考書 教科書： 授業時に指示する。 / 参考書： 授業時に紹介する。

メッセージ 八割以上出席すること。

連絡先・オフィスアワー 水曜日 5・6 時限

開設科目	日本文学論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	森野正弘				

授業の概要 中古文学作品の研究。 / 検索キーワード 中古文学

授業の一般目標 中古文学作品を研究するうえで必要な知識の習得、及び理解力・分析力・論理的思考力などを養成する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 中古文学作品に書かれた内容を正確に読み取るための知識を得ることができる。 思考・判断の観点： 中古文学作品に書かれた内容や研究論文を通じて多面的な物の見方・考え方ができるようになる。 関心・意欲の観点： 自発的に中古文学作品を読み進め、関連する事項について調査・研究する意欲を高める。 態度の観点： 中古文学作品に提起されている問題を主体的に考え、自ら探究することができる。 技能・表現の観点： 考察した結果を文章や口頭で適切に表現できるようになる。

授業の計画（全体） 中古文学作品を取りあげ、本文の異同や諸注釈について検討を加え、発表担当者の考察を展開していく。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 研究テーマの検討
- 第 3 回 項目 研究テーマの発表
- 第 4 回 項目 先行研究論文の収集 (1)
- 第 5 回 項目 先行研究論文の収集 (2)
- 第 6 回 項目 先行研究論文の収集 (3)
- 第 7 回 項目 先行研究論文の整理 (1)
- 第 8 回 項目 先行研究論文の整理 (2)
- 第 9 回 項目 発表資料の作成 (1)
- 第 10 回 項目 発表資料の作成 (2)
- 第 11 回 項目 発表資料の作成 (3)
- 第 12 回 項目 研究発表 (1)
- 第 13 回 項目 研究発表 (2)
- 第 14 回 項目 研究発表 (3)
- 第 15 回 項目 総括

成績評価方法（総合） 資料の完成度・レポートによる。

教科書・参考書 教科書： 授業時に指示する。 / 参考書： 授業時に紹介する。

メッセージ 八割以上出席すること。

連絡先・オフィスアワー 水曜日 5・6 時限

開設科目	日本文学論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	尾崎千佳				

授業の概要 作品作家の選定・研究史の整理と把握・問題の設定について、各自の研究計画に即して指導する。

授業の一般目標 修士論文作成のための具体的な方法習得を目的とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. とりあげる作家や作品を選定することができる。 2. 先行研究を収集し整理することができる。 思考・判断の観点： 1. 研究史を把握し問題を提起することができる。 2. 論文テーマを自ら設定することができる。 関心・意欲の観点： 1. 選定した作家や作品の史的位置付けについて、適切に説明することができる。 2. 研究史とその問題点について適切に説明することができる。

授業の計画（全体） 口頭発表、レポート提出、個別面談の3段階で行う。

成績評価方法（総合） 授業時の口頭発表や提出レポートにより評価する。試験は行わない。

教科書・参考書 教科書：プリント配付による。 / 参考書：授業時に指示する。

メッセージ より具体的な授業計画は、参加者と相談のうえ、初回時に提示します。

連絡先・オフィスアワー 研究室 = 人文 508 / 電話 = 933-5257 / E-mail = ozaki@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	日本文学論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	尾崎千佳				

授業の概要 作品作家の選定・研究史の整理と把握・問題の設定について、各自の研究計画に即して指導する。

授業の一般目標 修士論文作成のための具体的な方法習得を目的とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. とりあげる作家や作品を選定することができる。 2. 先行研究を収集し整理することができる。 思考・判断の観点： 1. 研究史を把握し問題を提起することができる。 2. 論文テーマを自ら設定することができる。 関心・意欲の観点： 1. 選定した作家や作品の史的位置付けについて、適切に説明することができる。 2. 研究史とその問題点について適切に説明することができる。

授業の計画（全体） 口頭発表、レポート提出、個別面談の3段階で行う。

成績評価方法（総合） 授業時の口頭発表や提出レポートにより評価する。試験は行わない。

教科書・参考書 教科書：プリント配付による。 / 参考書：授業時に指示する。

メッセージ より具体的な授業計画は、参加者と相談のうえ、初回時に提示します。

連絡先・オフィスアワー 研究室 = 人文 508 / 電話 = 933-5257 / E-mail = ozaki@yamaguchi-u.ac.jp

言語文化専攻 中国語学文学論

開設科目	中国語論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	更科慎一				

授業の概要 明清時代の中国や同時代の周辺国において、漢語と漢語以外の言語の対音・対訳文献が多数作られた。これらの文献は、中国語学の研究資料として魅力の大きいものだが、対訳 という性質上とつきづらいいこともまた事実である。本授業では、19 世紀末の朝鮮で作られた漢語会話教科書『華音撮要』を取り上げ、その漢語の音韻・語彙・文法的特徴を分析してゆく。授業では朝鮮語を扱うが、受講者に朝鮮語の知識は必要ない。 / 検索キーワード 対音・対訳文献、華音撮要、19 世紀末、北方漢語

授業の一般目標 (1)19 世紀末の朝鮮における漢語学習の実態について理解する。(2)19 世紀末の中国北方漢語の音韻、語彙、文法の特徴について理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：1. 明清時代中国や同時期の朝鮮における多言語学習の実態について、自身の研究の観点から説明できる。2. 近代から現代に到る漢語の変化について説明できる。3. 干渉や類推など、対音対訳資料に特有の非母語話者の言語現象について指摘できる。思考・判断の観点：1. 非母語話者が記述した資料に基づいて言語を研究することの意味を十分に理解し、これを自身の研究と結びつけることができる。技能・表現の観点：1. 異体文字を一定の方式に基づいたローマ字に転写することができる。2. 韻書などを使って、漢字の音韻的地位を検索することができる。

授業の計画(全体) 授業では、『華音撮要』と、内容がほぼ同じで、漢語に対して朝鮮語訳が付されている『中華正音』の二種をテキストとして用いる。受講者は、テキスト中のハングル音注をローマ字に転写し、漢語に日本語訳をつけ、授業中に発表を行う。

成績評価方法(総合) 受講者の授業内発表をもとに成績評価を行う。

教科書・参考書 教科書：教科書は使いません。教員がプリントを用意します。 / 参考書：授業中に適宜指示します。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文研究棟 516 室 研究室に行くとき必ずいる日時：月曜日 12:50-16:00

開設科目	中国語論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	更科慎一				

授業の概要 前期に引き続き、19 世紀末の朝鮮で作られた漢語会話教科書『華音撮要』を取り上げ、その漢語の音韻・語彙・文法的特徴を分析してゆく。授業では朝鮮語を扱うが、受講者に朝鮮語の知識は必要ない。 / 検索キーワード 対音・対訳文献、華音撮要、19 世紀末、北方漢語

授業の一般目標 (1)19 世紀末の朝鮮における漢語学習の実態について理解する。(2)19 世紀末の中国北方漢語の音韻、語彙、文法の特徴について理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：1. 明清時代中国や同時期の朝鮮における多言語学習の実態について、自身の研究の観点から説明できる。2. 近代から現代に到る漢語の変化について説明できる。3. 干渉や類推など、対音対訳資料に特有の非母語話者の言語現象について指摘できる。 思考・判断の観点：1. 非母語話者が記述した資料に基づいて言語を研究することの意味を十分に理解し、これを自身の研究と結びつけることができる。 技能・表現の観点：1. 異体文字を一定の方式に基づいたローマ字に転写することができる。2. 韻書などを使って、漢字の音韻的地位を検索することができる。

授業の計画(全体) 授業では、前期に引き続いて、『華音撮要』と『中華正音』の二種をテキストとして用いる。受講者は、テキスト中のハングル音注をローマ字に転写し、漢語に日本語訳をつけ、授業中に発表を行う。

成績評価方法(総合) 受講者の授業内発表をもとに成績評価を行う。

教科書・参考書 教科書：教科書は使いません。教官がプリントを用意します。 / 参考書：授業中に適宜指示します。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文研究棟 516 室 研究室に行くとき必ずいる日時：月曜日 12:50-16:00

開設科目	中国語論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	竹越 孝				

授業の概要 この授業では、中国の元・明・清時代に相当する時期に、李氏朝鮮王朝（1392-1910）で編纂・刊行された中国語会話教科書類を素材として、当時外交・貿易上の必要性から中国語を学んだ外国人はどのようにして話し言葉としての中国語を習得したか、そしてまた彼らが学んだ中国語とはどのようなものであったか、という問題を論じる。

授業の一般目標 朝鮮半島における中国語教育史を概観することを通じて、近世中国語の諸特徴とその通時的变化について考察することができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1）現代中国語の前段階としての「近世中国語」という概念を理解することができる。 2）朝鮮半島において中国語会話教科書が必要とされる歴史的背景について理解することができる。 3）李氏朝鮮王朝期における中国語会話教科書類の構成としくみについて理解することができる。 思考・判断の観点： 1）中国語会話教科書類の改訂状況から近世中国語の音韻的・文法的变化について考察することができる。 2）中国語会話教科書類に反映された近世中国語の諸特徴について考察することができる。 3）広く塞外文献が近世中国語史研究において持つ意義を実感することができる。

授業の計画（全体） 朝鮮半島における中国語教育史とその近世中国語史上における意義を概観することを目的として、以下のようなトピックを取り上げる。なお、必要に応じてハングルの転写練習を行うが、朝鮮語に関する予備知識は必要としない。 1. はじめに 現代中国語ができるまで 2. かつて中国語を学んだ人々 3. 朝鮮半島と中国大陸 4. 司訳院の中国語会話教科書 5. 『老乞大』と『朴通事』 6. ハングルによる中国語音表記法 7. 改訂に反映した音韻の変化 8. 改訂に反映した文法の変化 9. 朝鮮資料の中の中国語 10. おわりに 外国人の学んだ中国語

成績評価方法（総合） 平常点及びレポートによる。授業への出席を 50%、授業において指示したレポートを 50%として評価する。

教科書・参考書 教科書：教科書は使用しない。教材はプリントを配布する。 / 参考書：参考書は授業中に適宜紹介する。

備考 集中授業

開設科目	中国語論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	富平美波				

授業の概要 中国語音韻学に関連する内容の文献を講読しつつ、同分野の基本的知識の習得と問題点に関する考察を行う。なお、取り扱う領域や講読文献に関しては、受講者と相談の上決定することも可能である。最後に、各自研究テーマを決めてレポートを作成する。/ 検索キーワード 中国語学 音韻学 講読 考察

授業の一般目標 中国語音韻学に関する基本的知識をマスターするとともに、中国語学関連文献の読解力と、問題点への考察力を養う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 . 中国語音韻学の基本知識をマスターする。 2 . 文献資料の内容が正しく理解できる。 思考・判断の観点： 中国語に見られる特定の事象に関して、正しい考察・判断ができる。 技能・表現の観点： 自身の研究成果を、レポートの形式により効果的に報告できる。

授業の計画（全体） 最初の回に、各自の研究テーマを発表しあい、授業で取り扱う領域について共通認識を得る。次回までに、講読すべき文献資料を決定する。その後、順次講読に入る。受講者は、毎回の講読部分を担当するほか、授業中に疑問点・問題点を指摘し、討論に加わる。

成績評価方法（総合） 授業中の課題の達成度と学期末のレポート、授業中の考察・討論への参加度によって総合的に評価する。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部5階 Tel.933-5251 オフィスアワー：月曜日 12:50-16:00

開設科目	中国語論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	富平美波				

授業の概要 前期の授業に引き続き、中国語音韻学に関連する内容の文献を講読しつつ、同分野の基本的知識の習得と問題点に関する考察を行う。なお、取り扱う領域や講読文献に関しては、受講者と相談の上決定することも可能である。最後に、各自研究テーマを決めてレポートを作成する。 / 検索キーワード 中国語学 音韻学 講読 考察

授業の一般目標 中国語音韻学に関する基本的知識をマスターするとともに、中国語学関連文献の読解力と、問題点への考察力を養う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 . 中国語音韻学の基本知識をマスターする。 2 . 文献資料の内容が正しく理解できる。 思考・判断の観点： 中国語に見られる特定の事象に関して、正しい考察・判断ができる。 技能・表現の観点： 自身の研究成果を、レポートの形式により効果的に報告できる。

授業の計画（全体） 最初の回に、各自の研究テーマを確認しあい、授業で取り扱う領域について共通認識を得た上で、講読すべき文献資料を決定する。その後、順次講読に入る。受講者は、毎回の講読部分を担当するほか、授業中に疑問点・問題点を指摘し、討論に加わる。

成績評価方法（総合） 授業中の課題の達成度と学期末のレポート、授業中の考察・討論への参加度によって総合的に評価する。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部5階 Tel.933-5251 オフィスアワー：月曜日 12:50-16:00

開設科目	中国文学論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	阿部泰記				

授業の概要 包拯伝説の歴史的展開について講じる。包拯は北宋時代の官吏で、毅然とした態度で奸臣に立ち向かいその野望を挫いたため、民衆に慕われてその業績が文学に取材されて伝説的な人物となり、現代中国でも「包公」と言えば知らない人はいないし、崇拜の対象ともなっている。本講義ではこうした文学を媒体とした包拯の伝説を具体的に紹介していく。／検索キーワード 包拯、包公、民間伝説、物語、民間信仰、包公廟

授業の一般目標 1. 中国の政治と文学の関係について理解を深める。 2. 伝説が文学を媒体として拡散することを理解する。 3. 伝説が事実として認識される事象について理解する。 4. 中国の物語のジャンルについて知る。 5. 伝説と信仰との関係について考える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 包拯という人物の業績について知る。 2. 包拯の伝説に取材した文学を知る。 3. 包拯を祀った廟の分布を知る。 思考・判断の観点： 1. 民衆がなぜ包拯を慕うのかを考える。 2. 民衆にとって文学とは何かを考える。 関心・意欲の観点： 1. 包拯について図書館で文献を調べてみる。 2. インターネットで包拯に取材した文学や包公廟について検索してみる。 態度の観点： 1. 授業を真剣に聞く態度をやしなう。 2. 授業の内容をノートする態度をやしなう。 技能・表現の観点： 1. 手際よくノートする訓練をする。 2. 中国のインターネットを検索する能力を身につける。

授業の計画（全体） 1. 包拯の伝説に取材した文学を紹介し、その内容を分析する。 2. 包拯を祀った経典や祠廟を紹介し、その意義を考察する。

成績評価方法（総合） 1. 出席・レポート提出ができない者は評価の対象外である。 2. どれだけ授業を理解できたかを評価の基準とし、試験によってそれを検査する。

教科書・参考書 参考書：包公伝説の形成と展開, 阿部泰記著, 汲古書院, 2004年；中国の公案小説, 莊司格一著, 研文出版, 1988年；阿部泰記『包公伝説の形成と展開』（汲古書院） 莊司格一『中国の公案小説』（研文出版）

開設科目	中国文学論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	阿部泰記				

授業の概要 包拯伝説の歴史的展開について講じる。包拯は北宋時代の官吏で、毅然とした態度で奸臣に立ち向かいその野望を挫いたため、民衆に慕われてその業績が文学に取材されて伝説的な人物となり、現代中国でも「包公」と言えば知らない人はいないし、崇拜の対象ともなっている。本講義ではこうした文学を媒体とした包拯の伝説を具体的に紹介していく。／検索キーワード 包拯、包公、民間伝説、物語、民間信仰、包公廟

授業の一般目標 1. 中国の政治と文学の関係について理解を深める。 2. 伝説が文学を媒体として拡散することを理解する。 3. 伝説が事実として認識される事象について理解する。 4. 中国の物語のジャンルについて知る。 5. 伝説と信仰との関係について考える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 包拯という人物の業績について知る。 2. 包拯の伝説に取材した文学を知る。 3. 包拯を祀った廟の分布を知る。 思考・判断の観点： 1. 民衆がなぜ包拯を慕うのかを考える。 2. 民衆にとって文学とは何かを考える。 関心・意欲の観点： 1. 包拯について図書館で文献を調べてみる。 2. インターネットで包拯に取材した文学や包公廟について検索してみる。 態度の観点： 1. 授業を真剣に聞く態度をやしなう。 2. 授業の内容をノートする態度をやしなう。 技能・表現の観点： 1. 手際よくノートする訓練をする。 2. 中国のインターネットを検索する能力を身につける。

授業の計画（全体） 1. 包拯の伝説に取材した文学を紹介し、その内容を分析する。 2. 包拯を祀った経典や祠廟を紹介し、その意義を考察する。

成績評価方法（総合） 1. 出席・レポート提出ができない者は評価の対象外である。 2. どれだけ授業を理解できたかを評価の基準とし、試験によってそれを検査する。

教科書・参考書 参考書：包公伝説の形成と展開, 阿部泰記著, 汲古書院, 2004 年；中国の公案小説, 莊司格一著, 研文出版, 1988 年；阿部泰記『包公伝説の形成と展開』（汲古書院） 莊司格一『中国の公案小説』（研文出版）

開設科目	中国文学論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	野澤 俊敬				

授業の概要 21 世紀に入って国境を越えた人的交流がさらに増大しつつある今日、それにもなつて異文化摩擦も日常的に起こっている。その異文化摩擦を引き起こしている原因のひとつが、外国人＝異文化を持つ他者に対するステレオタイプの決めつけである。近年、特に中国との人的交流が急速に拡大しているが、中国においても、日本においても、相手についてのステレオタイプの理解に起因するトラブルが後を絶たない。隣国の中国の人々の目に日本人はどのように映っているのだろうか。また、我々日本人は中国人についてどのようなイメージを抱いているのであろうか。昨年 4 月に中国各地で起こった「反日デモ」や日本における「反中」観や「嫌中」感の増大の背景としては、そうした相手に対する偏った見方が双方に広まりつつあるということが考えられる。この講義では、1930 年代から今日に至るまでの中国映画と日本映画の中から、日本人が登場する中国映画と中国人が登場する日本映画を時代順に並行して取り上げ、それぞれの日本人像と中国人像の典型的な描かれ方を紹介する。そこにステレオタイプの描写が認められる場合は、当時の歴史背景、政治情勢、社会状況、教育内容などについて様々な角度から分析し、そのステレオタイプが形成された原因を追究する。そして、そのステレオタイプの理解が現在にまで影響を及ぼしている場合は、それを是正する方策を探り、21 世紀における日本と中国の望ましい共生のあり方を展望してみたい。/ 検索キーワード 映画、異文化理解、ステレオタイプ、日中関係

授業の一般目標 (1) 隣国である日本と中国の間で、相手の国民・民族に対するイメージがどのようなかを知り、そこに偏見や誤解が認められる場合に、その原因を時代背景や社会状況などから考える。(2) 日本人として、同時代を生きる中国人といかなる関係を築いてゆくかについて、自分自身の問題として考える。(3) グローバル時代における異文化理解の重要性を考える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 . 中国映画に描かれた日本人像と日本映画に描かれた中国人像を通して、時代背景と社会状況などを知り、日中関係の歴史についての理解を深める。 思考・判断の観点： 1 . それぞれの国の映画になぜステレオタイプの描写が生まれて定着していったのかを様々な角度から考察する。 関心・意欲の観点： 1 . 隣国である中国に対する関心を強め、さらに広く深く知ろうとする意欲をもつ。 態度の観点： 1 . 日本と中国の間の誤解や摩擦に対して、相手の立場からも問題を考えることを通して、客観的かつ公平な物の見方を身につける。

授業の計画(全体) 1920 年代後半から現在に至るまでに作られた中国映画と日本映画の中から、日本人が登場する中国映画と中国人が登場する日本映画を選び、特徴的な描き方や典型的な場面を紹介する。講義は講師による映像資料とそれに関連する文献資料の提示、分析を中心に進められるが、受講者にも意見を求め、部分的に討論形式もとりいれて行う。2、3 回ごとに感想や疑問を短いレポートにして提出してもらう。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 無声映画時代の中国映画 内容 中国映画に描かれた日本人
- 第 2 回 項目 1920 年代から 1937 年までの中国映画 内容 中国映画に描かれた日本人
- 第 3 回 項目 1920 年代から 1937 年までの中国映画 内容 中国映画に描かれた日本人
- 第 4 回 項目 1920 年代から 1937 年までの中国映画 内容 中国映画に描かれた日本人
- 第 5 回 項目 1920 年代から 1937 年までの日本映画 内容 日本映画に描かれた中国人
- 第 6 回 項目 日中戦争時代の中国映画 内容 中国映画に描かれた日本人
- 第 7 回 項目 日中戦争時代の日本映画 内容 日本映画に描かれた中国人
- 第 8 回 項目 満州映画 内容 満州映画の中の中国人と日本人
- 第 9 回 項目 戦後から日中国交正常化まで 内容 中国映画に描かれた日本人
- 第 10 回 項目 戦後から日中国交正常化まで 内容 中国映画に描かれた日本人
- 第 11 回 項目 戦後から日中国交正常化まで 内容 日本映画に描かれた中国人
- 第 12 回 項目 国交回復時期から 80 年代 内容 中国映画に描かれた日本人

第13回 項目 国交回復時期から80年代 内容 日本映画に描かれた中国人

第14回 項目 90年代から現在 内容 中国映画に描かれた日本人

第15回 項目 90年代から現在 内容 日本映画に描かれた中国人

成績評価方法(総合) (1) 2, 3回ごとに提出させる短いレポートを評価の対象とする。(2) 討論における意見を評価の対象とする。(3) 最後に全体を通してのまとめと自分で作品と課題を選んだレポートを提出させる。

教科書・参考書 教科書: プリントを配布する。/ 参考書: アジア映画に見る日本 I, 門間貴志, 社会評論者, 1995年; 外国映画にみるアジア・太平洋戦争, 柚木浩, 三一書房, 1995年; <鬼子>たちの肖像, 武田雅哉, 中公新書, 2005年; 中国映画の100年, 佐藤忠男, 二玄社, 2006年; スクリーンの中の中国・台湾・香港, 戸張東夫, 丸善ブックス, 1996年

メッセージ 講義は受講生に感想や意見を求めつつ進めてゆきます。受講生には自分の考えを積極的に述べるよう期待します。

連絡先・オフィスアワー nozawa@imc.hokudai.ac.jp

備考 集中授業

開設科目	中国文学論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	根ヶ山 徹				

授業の概要 『元曲選』『六十種曲』等に収録される元明の戯曲脚本を取り上げ、注釈を施しながら読解する。

授業の一般目標 古代漢語で書かれた原文を読解し、分析する能力を養うことを目標とする。

授業の計画（全体） 原文の解釈につき、毎回担当し、発表・討議する。

開設科目	中国文学論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	根ヶ山 徹				

授業の概要 前期に引き続き、『元曲選』『六十種曲』等に収録される元明の戯曲脚本を取り上げ、注釈を施しながら読解する

授業の一般目標 古代漢語で書かれた原文を読解し、分析する能力を養うことを目標とする。

授業の計画（全体） 原文の解釈につき、毎回担当し、発表・討議する。

言語文化専攻 英米語学文学論

開設科目	英米語論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	太田聡				

授業の概要 生成文法の主に統語理論の発展(標準理論 G B 理論 ミニマリスト・プログラム)について解説する。

授業の一般目標 生成文法研究の展開を理解し、高度な専門論文も読みこなすための基礎力を養成する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 生成文法のテクニカルな分析方法を理解する。 思考・判断の観点: 生成統語理論に基づいて、英語の主要構文の基本的分析が行えるようになる。 関心・意欲の観点: ことばを通して見えてくる人間の精神・脳の特徴などにも関心を寄せる。

授業の計画(全体) 1. 生成文法理論の目標、2. 統語論の基礎(いわゆる標準理論)、3. G B 理論、4. ミニマリスト・プログラム、といった4つのテーマやトピックを扱う。

成績評価方法(総合) 各テーマが終わるごとに課題を出すので、それを解いて次の授業時に提出のこと。この課題レポートの合計点で主に評価する。欠席は1回につき5点減点とする。

教科書・参考書 教科書: 生成文法の新展開, 中村捷・金子義明・菊池朗, 研究社, 2001年 / 参考書: 英語の構文, 田中智之・寺田寛, 英潮社, 2004年

連絡先・オフィスアワー ohta@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英米語論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	太田聡				

授業の概要 長い言語研究の流れの中に生成文法を位置づけ、音韻論・形態論・統語論・意味論・言語獲得の基本概念を、主に日本語のデータをもとに、丁寧に解説する。

授業の一般目標 生成文法理論の目標や特徴、その発展を理解する。また、日本語の分析を通じて、生成文法理論にどのような貢献ができるのかを知る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：生成文法のテクニカルな分析方法を理解する。 思考・判断の観点：生成文法理論に基づいて、日本語と英語の基本的な分析が行えるようになる。 関心・意欲の観点：幼児の言語獲得のなぞや、ことばを通して見えてくる人間の精神・脳の特質などにも関心を寄せる。

授業の計画（全体） 1．ことばの本質、2．ことばの獲得、3．音としてのことば、4．語彙と辞書、5．文の仕組み、6．語の意味と文の意味、といった6つのテーマについて論じる。

成績評価方法（総合）各テーマが終わるごとに課題を出すので、それを解いて次の授業時に提出のこと。この課題レポートの合計点で評価する。欠席は1回につき5点減点とする。

教科書・参考書 教科書：生成言語学入門, 井上和子・原田かず子・阿部泰明, 大修館, 1999年 / 参考書：チョムスキー小事典, 今井邦彦編, 大修館書店, 1986年；日本語文法小事典, 井上和子編, 大修館, 1989年

連絡先・オフィスアワー ohta@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英米語論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	岩部浩三				

授業の概要 現代英語に関する、時制とアスペクトに関するトピックを扱う。

授業の一般目標 日本語で書かれた専門文献を自力で読みこなし、疑問点があればそれを整理して質問できるようになる。問題意識を持って毎回の授業に臨むことで、課題解決能力への第一歩を踏み出す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：時制とアスペクトに関する基本的な知識を身につけ、例を用いて説明できる。 関心・意欲の観点：一見するとありふれた用例について、疑問を持ち探求できる。 技能・表現の観点：日本語で書かれた専門文献を読みこなし、疑問点を質問できる。相手にわかりやすい文章で用例を用いて簡潔に説明できる。

授業の計画（全体）日本語で書かれたテキストを用いる。未来時制と進行形を主として取り上げる予定であるが、授業時に次週の予定指示するので、必ず予習をし疑問点を整理して授業に臨むこと。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 イントロダクション 内容 授業の進め方の説明と、進行形についての講義

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

成績評価方法（総合） 期末試験の成績と授業時の質問レポートにより評価する。

教科書・参考書 教科書： テンスとアスペクトの語法, 柏野 健次, 開拓社, 1999 年

連絡先・オフィスアワー iwabe@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英米語論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	西岡 宣明				

授業の概要 生成文法の枠組みに基づき、英語(あるいは言語一般)の中にある規則性を明らかにする。具体的には、英語の否定文とそれに関わる諸現象に焦点をあて、生成文法の基本的専門用語についての説明を加えながら、どのような原理が働いているのか、いかに分析すべきであるのかを解説する。

授業の一般目標 英語の文法現象・事実を再確認する。そして、それらがいかに一般的な原理によって捉えられるのかを理解し、分析の方法を学ぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：英語の文法規則と事実を確認する。 思考・判断の観点：論理的な分析の方法を理解する。 関心・意欲の観点：異なる現象の背後にある一般性を理解する。

授業の計画(全体) 1. 英語の構造、2. 英語否定文の構造、3. 否定現象とその分析、4. 日本語の構造と否定文の構造、5. 英語の多重 wh 疑問文のテーマについて生成文法の枠組みでの先行研究の紹介と批判、代案について論じる。

成績評価方法(総合) 試験あるいはレポートにより評価する。また、出席と授業への取り組み方も重視する。

教科書・参考書 参考書：英語の主要構文, 中村 捷・金子義明, 研究社, 2002 年; 西岡宣明著『英語否定文の統語論研究 素性照合と介在効果』2007 年、くろしお出版、中村捷、金子義明、菊地朗著『生成文法の新展開』2001 年、研究社

備考 集中授業

開設科目	英米語論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	岩部浩三				

授業の概要 英語学の専門文献を読み、その内容を理解し、プレゼンテーションを行う。論文のテーマについては、各自の研究題目に応じて指示する。

授業の一般目標 英語で書かれた専門論文の読解能力を養い、わかりやすく説明できるプレゼンテーション技術を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：英語学の基礎的概念を理解している。 思考・判断の観点：不明な箇所を特定し、調べることができる。あるいは、質問して解決できる。 関心・意欲の観点：内容を発展させ、問題点を発見して解決しようとする意欲を持つ。 技能・表現の観点：専門論文を読みこなせるだけの英語力を身につける

授業の計画（全体） 1ヶ月に論文1本のペースで進める。3週間かけて読解と資料作成の指導を実施し、4週目にプレゼンテーションを行う。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 概要説明 内容 プリントを配布し、指導計画を示す 授業外指示 予習の指示
- 第 2 回 項目 事前指導
- 第 3 回 項目 事前指導
- 第 4 回 項目 事前指導
- 第 5 回 項目 プレゼンテーション
- 第 6 回 項目 概要説明
- 第 7 回 項目 事前指導
- 第 8 回 項目 事前指導
- 第 9 回 項目 事前指導
- 第 10 回 項目 プレゼンテーション
- 第 11 回 項目 概要説明
- 第 12 回 項目 事前指導
- 第 13 回 項目 事前指導
- 第 14 回 項目 事前指導
- 第 15 回 項目 プレゼンテーション

成績評価方法（総合） 演習を通じて、読解力を評価する。プレゼンテーションを通じて、技術表現力、知識・理解力を評価し、思考判断力と関心意欲、課題解決能力を総合的に評価する。また、各自の研究テーマに応じたレポート提出を求める。

教科書・参考書 教科書：プリントを配布する

連絡先・オフィスアワー iwabe@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英米語論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	太田聡				

授業の概要 新しい言語理論の知見もふんだんに盛り込んだ英文法書を丹念に読んでいく。 / 検索キーワード 英文法

授業の一般目標 英語・英文学を専攻した者として恥ずかしくない程度の英文法の知識を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 学校文法だけでは不十分であった文法知識を補う。 思考・判断の観点： テキストの中の分析法・理論を理解する。 関心・意欲の観点： テキストの中の問題点を発見し、代案を考える。

授業の計画（全体） テキストを精読していく。取り上げるトピックスは「語形成」、「強勢、リズム、イントネーション」、「句読法」などである。

成績評価方法（総合） 授業時の発表と期末レポートによって評価する。

教科書・参考書 教科書： A Comprehensive Grammar of the English Language, Quirk, R. et. al., Longman, 1985 年

連絡先・オフィスアワー ohta@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英米語論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	太田聡				

授業の概要 最新の言語理論の知見をふんだんに盛り込んだ英文法書を丹念に読んでいく。 / 検索キーワード 英文法

授業の一般目標 英語・英文学を専攻した者として恥ずかしくない程度の英文法の知識を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 学校文法だけでは不十分であった文法知識を補う。 思考・判断の観点： テキストの中の分析法・理論を理解する。 関心・意欲の観点： テキストの中の問題点を発見し、代案を考える。

授業の計画(全体) テキストを精読していく。取り上げるトピックスは「動詞」、「節(補文)」、「名詞と名詞句」、「形容詞と副詞」、「前置詞と前置詞句」、「節(付加詞)」、「否定」、「関係節」、「比較構文」、「等位構造」、「照応」、「屈折形態論」、「句読法」などである。

成績評価方法(総合) 授業時の発表と期末レポートによって評価する。

教科書・参考書 教科書： The Cambridge grammar of the English language, ” Rodney Huddleston, Geoffrey K. Pullum ; in collaboration with Laurie Bauer ... [et al.]”, Cambridge University Press, 2002 年

メッセージ 毎回1章ずつのペースで進むので、予習をしっかりとしておくこと。

連絡先・オフィスアワー ohta@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英米文学論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	池園宏				

授業の概要 前後期を通して、イギリス 19 世紀に活躍した小説家 George Eliot についての講義を行う。前期は主として作家活動の前半期に書かれた作品群について考察する。 / 検索キーワード George Eliot、英国小説、ヴィクトリア朝

授業の一般目標 George Eliot の思想や作品像を、19 世紀イギリスの社会事情を念頭に置きつつ理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：作家や作品の具体的内容を説明できる。 思考・判断の観点：諸作品に盛り込まれたテーマを分析できる。 関心・意欲の観点：小説を読み解く行為に関心を持つ。 態度の観点：常に問題意識を持って議論に参加できる。

授業の計画（全体） 19 世紀イギリスの社会的・文学的背景、及びその中における George Eliot の位置について導入的な解説を行った後、前半期の諸作品について各々数回程度で講義する。

成績評価方法（総合） (1) 試験は学期末に 1 回実施する。 (2) 出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：配布資料を用いる。 / 参考書：授業の中で紹介する。

メッセージ 予め配布された各種資料には目を通してから授業に臨むこと。

開設科目	英米文学論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	池園宏				

授業の概要 前後期を通して、イギリス 19 世紀に活躍した小説家 George Eliot についての講義を行う。後期は主として作家活動の後半期に書かれた作品群について考察する。 / 検索キーワード George Eliot、英国小説、ヴィクトリア朝

授業の一般目標 George Eliot の思想や作品像を、19 世紀イギリスの社会事情を念頭に置きつつ理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：作家や作品の具体的内容を説明できる。 思考・判断の観点：諸作品に盛り込まれたテーマを分析できる。 関心・意欲の観点：小説を読み解く行為に関心を持つ。 態度の観点：常に問題意識を持って議論に参加できる。

授業の計画（全体） 前期に引き続き、George Eliot の後半期の諸作品について各々数回程度で講義する。

成績評価方法（総合） (1) 試験は学期末に 1 回実施する。 (2) 出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：配布資料を用いる。 / 参考書：授業の中で紹介する。

メッセージ 予め配布された各種資料には目を通してから授業に臨むこと。

開設科目	英米文学論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	宮原一成				

授業の概要 現代英国系作家の小説を数本読む。一本目は Virginia Woolf の遺作 *Between the Acts*。その後は、受講者と相談して決める。

授業の一般目標 小説作品について、専門的な議論をする力を養う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：原文をまず英語として正確に理解する。心理描写、社会風俗描写を正しく理解する。思考・判断の観点：作品の訴えかけるものについて、自分なりの批評的所見を形成する。

授業の計画（全体） 輪番で精読・討論する。当番はレジュメを毎回作成。

成績評価方法（総合） 発表の出来具合 + 討論への貢献度。3 回以上欠席したら、不可。

教科書・参考書 教科書：*Between the Acts*, Virginia Woolf, Oxford UP, 2000 年 / 参考書：参考文献に関してはプリントで配布する。

連絡先・オフィスアワー 受講者には知らせる。

開設科目	英米文学論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	宮原一成				

授業の概要 現代英国系作家の小説を数本読む。作品は、受講者と相談して決める。

授業の一般目標 小説作品について、専門的な議論をする力を養う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：原文をまず英語として正確に理解する。心理描写、社会風俗描写を正しく理解する。 思考・判断の観点：作品の訴えかけるものについて、自分なりの批評的所見を形成する。

授業の計画（全体） 輪番で精読・討論する。当番はレジユメを毎回作成。

成績評価方法（総合） 発表の出来具合 + 討論への貢献度。3回以上欠席したら、不可。

教科書・参考書 教科書：前期授業終了時に相談して決める。 / 参考書：参考文献に関してはプリントで配布する。

連絡先・オフィスアワー 受講者には知らせる。

開設科目	英米文学論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	池園宏				

授業の概要 20 世紀イギリスの小説家 E.M.Forster の『Howards End』、及びこの作品に関する論文を読む。
 / 検索キーワード E.M.Forster、英国小説

授業の一般目標 テキストと論文を読む作業を通して、Forster の作家像及び 20 世紀初頭英文学における位置づけを理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 作家や作品、及び関連する論文の具体的内容を説明できる。 思考・判断の観点： 作品に盛り込まれた諸テーマを、自分なりの視点で分析できる。 態度の観点： 常に問題意識を持って議論に参加できる。

授業の計画（全体） 一週間に 20-30 ページのペースで作品を読み進め、読了後これに関する論文を読む。受講者の発表とそれを元にしたディスカッションを中心に授業を行う。

成績評価方法（総合） (1) 本作品について 4000-5000 字程度のレポートを作成し、提出する。(2) 出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：『Howards End』, E.M.Forster, Penguin, 1992 年 / 参考書：授業の中で紹介する。

連絡先・オフィスアワー ikezono@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英米文学論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	池園宏				

授業の概要 19 世紀イギリスの小説家 Charles Dickens の『Great Expectations』、及びこの作品に関する論文を読む。 / 検索キーワード Charles Dickens、英国小説、ヴィクトリア朝

授業の一般目標 テキストと論文を読む作業を通して、Dickens の作家像及び 19 世紀ヴィクトリア朝英文学における位置づけを理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 作家や作品、及び関連する論文の具体的内容を説明できる。 思考・判断の観点： 作品に盛り込まれた諸テーマを、自分なりの視点で分析できる。 態度の観点： 常に問題意識を持って議論に参加できる。

授業の計画（全体） 一週間に 30-40 ページのペースで作品を読み進め、読了後これに関する論文を読む。受講者の発表とそれを元にしたディスカッションを中心に授業を行う。

成績評価方法（総合） (1) 本作品について 4000-5000 字程度のレポートを作成し、提出する。(2) 出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書： Great Expectations, Charles Dickens, Penguin, 1996 年 / 参考書： 授業の中で紹介する。

連絡先・オフィスアワー ikezono@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英米文学論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	皆尾 麻弥				

授業の概要 Ernest Hemingway の短編を読む。

授業の一般目標 テキストを丹念に読む作業を通して、文学作品を論じる力を養う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：短い作品の奥に広がる広い世界を読み解くために必要な、正確な読みができる。 思考・判断の観点：作家の言葉選び、細部に常に注意を払い、批評的視点で作品を捉えることができる。

授業の計画（全体） テキストを演習形式で読み進める。受講者は予習して出席し、読みと訳をしてもらう。さらに、気づいた点、気になる点等を毎回まとめておくこと。

成績評価方法（総合） 平常点で評価する。

教科書・参考書 教科書：The Short Stories of Ernest Hemingway, Ernest Hemingway, Scribner

開設科目	英米文学論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	皆尾 麻弥				

授業の概要 引き続き、Ernest Hemingway の短編を読む。

授業の一般目標 テキストを丹念に読む作業を通して、文学作品を論じる力を養う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 短い作品の奥に広がる広い世界を読み解くために必要な、正確な読みができる。 思考・判断の観点： 作家の言葉選び、細部に常に注意を払い、批評的視点で作品を捉えることができる。

授業の計画（全体） テキストを演習形式で読み進める。毎回、気づいた点や気にかかる点等をまとめること。

成績評価方法（総合） 平常点で評価する。

教科書・参考書 教科書： The Short Stories of Ernest Hemingway, Ernest Hemingway, Scribner

言語文化専攻 独仏語学文学論

開設科目	ドイツ語論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	本田義昭				

授業の概要 現代ドイツの社会変化を言葉、特に新語という観点から分析して行きます。 / 検索キーワード 社会変化 言語変化 ドイツ語

授業の一般目標 現代ドイツの政治・経済・社会などに対する理解を深め、ドイツ語の新語の造語法を学ぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 現代ドイツの政治・経済・社会などに対する知識を深める。

2. ドイツ語の新語の造語法を学ぶ。 思考・判断の観点： 1. 現代ドイツの社会変化が言葉にどのように反映されているかを考察する。 2. ドイツ語の発想法を知る。 関心・意欲の観点： 現代ドイツの政治・経済・社会などに対する関心を深める。

授業の計画 (全体) Gesellschaft fuer deutsche Sprache (ドイツ語協会) が毎年発表する「今年のことば」を採り上げ、その背景にあるドイツの社会変化を解説します。そしてそれらのキーワードの成り立ちを分析します。

成績評価方法 (総合) 授業内レポート (20%) + 学期末レポート (50%) + 授業への積極的な参加度 (30%) で評価します。出席率が 8 割に満たない場合は失格となります。

教科書・参考書 教科書：授業中に資料を配付します。 / 参考書：必要に応じて、授業の中で紹介します。

メッセージ 授業への積極的な参加を期待しています。

連絡先・オフィスアワー honda@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	ドイツ語論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	本田義昭				

授業の概要 日本人とドイツ人との間の異文化間コミュニケーションに関する諸問題を論じます。 / 検索
キーワード 異文化間コミュニケーション 相互理解 誤解

授業の一般目標 日独異文化間コミュニケーションに関する知識を見につけ、異文化理解を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：文化とコミュニケーションに関する知識を習得する。 思考・判断の観点： 1 . 日独異文化間コミュニケーションにおいて、どのような問題が生じるか考察する。 2 . 問題が生じた場合の対処法を検討する。 関心・意欲の観点：文化と価値観の多様性に対する関心を深める。

授業の計画（全体） 異文化間コミュニケーションの基礎概念について解説した後、日独異文化間コミュニケーションで生じる諸問題とその背景を説明し、どうすれば異文化間コミュニケーション能力を養うことができるかを考察する。

成績評価方法（総合） 授業内レポート（20%）+ 学期末レポート（50%）+ 授業への積極的な参加度（30%）で評価します。出席率が8割に満たない場合は失格となります。

教科書・参考書 教科書：授業中に資料を配付します。 / 参考書：必要に応じて、授業の中で紹介します。

メッセージ 授業への積極的な参加を期待しています。

連絡先・オフィスアワー honda@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	ドイツ語論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	下寄正利				

授業の概要 Hartmann von Aue の Der arme Heinrich を読みながら、中高ドイツ語の手ほどきをする。

授業の一般目標 中高ドイツ語の基礎を身につけている。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 中高ドイツ語の基礎を理解している。 関心・意欲の観点： ドイツ語史やドイツ中世文学に興味を持っている。 態度の観点： 言語の歴史的発展に対して、科学的に分析する態度を身につけている。

授業の計画（全体） Hartmann von Aue の Der arme Heinrich を読んでいく。授業が進むにつれ、一回の授業で読む分量を増やしていく。

教科書・参考書 教科書： テキストはコピーを用いる。 / 参考書： コピーを配布する。

開設科目	ドイツ語論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	下寄正利				

授業の概要 Hartmann von Aue の Der arme Heinrich を読みながら、中高ドイツ語の手ほどきをする。

授業の一般目標 中高ドイツ語の基礎を身につけている。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 中高ドイツ語の基礎を理解している。 関心・意欲の観点： ドイツ語史やドイツ中世文学に興味を持っている。 態度の観点： 言語の歴史的発展に対して、科学的に分析する態度を身につけている。

授業の計画（全体） Hartmann von Aue の Der arme Heinrich を読んでいく。授業が進むにつれ、一回の授業で読む分量を増やしていく。

教科書・参考書 教科書： テキストはコピーを用いる。 / 参考書： コピーを配布する。

開設科目	ドイツ文学論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	坂本貴志				

授業の概要 「愚者の歴史」について講義する。

授業の一般目標 「愚者」といっても、それは今日的な意味ではなく、ヨーロッパの十八世紀末における視点からそう見えた人々のことを指す。彼ら「愚者」は黒魔術師、錬金術師、祓魔師（エクソルツィスト）（手相）占い師、異端の思想家・哲学者であったりする。講義ではこれら「愚者」の生涯をひとつひとつ取り上げて紹介する。彼らの生涯を辿ることで、啓蒙の世紀に葬られて暗闇に埋没した、隠されたヨーロッパの思想と文化を明るみに出す。我々が彼らの精神世界に立ち入ってみれば、我々の精神世界もまたひとつの「愚者」の歴史であると知るに至るだろう。

成績評価方法 (総合) レポート発表による。

開設科目	ドイツ文学論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	坂本貴志				

授業の概要 「愚者の歴史」について講義する。

授業の一般目標 「愚者」といっても、それは今日的な意味ではなく、ヨーロッパの十八世紀末における視点からそう見えた人々のことを指す。彼ら「愚者」は黒魔術師、錬金術師、祓魔師(エクソルツィスト)(手相)占い師、異端の思想家・哲学者であったりする。講義ではこれら「愚者」の生涯をひとつひとつ取り上げて紹介する。彼らの生涯を辿ることで、啓蒙の世紀に葬られて暗闇に埋没した、隠されたヨーロッパの思想と文化を明るみに出す。我々が彼らの精神世界に立ち入ってみれば、我々の精神世界もまたひとつの「愚者」の歴史であると知るに至るだろう。

成績評価方法 (総合) レポート発表による。

開設科目	ドイツ文学論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	新本 史斉				

授業の概要 「翻訳論」から読む現代日本文学、現代ドイツ文学 <翻訳>とはいったいいかなる行為なのでしょう？わたしたちは、日々、授業で、仕事で、現に翻訳を行っていながら、そもそもそこで自分が何をしているのかについて、反省的思考を働かせることはほとんどないのではないのでしょうか。この講義では、人間のおこなうあらゆる行為の中でももっとも複雑なものといってよい<翻訳>という行為について 「原文と同一の内容を他の言語において再現すること」という辞書での楽天的定義とはまったく異なった視点から 考え直し、その上で、<翻訳> = 「複数の言語体系の差異を身をもって経験すること」が、いかに新たな思考可能性・表現可能性を近代文学・現代文学にもたらしてきたかについて、現代日本文学、現代ドイツ文学の中から具体的な作品を取り上げながら考えていきたいと思います。

授業の一般目標 「原作の代用品」、「こなれた日本語 = 名訳」といった固定観念から遠く離れた場所で、<翻訳>という行為に秘められている可能性についていっしょに考えていきましょう。

授業の計画(全体) 1 「翻訳」とは何か? 2 「翻訳」と近代国民言語の関係 3 「翻訳」と近代日本語の関係 4 間から立ち上がる言葉 I 「外国語文学」としての日本文学(李良枝、リービ英雄など) 5 間から立ち上がる言葉 II 「外国語文学」としてのヨーロッパ文学(多和田葉子、パウエル・ツェランなど)

成績評価方法(総合) 授業への参加(発言・レスポンス・ペーパーの提出など) 50% レポート 50%

メッセージ 資料は授業で配布します。

備考 集中授業

開設科目	ドイツ文学論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	Hintereeder-Emde Franz				

授業の概要 『アルプスの少女ハイジ』を読む。スイスの女流作家ヨハンナ・スピーリ (Johanna Spyri, 1827-1901) の『ハイジ』は、世界的に有名な児童文学作品である。宮崎駿のアニメ作品『アルプスの少女ハイジ』は多くの日本人がスイスの大自然について抱くイメージを作り上げて、無垢な子供の世界を賛美している。原作の『ハイジの修業時代と遍歴時代』(1880年)や『ハイジは習ったことを使うことができる』(1881年)は、当時のスイスの初期産業化の中の子供における生活環境を冷静な目で描いている。 / 検索キーワード ドイツ語、ドイツ語圏文学、スイス文学、児童文学

授業の一般目標 スイスの児童文学をドイツ文化圏のファッセットとして知ってもらい、ヨーロッパの宗教・文化・社会の諸相を勉強していく。

授業の到達目標 / **知識・理解の観点**： 原作の解読力を身に付け、内容について理解を深める。 **関心・意欲の観点**： 本文や関連した研究文献などの読書に意欲を持ち、定期的に授業で発表や紹介すること。 **資料の分析や発表の技術に重点を置く。** **技能・表現の観点**： 作品や関係資料を読み進め、内容について討論をする。

授業の計画(全体) この演習では、『アルプスの少女ハイジ』の原作・邦訳・英訳を並行して読んでいく。映像化された作品も参考にする。次のテーマを中心に進む：自然の描写、人間社会の背景、教育について、病気について、自然と都会、宗教について。

教科書・参考書 教科書： 資料を配布する。 / 参考書： 必要に応じて授業中に紹介する。

連絡先・オフィスアワー tel/fax: 933-5287 mail: emde@yamaguchi-u.ac.jp office hour： 月曜日 7・8 時 限 (16:00~17:40)

開設科目	ドイツ文学論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	Hintereeder-Emde, Franz				

授業の概要 歴史意識の表現としてのドイツ戦後文学。ナチスドイツをめぐる現代文学の作品を読んでいく。1959年出版された『ブリキの太鼓』の重要なテーマは、ナチスドイツへの過程とその母体になる社会である。これで戦争責任が戦後ドイツにおいて文学的なモチーフとして成立した。過去20年に新たに戦争責任をめぐる作品が登場し、ドイツ社会のナチ時代の傷跡が垣間見ることができる。 / 検索キーワード 現代史、ナチスドイツ、戦後文学

授業の一般目標 ドイツの戦後文学における歴史意識やその文学的な表現を勉強していく。1959年出版された『ブリキの太鼓』の重要なテーマは、ナチスドイツへの過程とその母体になる社会である。これで戦争責任が戦後ドイツにおいて文学的なモチーフとして成立した。過去20年に新たに戦争責任をめぐる作品が登場し、ドイツ社会のナチ時代の傷跡が垣間見ることができる。過去の記憶、回想、忘却、克服について考えたい。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：文学作品に関する基礎的な知識を獲得する。 思考・判断の観点：内容について、自分の考えを確認し表現すること。 関心・意欲の観点：ドイツの現代文学や背景の歴史に対して関心を持つこと。 技能・表現の観点：作品や資料に対して適切な文章・口頭表現ができる

授業の計画（全体） 主な作品は、ギュンター・グラス (Günter Grass, 1927~) の『ブリキの太鼓』(1959年)、ベルンハルト・シュリンク (Bernhard Schlink, 1944~) の『朗読者 (Der Vorleser)』(1995)、ウヴェ・ティム (Uwe Timm, 1940) の『兄の選択』(2005)。中心的な個所に絞って、作品を邦訳・英訳とドイツ語の原文を並行して、ゆっくりと読んでいく。

教科書・参考書 教科書：資料を配布する

連絡先・オフィスアワー tel/fax: 933-5287 mail: emde@yamaguchi-u.ac.jp office hour：月曜日7・8時限(16:00~17:40)

開設科目	フランス語論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	武本 雅嗣				

授業の概要 フランス語の与格について講義します。

授業の一般目標 フランス語の与格を体系的に理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：フランス語の与格を体系的に理解する。 思考・判断の観点：代名詞の与格と前置詞与格の違いを説明できる。

授業の計画（全体） 先行研究を概観したうえで、与格について認知的な観点から分析していく。

成績評価方法（総合） 平常点

教科書・参考書 教科書：プリントを配布する。

連絡先・オフィスアワー 研究室 人文 612, オフィスアワー 木曜日 3:00-4:30

開設科目	フランス語論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	武本 雅嗣				

授業の概要 認知言語学の観点から構文について講義します。

授業の一般目標 認知言語学の方法論を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：認知言語学の用語・概念を理解する。 思考・判断の観点：認知言語学の方法論を理解する。

授業の計画（全体） はじめに認知言語学について概説したうえで、様々な構文について認知的な観点から分析していく。

成績評価方法（総合） レポート

教科書・参考書 教科書：プリントを配布する。

連絡先・オフィスアワー 研究室 人文 612, オフィスアワー 木曜日 3:00-4:30

開設科目	フランス語論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	武本 雅嗣				

授業の概要 フランス語の与格に関する論文を読んでいます。

授業の一般目標 文献講読をとおして、議論の展開の仕方を学んでいく。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：フランス語の与格に関する先行研究を理解する。 思考・判断の
 観点：先行研究を批判的に分析する。 関心・意欲の観点：発表を行う。

授業の計画（全体） フランス語の与格に関する主要な文献を読み、批判的に検討していく。

成績評価方法（総合） 発表，レポート。

教科書・参考書 教科書：プリントを配布します。

連絡先・オフィスアワー 研究室 人文 612, オフィスアワー 木曜日 3:00-4:30

開設科目	フランス語論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	武本 雅嗣				

授業の概要 フランス語の与格に関する論文を読んでいます。

授業の一般目標 文献講読をとおして、議論の展開の仕方を学んでいく。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：フランス語の与格に関する先行研究のを理解する。 思考・判断の観点：先行研究を批判的に分析する。 関心・意欲の観点：発表を行う。

授業の計画（全体） フランス語の与格に関する主要な文献を読み，批判的に検討していく。

成績評価方法（総合） 発表，レポート。

教科書・参考書 教科書：プリントを配布します。

連絡先・オフィスアワー 研究室 人文 612, オフィスアワー 木曜日 3:00-4:30

開設科目	フランス文学論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	井上三朗				

授業の概要 講義題目を、「『星の王子さま』読解のこころみ」とし、サン＝テグジュペリの永遠のベストセラーである、童話『星の王子さま』の分析・読解をおこなう。作品を、二つの角度から、すなわち、王子さまの内側と外側からとらえ、王子さまの彷徨と探求の物語および〈ぼく〉の出会いの物語として読みすすめる。そして前者を愛の修業という視点から分析し、後者を愛の福音という視座から読解し、王子さまが誰であるのか、誰でありうるのか、を考察する。愛の修業と福音という観点に立つことによって、『星の王子さま』の総合的かつ統一的な読書を目指す。／検索キーワード 愛、invisible なもの。

授業の一般目標 ひとつの文学作品を取り上げ、それを具体的に分析・読解していく作業をとおして、ひろく文学作品を論じることとは何か、文学を研究することとは何か、について学び、参考材料を提供することができれば幸いである。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：『星の王子さま』の深遠な世界を知り、かいま見ることができる。

思考・判断の観点：先行研究を紹介しつつ、授業担当者の解釈を提示するので、思考力・判断力・批判精神を養うことができる。 関心・意欲の観点：サン＝テグジュペリの作品世界に関心を持つことができる。 技能・表現の観点：文学研究の参考材料を得ることができる。

授業の計画（全体） 概要のところでも述べたように、まず、『星の王子さま』を、王子さまの彷徨と探求の物語ととらえ、愛の修業という角度から読解し、次に、〈ぼく〉の出会いの物語として、愛の福音という観点から分析する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 序論。王子さまの出発。内容 導入部の検討
- 第 2 回 項目 王子さまの出発 内容 旅立ちまでの経緯
- 第 3 回 項目 星めぐり 内容 大人批判
- 第 4 回 項目 同上 内容 同上
- 第 5 回 項目 同上 内容 同上
- 第 6 回 項目 同上 内容 星の住人たちの孤独
- 第 7 回 項目 同上 内容 王子さまの孤独
- 第 8 回 項目 地球での王子さま 内容 王子さまの孤独の深化
- 第 9 回 項目 同上 内容 キツネの教え
- 第 10 回 項目 同上 内容 王子さまの変貌
- 第 11 回 項目 王子さまとの出会い 内容 〈ぼく〉の孤立と孤独。王子さまと〈ぼく〉との類縁性
- 第 12 回 項目 同上 内容 王子さまと〈ぼく〉とのへだたり。出会いの意味
- 第 13 回 項目 王子さまとは誰か 内容 王子さまの夢幻性
- 第 14 回 項目 同上 内容 王子さまの死
- 第 15 回 項目 同上および結論 内容 聖書とのつながり

成績評価方法（総合） テストまたはレポートの点数（70%）と平常点（30%）との総合で、評価する。

教科書・参考書 教科書：プリントを配布する。／参考書：授業中、適宜紹介する。

メッセージ 授業への積極的な参加を希望する。

連絡先・オフィスアワー 613 研究室、月曜日 14:30 - 16:00 .

開設科目	フランス文学論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	平山 豊				

授業の概要 スタンダールの代表的作品を取り上げ解説する。またその生涯を彼の自伝的作品や研究者の論考を通してつづさに辿り、作品創造の秘密に迫る。

授業の一般目標 小説や日記、エッセイの読み方、分析や論述の展開の仕方を学ぶ。背景となる時代や社会環境への理解を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 作品の内容及び背景の理解 思考・判断の観点： 作品に書かれていること、そしてまた各論者の見方に関して

授業の計画(全体) まず、『アンリ・ベールの生涯』などで窺われる作家以前の生き方から説き起こし、それから年代順に『恋愛論』、『赤と黒』、『パルムの僧院』などの主要作品をたどる。 その間にアンリ・マルチノー、ジャン・プレポー、ジャン・スタロバンスキーなどのスタンダール論を紹介する。

成績評価方法(総合) レポート評価70% 授業参加・授業内発表30%

教科書・参考書 教科書： プリント配布 / 参考書： スタンダール全集, ”スタンダール著；桑原武夫, 生島遼一編”, 人文書院； Oeuvres complètes, Stendhal, Slatkine Reprints, 1986年； スタンダール著作集(フランス語版および訳本)ほか

開設科目	フランス文学論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	平山 豊				

授業の概要 実存主義の哲学者として知られるサルトルはまた秀逸な文芸批評家でもあった。彼の著した『シチュアション I』の中の、「フランソワ・モーリヤック氏と自由」「フォークナーにおける時間性」「『異邦人』解説」などを原語で読み、作品との往復運動を介して、技法の面から創作の秘密に迫る。

授業の一般目標 生来の人間性の発露と政治的・文化的・歴史的要素が交錯する文学表現の妙味を感得する。

成績評価方法 (総合) 平素の授業参加度 40% 定期試験 60% の割合で総合評価する。

教科書・参考書 教科書：SITUATIONS,I, Jean-Paul SARTRE, Gallimard, 1947年；プリント配布

開設科目	フランス文学論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	井上三朗				

授業の概要 ヌーヴェル・クリティックの大家、ジョルジュ・プーレの『批評的意識』を読む。この書物は、19世紀のスタール夫人以後の、批評の流れをたどったものである。この作品を読むことによって、ボードレー、プルーストらの批評がいかなるものであったかを学びたい。

授業の一般目標 使用するテキストは、文芸批評の流れをたどったものなので、批評とは何か、文学研究とは何か、を考えることができる。文学研究の方法論を確立することができれば幸いである。

授業の計画(全体) 使用するテキストは全体として300頁から成り、したがって、すべてを読み通すことは不可能である。1回の授業につき、1頁半ほど読みすすめることで、序文と、ボードレー、プルーストの批評を論じた部分を検討したい。

成績評価方法(総合) 平常の成績を重視する。平常点で成績評価することができれば、期末試験をおこなうこと、あるいは、レポートを課すことは考えていない。

教科書・参考書 教科書：プリントを配布する。/ 参考書：授業中、適宜紹介する。

メッセージ 授業への積極的な参加を望む。

言語文化専攻 言語学・言語情報論

開設科目	言語構造論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	平野尊識				

授業の概要 形態論に関する講義を行う。文は、単語を有意味な順序に配列することによって、構成される。形態論においても、同様のことが言える。一般に複雑な単語は、複数の要素が規則的に配列されることによって造られる。その規則をデータから導き出すことが形態論の重要な仕事である。前期は、形態論についての説明、さらに形態論全体の考え方について講義する。 / 検索キーワード 形態論, 形態素, 単語, 複合名詞

授業の一般目標 単語の形態的特徴, 単語形成における規則についての理解。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 教科書を読んで理解できること。 思考・判断の観点: 科学的に考察できること。問題点を正しく把握できること。 関心・意欲の観点: 日本語だけでなく、英語をはじめとするその他の言語の単語構造にまで興味が広がるように。 技能・表現の観点: 考えた事を第三者に分かるように文章化する。

授業の計画(全体) 先ず形態論について、教科書を中心に講義をすすめる。教科書には参照文献、練習問題も付いているので、受講生には練習問題に取り組むこと、関連する文献を読むことも要求される。

成績評価方法(総合) 学期末試験を中心にする(70%)。授業外レポートと授業への参加状況(30%)。

教科書・参考書 教科書: 形態論と意味, 影山太郎, くろしお出版, 1999 年

メッセージ 予習して出席すること。講義に出て話しを聞き、その時間の中で内容が理解できれば講義の目的は達成できたことになる。

連絡先・オフィスアワー e-mail address: hirano01@yamaguchi-u.ac.jp Office: Jinbun 617

開設科目	言語構造論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	平野尊識				

授業の概要 後期は、「肩叩き」「人助け」のように「名詞+動詞連用形」の形を持つ複合名詞について考察する。焦点となるのは、動詞連用形の中に組み込まれる第1項の名詞の性格である。これらの名詞には文法的に共通の特徴が認められることを明らかにする。 / 検索キーワード 名詞+動詞連用形, 複合名詞, 語構成, 語形成

授業の一般目標 データの提示能力と分析能力の向上を図る。その結果をどう整理して論文化するかを訓練する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: テキストを読んで、理解できること。 思考・判断の観点: 科学的に考察できること。 関心・意欲の観点: 日本語についてだけでなく、英語をはじめとするその他の言語の同じような構造にまで関心を広げられるか。 態度の観点: 積極的に授業に参加し、自分自身の見解を述べること。

授業の計画(全体) 授業の内容について理解が得られたかどうかを確認しながら、次に進んでいく。講義で使う論文を講義前に読んでおくことが前提であり、毎回の講義で内容の理解を図る。講義はこの目的を果たすために、受講生の学習態度、理解度などを見ながら行う。

成績評価方法(総合) 内容についてのレポートを2回程提出してもらう(30%)。更に学期末試験を行う(70%)。

教科書・参考書 教科書: Hirano, Takanori 2002 Compound nouns of the type NVn in Japanese. Gengo Kenkyu 121, 19-48.

メッセージ 予習をしていくことが前提。内容をその講義の中で理解すること。理解しにくいところは質問すること。

連絡先・オフィスアワー e-mail address: hirano01@yamaguchi-u.ac.jp, Office: Jinbun 617

開設科目	言語構造論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	和田学				

授業の概要 言語学は、人間の言語を科学的に解明することを目指す分野です。この講義では、言語学が何を対象とするか、どのような議論の方法を採るかについて講義します。

授業の一般目標 現代言語学が何を、どのように解明する分野か概要を理解します。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：言語学の対象、議論の方法を学びます。 思考・判断の観点：講義における課題に基づいて、自分で議論を組み立てます。 態度の観点：出席、課題の不提出は欠格事項とします。

授業の計画（全体） 主に、日本語の事例を中心に言語学の目的と方法論について講義をします。また、講義に関連した課題を毎回レポートとして課します。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 導入 内容 言語学は何をする学問か
- 第 2 回 項目 言語理論の特徴 内容 観察の理論依存性
- 第 3 回 項目 言語理論の特徴 内容 観察の理論依存性
- 第 4 回 項目 言語理論の特徴 内容 パズル解きとしての言語研究
- 第 5 回 項目 言語理論の特徴 内容 パズル解きとしての言語研究
- 第 6 回 項目 言語理論の特徴 内容 妥当性の 3 段階
- 第 7 回 項目 言語理論の特徴 内容 妥当性の 3 段階
- 第 8 回 項目 言語理論の特徴 内容 言語の再構の例から学ぶこと
- 第 9 回 項目 言語学におけるデータ 内容 抽象的構造
- 第 10 回 項目 言語学におけるデータ 内容 抽象的構造
- 第 11 回 項目 言語学におけるデータ 内容 データの意味
- 第 12 回 項目 言語学におけるデータ 内容 データの意味
- 第 13 回 項目 言語学におけるデータ 内容 データ収集の問題点
- 第 14 回 項目 言語学におけるデータ 内容 データ収集の問題点
- 第 15 回 項目 定期試験

成績評価方法（総合） 言語学が科学であるというのとはどういうことかが理解できているか、定期試験で測ります。レポートの課題で「思考・判断」を、また出席、課題の提出で「態度」を測ります。

教科書・参考書 参考書：言語学の方法, 郡司隆男・坂本勉, 岩波書店, 1999 年

開設科目	言語構造論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	和田学				

授業の概要 この授業では日本語を題材に、文の構造にどのような要素があるか、また、それらが相互にどのように関連しているかを学びます。

授業の一般目標 この授業を通じて、文の分析に必要な基礎概念を学びます。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：文の分析にどのような基礎概念が必要で、なぜそれが必要かを学びます。 思考・判断の観点：授業の内容に即してレポートを適宜課します。 態度の観点：出席、宿題の不提出は欠格事項となります。

授業の計画（全体）日本語の例を中心に、文の分析に必要な基礎概念を学ぶ。適宜レポートを課す。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 導入 内容 文法とは何か
- 第 2 回 項目 言語表現における構造
- 第 3 回 項目 文の基本構造
- 第 4 回 項目 単文と複文
- 第 5 回 項目 述語成分と補足成分における基礎概念 内容 格
- 第 6 回 項目 述語成分と補足成分における基礎概念 内容 ヴォイス
- 第 7 回 項目 述語成分と補足成分における基礎概念 内容 テンス
- 第 8 回 項目 述語成分と補足成分における基礎概念 内容 アスペクト
- 第 9 回 項目 述語成分と補足成分における基礎概念 内容 モダリティ
- 第 10 回 項目 述語成分と補足成分における基礎概念 内容 演述文、情意表出文
- 第 11 回 項目 述語成分と補足成分における基礎概念 内容 訴え文、疑問文
- 第 12 回 項目 述語成分と補足成分における基礎概念 内容 感嘆文
- 第 13 回 項目 対照言語学的観点 内容 格、ヴォイスについて
- 第 14 回 項目 対象言語学的観点 内容 モダリティについて
- 第 15 回 項目 定期試験

成績評価方法（総合）定期試験とレポートの内容で成績を評価する。欠席、レポートの不提出は欠格事項。

教科書・参考書 参考書：文法, 益岡隆志、仁田義雄、郡司隆男、金水敏, 岩波書店, 1997 年

開設科目	言語構造論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	山田寛人				

授業の概要 1870 年代から 1945 年に至る時期における日本人に対する朝鮮語教育の歴史を詳細に紹介する。そして、それを材料にしながら、(1) 社会言語学研究の観点から言語権の問題(少数言語を維持する権利、および大言語を習得する権利) について考える。(2) 日本語教育史研究の成果にもとづいて、日本人が朝鮮人に日本語を教えることの意味を考える。(3) 朝鮮近代史研究の成果にもとづいて、植民地近代の問題(「収奪論」と「施恵論」) について考える。(4) 朝鮮語教育史研究の成果にもとづいて、日本人が朝鮮語を学ぶことの意味を考える。 / 検索キーワード 社会言語学、言語権、日本語教育史、植民地近代、朝鮮語教育史

授業の一般目標 社会言語学的な観点から、「言語とは何か」について理解を深める。言語を教えること / 学ぶことの背景にあるイデオロギーなどについて理解を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：講義の内容を理解する 思考・判断の観点：講義の内容を自分自身の経験や知識と結びつけて考える 関心・意欲の観点：講義内容に対する質問や感想を述べることによって関心・意欲を高める 態度の観点：講義を聞く 技能・表現の観点：理解し、考えた内容を文章で表現し伝える

授業の計画(全体) 国家と言語の関係を理解し、社会言語学的な観点から、日本人に対する朝鮮語教育史の実態を詳細に検討していく。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 講義の方法と内容、評価の方法など
- 第 2 回 項目 この言語を日本語で何と呼ぶか 内容 国家と言語の関係について考える
- 第 3 回 項目 この言語を朝鮮語で何と呼ぶか 内容 翻訳の不可能性と、翻訳の意味
- 第 4 回 項目 朝鮮語教育機関の設置と廃止(1) 内容 日本人の朝鮮語観。現代の朝鮮語教育と、戦前の朝鮮語教育との関連
- 第 5 回 項目 朝鮮語教育機関の設置と廃止(2) 内容 植民地化によって「外国語」ではなくなる朝鮮語
- 第 6 回 項目 朝鮮語教師 内容 朝鮮語を教えていた朝鮮人教師、日本人教師の経歴や教育の実態
- 第 7 回 項目 朝鮮語学習書 内容 戦前に発行された朝鮮語の学習書や辞書の発行状況や内容の特徴
- 第 8 回 項目 日本語教育(1) 内容 「国語」としての日本語、「方言」としての朝鮮語
- 第 9 回 項目 日本語教育(2) 内容 「強制的」か「自主的」か
- 第 10 回 項目 1930 年朝鮮国勢調査の語学力に関する調査結果 内容 朝鮮人の日本語運用能力と、日本人の朝鮮語運用能力の比較
- 第 11 回 項目 日本人教員に対する朝鮮語教育 内容 朝鮮人児童の初等教育機関で教えていた日本人教員に対する朝鮮語教育
- 第 12 回 項目 日本人警察官に対する朝鮮語教育 内容 支配と言語能力の関係
- 第 13 回 項目 朝鮮語奨励試験 内容 国家主導による言語学習奨励の実態
- 第 14 回 項目 日本人金融組合理事に対する朝鮮語教育 内容 朝鮮語を話す日本人に対する、朝鮮人の意識
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 全体を通じて理解すべき問題点の整理

成績評価方法(総合) 毎回の講義終了後に、質問や感想などを中心とした短いレポートを作成させて、講義に対する理解度を確認する。期末試験によって、講義内容が理解できているか、講義内容と自分自身の経験や知識とを結びつけて考えることができるか、そのことを正確に伝えることができるか、を評価する。

備考 集中授業

開設科目	言語構造論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	江口正				

授業の概要 現代日本語（方言も含む）の副詞節の分析を題材に、統語論・意味論の研究手法を学びます。副詞節の研究のためには、述語の諸性質（テンス・アスペクト・ムード・視点など）をはじめ、主語の問題、命題間の論理的諸関係、副詞的修飾の意味論的諸問題など、文法研究で扱われる問題の多くが関わります。本講義では例を示したり各自で例文を考えてもらったりしながら文法的な分析の実際を知り、グループ作業を通してその基礎技術を身につけてもらうことを目標とします。/ 検索キーワード 現代日本語文法 副詞節 統語論 意味論

授業の一般目標 本講義の基本的な目標は、文法分析に必要な例文の収集・整理および作例の作成ができるようになることです。文法研究においては、まず基礎事実の確認のため、用例を収集し整理することが必要です。特に用例の整理のためにはさまざまな文法的な観点が必要になりますので、その観点を学んでもらうのが第一の目標です。整理の段階で何らかの規則性が見つかったら、次にそれを一般化するために例文（特に非文）を自ら作り、その規則性の是非を示すことができるようになる必要があります。文法的な性質を明らかにできるような例文を作れるようになることが第二の目標です。

授業の計画（全体） まず初めに文法研究の基本的な目標を明らかにし、講義で扱う従属節 / 副詞節についての概説をします。（1～2 時間程度）次に文法的な分析のための基本的な観点を紹介します。（3 時間程度）分析の道具が揃ったら副詞節を個別に取り上げてゆき、実際に分析を加えていきます。それぞれの分析結果は小レポートとして毎日提出してもらいます。

成績評価方法（総合） 毎日講義が終わった後に、その日の作業と考察の記録をまとめ、小レポートとして提出してもらいます。これを主たる評価の対象とします。（70 %） 授業は講義をしながらもときどきグループ作業をしてもらいますので、出席およびグループ作業でのグループへの貢献度も評価の対象とします。（30 %）

備考 集中授業

開設科目	言語構造論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	乾 秀行				

授業の概要 世界には様々な言語が話されており、母語である日本語やヨーロッパの主要言語だけを対象に言語の特性を論じてもいつも正しいとは限りません。この授業では、言語類型論関連の主要文献を読みながら、広くいろいろな言語の共時的・通時的言語現象を一つ一つ吟味しながら、考察を加えていきます。前期は「語順」を取り上げます。

授業の一般目標 1. 言語の多様性について理解を深める。 2. 言語の類型化について理解を深める。 3. 音韻論の基本的な考え方について理解を深める。

成績評価方法 (総合) 出席点。テスト。

教科書・参考書 教科書：世界言語への視座, 松本克己, 三省堂, 2006 年

メッセージ ノートパソコンを使用します。

連絡先・オフィスアワー f1566@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	言語構造論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	乾 秀行				

授業の概要 世界には様々言語が話されており、母語である日本語やヨーロッパの主要言語だけを対象に言語の特性を論じてもいつも正しいとは限りません。この授業では、言語類型論関連の主要論文を読みながら、いろいろな言語の共時的・通時的言語現象を一つ一つ吟味しながら、考察を加えていきます。後期は様々な言語現象を説明するために必要となる「動詞分類」を取り上げます。

授業の一般目標 1 . 言語の多様性について理解を深める。 2 . 言語の類型化について理解を深める。

成績評価方法 (総合) 出席点。発表。テスト。

教科書・参考書 教科書：世界言語への視座, 松本克己, 三省堂, 2006 年

メッセージ ノートパソコンを使用します。

連絡先・オフィスアワー f1566@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	言語構造論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	平野尊識				

授業の概要 言語学の基本的な概念の理解と確認の意味。どういう論文、著書を読むか受講者と相談する。
 / 検索キーワード 言語学、音韻論と音声学、統語論、語用論

授業の一般目標 言語学の基礎が出来ているかを確認し、その上で、自分で研究テーマを具体的に設定できるように指導する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 研究の現状を理解する。 思考・判断の観点： 言語現象の背後にあると思われる規則性、一般原理を発見すること。 態度の観点： 受講生が自ら問題点を見付けること。
 技能・表現の観点： 自らの思考過程を第三者にどのように説明したら理解してもらえるのか工夫しながら、記述すること。

授業の計画（全体） 内容をどの程度理解しているか確認しながら、すすめる。従って受講者の主体的研究が要求される。

成績評価方法（総合） 受講生の毎回の学習内容によって評価する。

連絡先・オフィスアワー Mail Address: hirano01@yamaguchi-u.ac.jp Office: Jinbun 617

開設科目	言語構造論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	平野尊識				

授業の概要 言語学の基本的な概念の理解と確認の意味。どういう論文、著書を読むか受講者と相談する。
 / 検索キーワード 言語学、音韻論と音声学、統語論、語用論

授業の一般目標 言語学の基礎が出来ているかを確認し、その上で、自分で研究テーマを具体的に設定できるように指導する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 研究の現状を理解する。 思考・判断の観点： 言語現象の背後にあると思われる規則性、一般原理を発見すること。 態度の観点： 受講生が自ら問題点を見付けること。
 技能・表現の観点： 自らの思考過程を第三者にどのように説明したら理解してもらえるのか工夫しながら、記述すること。

授業の計画（全体） 内容をどの程度理解しているか確認しながら、すすめる。従って受講者の主体的研究が要求される。

成績評価方法（総合） 受講生の毎回の学習内容によって評価する。

連絡先・オフィスアワー Mail Address: hirano01@yamaguchi-u.ac.jp Office: Jinbun 617

開設科目	言語構造論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	乾 秀行				

授業の概要 言語学に関する論文を読みます。

授業の一般目標 修士論文を書くための演習である。

授業の計画(全体) 受講生の研究テーマについて、毎回発表形式で行います。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業の進め方
- 第 2 回 項目 演習 1
- 第 3 回 項目 演習 2
- 第 4 回 項目 演習 3
- 第 5 回 項目 演習 4
- 第 6 回 項目 演習 5
- 第 7 回 項目 演習 6
- 第 8 回 項目 演習 7
- 第 9 回 項目 演習 8
- 第 10 回 項目 演習 9
- 第 11 回 項目 演習 1 0
- 第 12 回 項目 演習 1 1
- 第 13 回 項目 演習 1 2
- 第 14 回 項目 演習 1 3
- 第 15 回 項目 演習 1 4

成績評価方法(総合) 発表。レポート。

教科書・参考書 教科書：テキストをコピーで配布します。

連絡先・オフィスアワー f1566@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	言語構造論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	乾 秀行				

授業の概要 言語学に関する論文を読みます。

授業の一般目標 修士論文を書くための演習である。

授業の計画(全体) 受講生の研究テーマについて、毎回発表形式で行ないます。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業の進め方
- 第 2 回 項目 演習 1
- 第 3 回 項目 演習 2
- 第 4 回 項目 演習 3
- 第 5 回 項目 演習 4
- 第 6 回 項目 演習 5
- 第 7 回 項目 演習 6
- 第 8 回 項目 演習 7
- 第 9 回 項目 演習 8
- 第 10 回 項目 演習 9
- 第 11 回 項目 演習 1 0
- 第 12 回 項目 演習 1 1
- 第 13 回 項目 演習 1 2
- 第 14 回 項目 演習 1 3
- 第 15 回 項目 演習 1 4

成績評価方法(総合) 発表。レポート。

教科書・参考書 教科書：テキストをコピーで配布します。

連絡先・オフィスアワー f1566@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	言語情報論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	茂呂 雄二				

授業の概要 日本語の談話分析似ついでの授業である。談話は私たちの生活のことばであり、生活実践に欠かせないコミュニケーションメディアである。この授業では、日本語の談話使用とそれを媒介にして成り立つ知的なプロセスの理解を、実際の談話やテキストデータを分析する手法とともにまなぶ。

授業の一般目標 日本語の談話分析似ついでの授業である。談話は私たちの生活のことばであり、生活実践に欠かせないコミュニケーションメディアである。この授業では、日本語の談話使用とそれを媒介にして成り立つ知的なプロセスの理解を、実際の談話やテキストデータを分析する手法とともにまなぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本語談話の構造、それを操る人間の情報処理機構の社会的な特性を学ぶ。 思考・判断の観点：談話資料の文字化、解釈作業を通じて、人々の社会的な振る舞いと圏認知構造に対して、深い理解をもつ。 関心・意欲の観点：談話の構造と機能を理解して、人の日常生活について適格に理解できるようにする。 態度の観点：談話資料への解釈を続けることで、粘り強い解釈作業ができるようになる。 技能・表現の観点：談話資料の解釈結果を他の学生に提示し理解を得て、わかりやすい表現を学ぶ。

授業の計画（全体） 談話分析の手法を学ぶ。まず談話の構造を機能について理解し、その基礎となる社会文化的アプローチについて学ぶ。その後、実際の談話資料扱い、分析手法の実際を学ぶ。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 談話分析とは何か 内容 談話の構造と機能
- 第 2 回 項目 社会文化的アプローチの基礎 内容 社会文化的アプローチの概要
- 第 3 回 項目 社会文化的アプローチの転回
- 第 4 回 項目 文字化の方法 1 内容 談話資料作成
- 第 5 回 項目 文字化の方法 2
- 第 6 回 項目 相互行為分析 1
- 第 7 回 項目 相互行為分析 2
- 第 8 回 項目 相互行為分析 3
- 第 9 回 項目 グランデッドセオリーアプローチ 1
- 第 10 回 項目 グランデッドセオリーアプローチ 2
- 第 11 回 項目 グランデッドセオリーアプローチ 3
- 第 12 回 項目 トランザクション分析 1
- 第 13 回 項目 トランザクション分析 2
- 第 14 回 項目 トランザクション分析 3
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法（総合） 出席と、分析結果の発表、最終的な試験を、総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：対話と知, 茂呂雄二, 新曜社, 1997 年

メッセージ 積極的に発言を。

備考 集中授業

開設科目	言語情報論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	PHILLIPSJOHNDAVID				

授業の概要 This course is an Introduction to Formal Semantics, the analysis of linguistic meaning. What aspects of the meaning of natural language sentences are important in computational applications? How can meaning be represented in a way that is suitable for use by computer. How can linguistic meaning be used with other information stored in a computer?

授業の一般目標 An understanding of the basic problems and techniques of formal semantics, presented in terms of language description for computational use.

授業の計画 (全体) In this first term, the course will survey the field, and look at how a representation of meaning can be produced automatically from natural language input and then used to get information from databases.

成績評価方法 (総合) Written examination

教科書・参考書 教科書：自然言語処理の基礎, 吉村賢治, サイエンス社, 2000 年；吉村賢治 (著) 「自然言語処理の基礎」 サイエンス社 2000 年 / 参考書：必要に応じてプリントを配布する。

メッセージ 授業では英語をよく使う。

開設科目	言語情報論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	PHILLIPSJOHNDAVID				

授業の概要（中級程度） This continues last term's course on Semantics for Computational Linguistics

授業の一般目標 An understanding of the basic problems and techniques of formal semantics, presented in terms of language description for computational use.

授業の計画（全体） This second term of the course will concentrate on more detailed analyses of particular areas of meaning, including tense, quantification, word meaning, and discourse coherence.

成績評価方法（総合） Written examination

教科書・参考書 参考書：「自然言語処理の基礎」, 吉村賢治（著）, サイエンス社, 2002 年；必要に応じてプリントを配布する。

メッセージ 授業では英語をよく使う。

開設科目	言語情報論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	PHILLIPSJOHNDAVID				

授業の概要 初心者向けのプログラミングの授業。基礎からプログラミングを学ぶ。A beginners' course in computer programming using the programming language Prolog. Prolog is a programming language based on formal logic. Programming consists of entering data. Running the program consists of asking Prolog whether a statement can be proven given the data. Because of its basis in logic, Prolog is particularly suitable for work in syntax and semantics.

授業の一般目標 「プロログ」というプログラミング言語で、プログラミングを基礎から応用までを学ぶ。

授業の計画(全体) Week by week we will introduce the basic techniques of Prolog programming and practice using them.

成績評価方法(総合) 一週間おきに実施するプログラミングの宿題で判定する。

教科書・参考書 教科書：岡田朋子(著)「Introduction to Prolog Prolog入門」(授業で配布します。)/参考書：PROLOGを楽しむ,松田紀之著,オーム社,1993年;記号の世界(コンピュータ入門;5.楽しいプログラミング;2),中島秀之,上田和紀著,岩波書店,1992年;Prolog入門,古川康一著,オーム社,1986年;Prologのソフトウェア作法(岩波コンピュータサイエンス),黒川利明著,岩波書店,1985年;松田紀之(著)「PROLOGを楽しむ」オーム社平成5年中島英之・上田和紀(著)「楽しいプログラミングII」岩波新書1992古川康一(著)「Prolog入門」オーム社1986黒川利明(著)「Prologのソフトウェア作法」岩波新書1989

メッセージ 授業では英語をよく使う。

開設科目	言語情報論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	PHILLIPSJOHNDAVID				

授業の概要 プロログプログラミング（中級） Advanced programming in Prolog プロログで自然言語処理を応用する (NOT for beginners)

授業の一般目標 自然言語処理の基礎から応用までを学ぶ。

授業の計画（全体） プロログで自然言語処理を応用する Natural language programming in Prolog. Three projects: (1) analysis and translation of English and Japanese numbers (2) holding a conversation with the computer in English (3) translation between English and Japanese.

成績評価方法（総合） 一週間おきに実施するプログラミングの宿題で判定する。

教科書・参考書 教科書：岡田朋子（著）「Introduction to Prolog Prolog 入門」（授業で配布します。） / 参考書：PROLOG を楽しむ, 松田紀之著, オーム社, 1993 年；記号の世界（コンピュータ入門；5. 楽しいプログラミング；2), ”中島秀之, 上田和紀著”, 岩波書店, 1992 年；Prolog 入門, 古川康一著, オーム社, 1986 年；Prolog のソフトウェア作法 (岩波コンピュータサイエンス), 黒川利明著, 岩波書店, 1985 年；松田紀之（著）「PROLOG を楽しむ」 オーム社 平成 5 年 中島英之・上田和紀（著）「楽しいプログラミング II」 岩波新書 1992 古川康一（著）「Prolog 入門」 オーム社 1986 黒川利明（著）「Prolog のソフトウェア作法」岩波新書 1989

メッセージ 授業では英語をよく使う。